

平成30年6月

青 藍 会 会 報

第 91 号

徳島大学医学部医学科同窓会

Negative Capability

徳島大学大学院医歯薬学研究部
メンタルヘルス支援学分野教授 友竹正人



灯ともる頃

撮影 播村 佳昭（医学部28期）

青藍会総会開催のご案内

会員各位

平成30年度青藍会総会を下記により開催いたしますので、万障お繰り合わせの上ご出席くださるようご案内申し上げます。

記

総 会

日 時：平成30年7月16日(月)（海の日）10時30分～16時30分

場 所：青藍会館大会議室

行 事：1 議 事

2 青藍会賞受賞者学術講演

・徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床神経科学分野助教

佐 光 亘 先生（医学部49期）

演題「メタ解析が切り開く未来の医療」

座長 原田 雅史 先生

3 学術講演

・徳島大学大学院医歯薬学研究部形成外科学分野教授

橋 本 一 郎 先生（医学部34期）

演題「形成外科学の進歩と展望」

座長 久保 宜明 先生

・徳島大学大学院医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学分野教授

安 倍 正 博 先生（医学部30期）

演題「多発性骨髓腫に対する新規治療法の開発」

座長 粟飯原 賢一 先生

・徳島大学大学院医歯薬学研究部顕微解剖学分野教授

鶴 尾 吉 宏 先生（医学部28期）

演題「ステロイドによる生体調節」

座長 勢 井 宏 義 先生

懇親会 昼食を兼ねた懇親会を開催いたします。

日 時：平成30年7月16日（月）（海の日）12時30分～14時15分

場 所：青藍会館2階「旧レストラン・エルボ」

会 費：2,000円

準備の都合上、出欠のご返事は7月6日(金)までに同封のハガキでお知らせください。

青 藍 会

会 長 桜 井 え つ



医師にとっての働き方改革とは

青藍会副会長

福 島 泰 江 (医学部24期)

24期の福島です。今まで卷頭言を書いていただいた先生方は、大学の先生方や医師会の役員の先生とか地域でご活躍されている先生方でして、今回副会長の私に依頼があった時にさてどうしたものかと悩みました。そこで、昨今世間でいろいろ取り上げられている「働き方改革」というテーマは、これから医師の働き方や生活にどんな影響が出てくるのかと考え書くことにしました。

電通の若い女子社員の自殺という悲しい一つの事件が、これほどまでに世間を大きく動かし人々の意識を変えることになるとは、当初誰も想像できていなかつたのではないかでしょうか？企業ではノーカー残業日とかプレミアムフライデーとか、一部の企業では上司が一定の時間になると消灯して回るとか、またパソコン等を使って在宅での仕事が可能になるなど一昔前の日本の企業では考えられないことが次々と起こっています。実際当院に面会に来るMRさんに話を聞いても、以前より働く環境が随分変わり「楽になりました」と言う方が増えました。社会全体の人々の意識の変革がとても大切な事で、それが「働き方改革」につながっているのではないかと感じました。行政も動き出し91巻がお手元に届く頃には、何らかの形で法律の定める所となっているかと思います。

ところで医師の働き方改革はどうなっているのでしょうか？専門職の扱いでまだ先の話のようです。そこで少し昔の自分の時代を振り返ってみたいと思います。

大学病院での勤務は、時間を無視して仕事がある程度めどがつくまで続きました。回診の前の晩などは下調べが納得いくまで皆一所懸命で深夜になることも珍しくありませんでした。私の同僚などは毎晩大学の当直室で寝ている人もいました。今の若い先生方には想像も出来ないことかもしれませんね。私自身は結婚をして出産、育児と経験し仕事からは少し離れた時期がありました。この間パートナーは仕事が一番でほとんど家に居ることがなかったと記憶しています。たまに家で夕飯を一緒に食べても、病院から電話があると直ぐに病院に戻るという生活でした。この頃の私はそれが普通のことと思いあまり不満を感じることもありませんでした。でもしばらくして後輩の先生方が、自分のパートナーが仕事の大切さを充分理解してくれなくて、「離婚の危機」だとぼやいてることも耳にしました。その次がアメリカのTV番組で（確かERだと思いますが）大変忙しい仕事をしているけど、時間がくればさっと交替して自分の時間を持つことができる話を見て日本と全然違うことに驚きました。数年前には、フランスに留学していた先生から留学先のボスが女性医師で夕方定時になるとさっと帰られると言う話を聞きました。周囲の先生方もそれを当然のこととして受け入れているとのことでした。社会全体の人々が日本の医療制度や、医師に対する考え方を変えていかなければ簡単には医師の働き方改革は難しいのではないかと考えます。

愚息が某大学病院で勤務していましたが、彼曰く「大学病院で働く医師全員に時間外手当を支給していたら病院経営が成り立たない」と。医師一人一人の生活や健康状態、更には病院経営との兼ね合い等を考えると、現状では一般的のサラリーマンの方々のようには簡単ではないと思いますし、国家試験に合格したとは言え医師としての経験の少ない若い先生方の研修をどう成り立たせていくのかということも問題となると思います。でも本当は私達の駆け出しのころとは違う、少し時間にも余裕のある研修医時代や医師の働き方を考えてほしいと思います。

私は約30年間田舎の開業医として働いてきました。今まで医師を続けてこられたのも開業医になります、ある程度自分で時間の都合がついたことも良かったのではないかとも考えています。医師としての人生は長いです。定年もありません。自分で医師を辞めることを決められます。ゆっくり自分の人生も考えながら、医師としての働き方を考えていくのはどうでしょうか。

目 次

○題 字	友 竹 正 人
○写 真	播 村 佳 昭
○巻 頭 言	福 島 泰 江
○田村禎通先生が徳島文理大学学長にご就任	田 村 禎 通 1
○徳島大学医学部への支援について	丹 黒 章 3
○クラウドファンディングへの挑戦	松 浦 哲 也 5
○青藍会奨励賞の授与	
○徳島大学の現況	野 地 澄 晴 8
○徳島大学病院の現況	永 廣 信 治 9
○徳島大学医学部の現況	丹 黒 章 10
○定年退職教授挨拶	玉 置 俊 晃 12
	土 井 俊 夫 13
○「クリニカルアナトミー教育・研究センター」および 「メディカルトレーニングラボ」報告	金 山 博 臣 15
○徳島大学病院キャリア形成支援センター活動報告	赤 池 雅 史 17
○卒後臨床研修センターの活動報告	安 倍 正 博 18
○地域医療教育の活動報告	谷 憲 治 20
○新入生歓迎会	
○青藍会賞論文募集（平成30年度）	
○青藍会賞受賞者一覧（平成22年度～平成29年度）	27
○青藍会行事予定表（平成30年度）	28
○支 部 紹 介	29
○支 部 だ より	
東 京 支 部	上 田 茂 31
近 畿 支 部	播 村 佳 昭 33
奈 良 支 部	野 中 家 久 34
兵 庫 支 部	樋 林 勇 35
岡 山 支 部	尾 上 寧 37
○会 員 通 信	
ポプラ会会報 第86報, 第87報	四 宮 孝 昭 39
徳島大学医学部第6期生の平成29年度同期会報告	安 岡 劼 41
徳大医学部13期生同窓会（卒後50周年記念同窓会）報告	岩 田 政 泰 42
同 期 の 桜	村 田 豊 43
吉希を迎えたフリーター	荒 瀬 誠 治 44
小西康備勝浦病院長から興味深いマムシ咬傷例	丹 黒 章 · 板 東 浩 45
「ほぼ還暦同窓会」	吉 岡 一 夫 46
seiran29 (vol.13) と, 第14回同期会（徳島市）のご案内	本 田 壮 一 47
第38期生同窓会を徳島で開催して	上 村 浩 一 48
「山田博胤 特任教授就任記念祝賀会」報告	渡 迂 浩 良 49
松崎正司君を偲んで	今 泉 昌 利 51
松崎正司君を追悼する	宮 崎 瑞 夫 52
俳 句 句	鍋 正 広 54
白 谷 山 夢 · 小 谷 雄 二 · 霽 俊 一 · 真 鍋 正 広	
○留 学 記	
ハノーファーで感じたこと	川 村 晨 55
○病 院 紹 介	
徳島赤十字病院	長 江 浩 朗 56
○徳大関係医療機関名簿	
○徳大関係医療機関協議会会則	58
○第54回徳大関係医療機関協議会総会	香 美 祥 二 65

○徳島大学病院 外来担当医一覧表（医科診療部門）	67
○教室（研究分野）の現況	
「ストレス制御医学」から「病態生理学」分野へ	六 反 一 仁・西 田 憲 正 72
	桑 野 由 紀・西 川 達 哉
徳島大学消化器内科学分野10年間の歩み	高 山 哲 治 73
○第3回 MD-PhD コース近況報告会を開催しました	石 澤 有 紀 75
○準会員だより	
自身の MD-PhD コースの意義とこれから	藤 本 将 太 77
○学友会活動(医学部学友会クラブ・サークル一覧)平成30年度	78
○大学内の動き	
徳島大学大学院医歯薬学研究部、徳島大学病院 教授・准教授一覧表	79
徳島大学病院 科長（部長）等一覧表	81
新任教授紹介	富 田 江 一 83 廣瀬 隼 86 高木 康志 88 松浦 哲也 90
准教授・講師の異動	92
康樂賞の受賞	93
大塚芳満記念財団奨学助成金の受賞	93
学 位 授 与	94
徳大ニュース	95
メディア（新聞等）にみる医学部・青藍会	96
○徳島大学同窓会連合会の活動報告	99
○医学部教育研究振興基金への寄付のお願い	丹 黒 章 100
○青藍会の動き	
青藍会出身教授一覧	101
青藍会会費納入状況	103
会費納入のお願い	105
会 員 の 異 動	106
医学部64期卒業生（平成30年3月卒業）	109
伝 言 板	113
原稿・写真をお待ちしております	114
投 稿 規 定	115
物 故 者	116
事務局からのお願い	117
◇個人情報の取り扱いについて	117
◇会員名簿について	117
ご注意ください!!	118
○講演会のお知らせ	119
○青藍会館利用案内	120
青藍会館利用状況	121
○統 計 資 料	
医学部・教育部学生現員表	125
医学部卒業（修了）者数	126
平成30年度 徳島大学医学部入学試験（医学科）合格者・入学者状況調	127
医師国家試験年度別合格調	128
平成29年度 徳島大学医学部医学科卒業生の勤務地調（都道府県別）	129
平成29年度 患者数の状況	129
平成30年度 新規卒業生臨床研修者数	129
○編 集 後 記	板 東 浩 130

田村禎通先生が徳島文理大学学長にご就任

徳島文理大学学長就任のご挨拶



平成30年4月1日付で、
徳島文理大学学長に就任いたしましたので、青藍会会員の先生方に一言ご挨拶申し上げます。

私は昭和46年3月徳島大学医学部を卒業後、徳島大学医学部第二内科教室に入局し、1年間の内科研修の後、昭和47年4月より5年間、藤井節郎教授の主宰する徳島大学医学部附属酵素研究施設酵素生理部門で研究生活を送りました。

藤井先生は、基礎研究は臨床に貢献できるものでなければならぬと日々言っておられ、研究分野は、蛋白分解酵素、脂質代謝、癌と多岐に亘り、教室は活気に溢っていました。私は蛋白分解酵素の研究グループに属しました。この当時、藤井先生の主導のもと、メーカーと共同で開発されたFOY、フォイパンが30年以上を経過した現在も臨床で使用されていることに研究に関わった1人として大変うれしく思っております。昭和52年4月に徳島大学第二内科教室に復帰し、森博愛教授のご指導のもとで、内科・循環器病の臨床と研究に従事しました。第二内科では、心臓刺激伝導系（特殊心筋）の代謝特異性、2型糖尿病モデルの心臓障害の成因等の研究を行いました。

平成1年7月、国立療養所東徳島病院内科へ転出、その後、平成5年7月国立善通寺病院へ転勤し、18年間勤務しました。善通寺病院で院長を務めた8年間は、独立行政法人としての経営の確立と香川小児病院との統合を推進することでした。糸余曲折を経て平成23年4月、統合新病院の着工にこぎ着け、平成25年5月「四国こどもとおとなの医療センター」として開院、現在に至っています。

平成24年3月善通寺病院を定年退職後、同年4月から徳島文理大学に勤務し、保健福祉学部長・看護

徳島文理大学学長

田 村 禎 通 (医学部17期)

学科教授、平成29年4月、副学長を経て、平成30年4月より学長に就任しております。

徳島文理大学は、建学の精神「自立協同」に基づき、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしています。明治28年(1895年)の開学以来、123年にわたって受け継がれたこの精神のもと、68,000名を超える卒業生を送り出しております。現在、文系（文学部、音楽学部、総合政策学部）、理系（人間生活学部、理工学部）、医療系（薬学部、香川薬学部、保健福祉学部）と短期大学部の9学部27学科6大学院3専攻科を有する総合大学に発展してきました。学部の壁を超えた教育研究活動の展開により、文理融合の人材養成をめざしています。

時代は、急速な勢いで少子高齢化が進んでいます。とくに地方の少子化の進行が顕著であり、若者の大都市志向が加わって地方の大学の志願者減少につながっています。本学も例外ではなく、少子化社会のなかで、いかに存在感を發揮し、多様な人材を育成するための役割をどのように果たしていくかが、問われることになるとを考えます。少子化時代においても選ばれる大学となるためのさらなる改革をめざす所存です。

藤井節郎先生は、厳しい指導のなか、日々、「学生や若手研究者に降るような愛情を注げ」と話していました。この言葉を胸に刻み、学生さんに接していくことを考えています。

本学は、地域連携センター、公開講座、学内外の音楽家による演奏会、イルミネーション等、地域の人々に親しまれ、愛される大学をめざしてきました。また、学生の自主防災クラブの活動が地域から評価され、地域との相互理解を深めることに貢献しております。今後とも地域に根ざした大学をめざし、地域の期待に応えていく所存です。

本学は、徳島県、香川県を中心に、多数の施設で

各種の実習を受けていただいており、その多くの施設で青藍会の先生方にお世話になっております。青藍会の皆様には今後ともさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和46年3月 徳島大学医学部医学科卒業
昭和46年6月 徳島大学医学部附属病院医員
(第二内科)
昭和47年4月 徳島大学大学院医学研究科
(酵素研究施設) 入学
昭和49年11月 徳島大学大学院医学研究科
(酵素研究施設) 退学
昭和49年11月 徳島大学助手医学部附属酵素研究
施設
昭和52年4月 徳島大学医学部附属病院医員
(第二内科)

昭和54年4月 徳島大学助手医学部附属病院
(第二内科)
昭和57年5月 徳島大学講師医学部附属病院
(第二内科)
平成1年7月 国立療養所東徳島病院内科医長
平成5年7月 国立善通寺病院臨床研究部長
平成6年10月 国立善通寺病院副院長
平成15年10月 国立善通寺病院長
平成16年4月 独立行政法人国立病院機構善通寺
病院長
平成24年4月 徳島文理大学教授保健福祉学部看
護学科
平成24年4月 徳島文理大学保健福祉学部長
平成29年4月 徳島文理大学副学長
平成30年4月より現職



徳島文理大学構内

徳島大学医学部への支援について

医学科学生の臨床実習へのご支援に対するお礼

徳島大学医学部長

丹 黒 章 (医学部27期)

青藍会会員の皆様におかれましては平素より母校の教育・研究に対しご理解と絶大なるご支援を賜り衷心より御礼申し上げます。このたびはご厚意に甘え、4年生が臨床実習を開始するにあたり白衣購入にご支援を賜りました。

CBT (Computer Based Testing) は、医学教育モデル・コア・カリキュラムで示されている臨床実習開始前までに取得すべき知識の総合的理解度を、コンピュータを用いた客観試験で評価するものです。また、OSCE (Objective Structured Clinical Examination) は診察技術を評価するもので、医師としての資格のない医学生が、患者さんに接して医療行為を行うための不可欠な要件として、学生の能力と適性を評価し、質を保証するため診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）に参加する学生の基本的診療技能と態度を、客観的に評価するものです。CBT と OSCE に合格した学生には「Student Doctor」の称号が付与され、自覚を持って臨床実習に参加します。

徳島大学でも、1月から大学病院等で臨床実習を行う医学科4年生を対象に、医療現場で実習を行う心構えと自覚と持たせるべく、Student Doctor 認定証を一人一人に手渡し、白衣を授与する「白衣授与式」を開催しています。本年も1月15日（月）に桜井会長ご臨席のもとご挨拶も賜り、白衣授与ならびに Student Doctor 認定証授与式を開催いたしました（写真）。

実は年々この白衣が不足してきており、運営費交付金の削減から財源捻出に苦慮しておりました。この度、青藍会からこの運営費用50万円を寄付していただきました。紺糸で青藍会の刺繡を入れたブレザー型白衣100着（男性60着、女性40着）を総額367,200円で購入し、残額を学生用貴重品ロッカー1台（169,196円）のうち132,800円に充当させて

いただきました。

昨年度も卒業生の青藍会会費納入率は100%です。しかし、卒後6年目以降の納入率が極めて悪いことは非常に憂うる事態です。CBT,OSCE 成績優秀者への青藍会賞授与だけでなく、青藍会の銘の入った白衣を着て臨床実習に臨む学生たちが青藍会の一員であるとの自覚を持ち、卒業後も同窓会費納入率向上に寄与してくれることを期待しております。

本年度の使用明細は以下の通りです。

寄附金500,000円=367,200円（白衣）+132,800円（小物入れロッカー）

①白衣

メンズホワイトブレザー

60着 3,000円 180,000円

レディスホワイトブレザー

40着 3,000円 120,000円

左袖プリント（徳島大学病院）

100着 250円 25,000円

タグ部分 ネーム（青藍会）

100着 150円 15,000円

計 340,000円

消費税額 27,200円

合計 367,200円

②ダイヤル錠式 20人用 小物入れロッカー

1台 131,478円

消費税 10,518円

輸送・設置費 28,000円

合計 169,996円

寄附金132,800円+学務課管理運営経費（教育）37,196円で購入しました。

ロッカーは青藍講堂2階講義室に設置し、臨床実習中の学生が貴重品入れとして使用します。



徳島大学医学部白衣授与・Student Doctor 認定証授与式

クラウドファンディングへの挑戦

野球界の未来を拓く子どもたちのために少年野球選手のひじ障害を防ぎたい！

松浦 哲也 (医学部39期)

徳島大学が推進するクラウドファンディング (Crowdfunding : 以下 CF) に挑戦し、目標を達成したので報告します。まだ CF 自体が周知されていないと思うので、簡単に CF について説明します。CF は一般的には中小企業などが新製品を開発・販売する際や新サービスを提供する際にインターネットを利用して資金集めをするものです。大学で行う CF は、研究者の研究や大学・学生の取り組みを社会に認知してもらい、多くの方々の共感を得て事業費を支援していただくものです。徳島大学では平成28年度初頭から研究者が CF に挑戦を始めました。

「少年野球肘」は整形外科教室の研究テーマのひとつであり、毎年実際の大会現場に出向いて検診活動を行ってきました。検診を通じて得られた疫学調査の結果、診断法の確立、治療の体系化や予防法の提言は一定の評価を得て、社会貢献活動としても広く認識されるようになりました。ただ検診はすでに発生した障害の早期発見と早期治療を目的とした「二次予防」であり、障害の発生そのものを予防する「一次予防」ではありません。今後は一次予防策を提示し、その実行を可能とする環境つくりに注力したいと考えています。こうした臨床現場に直結した研究の研究費を確保するには、関連学会の助成金に応募する方法がありますが、必ずしも獲得できるものではありません。受益者負担の観点からも、野球に関与している関係者の方々の共感を得て研究を展開するのが健全だと考え、CF に挑戦することにしました。

CF を実際に実行する際、事務作業や情報発信での負担が懸念されますが、徳島大学が平成28年の11月に独自開発したICT プラットフォーム「おつくる」(<https://otsucle.jp/cf/>)からの支援が得られます。「おつくる」は一般社団法人大学支援機構が運営しており、私の CF でも事前協議からプロジェクト作成、情報発信や支援者との連絡調整など大変お世話になりました。

私の CF は資金応募期間が2017年10月26日～12

月25日までの2か月、目標金額が50万円で挑戦しました。また CF には目標額に達しなければ研究費を一切入手できない「達成型」と達しなくとも入手できる「オールイン型」があり、オールイン型を選択しました。これは研究内容が、一定額に達しなくても実行可能であることが理由です。最終的には55の団体・個人から目標額の207%に相当する1,036,000円の支援をいただきました。青藍会および会員の先生方からもご支援をいただき、紙面を借りて深謝申し上げます。

CF は研究費獲得が目標ですが、大学内で行っている研究内容を一般の方々に分かりやすく理解していただく「プロモーション」の役割もあります。現在、臨床研究は様々な面で実行が難しくなってきています。今後は以前にも増して社会からの共感を得ることが必要であり、CF は良い手段になりうると期待できます。さらに今回のような事業内容であれば、大学の使命のひとつである「社会貢献・地域貢献」にも寄与できます。興味を持たれた方は、一度「おつくる」に連絡されることをお勧めします。

(088-656-9854 <https://otsucle.jp/cf/start/>)



練習会場で少年野球選手の肘をチェックする筆者

青藍会奨励賞の授与（平成29年度医学研究実習ポスター発表者優秀者）

青藍会奨励賞を受賞して（今後の抱負など）

医学科3年 増田 拓也

この度は、青藍会奨励賞を賜り、大変光栄に思います。このような賞がいただけたのも、熱心に指導してくださった先生方、困った時にフォローしてくださった院生の方々、同じ研究室に配属され共に学んできた友人たちのおかげであり、心から感謝いたします。

今後多くの困難が待ち受けているとは思いますが、奨励賞の名に恥じぬよう、成長を重ねてまいります。

医学科3年 篠 拓朗

この度は青藍会奨励賞に選んでいただき有難うございます。約9ヶ月間研究に取り組んだ成果を評価していただいて嬉しく思います。

医学研究実習の説明会の時に米村教授のおっしゃった「一緒にサイエンスを楽しみましょう。」という一言に惹かれ、細胞生物学分野に入り、本当に医学を科学として味わうことができました。同時に、研究者になるためには忍耐強さ、思考の柔らかさが必要不可欠であると学びました。

医学科3年 藤川 未季

このたびは、青藍会奨励賞を頂き、誠にありがとうございます。本研究を評価していただけたのは、熱心にご指導いただいた先生方をはじめ共に支え合った友人のおかげです。研究を進めていくにつれ思いがけない結果が得られたことで、より深く考えて研究を行うことができました。今回の貴重な経験で学んだ事を今後も大切にしていきたいと思います。

医学科3年 佐藤 美悠

この度は、青藍会奨励賞という素晴らしい賞をいただき大変嬉しく思います。約8か月の研究室配属の中でひとつの研究テーマを設けてまとめていくにあたっては、生体防御医学分野の先生方に丁寧なご指導をしていただきました。心から感謝申し上げます。今後、感謝の気持ちを忘れることなく、研究を通して得た知識や経験をもとに一層努力していきます。

統合生理学分野配属 吉川 紘平

この度は青藍会奨励賞に選出していただきありがとうございました。この医学研究実習では、先生方のご厚意で自分が興味を持った内容について実験さ



受賞者挨拶する荒瀬誠治副会長

せていただき、その結果このような賞を頂けたこと、非常に嬉しく思っています。この実習を通して学んだことや感じたことは必ず今後の自分にとっての糧となると感じました。今後も、基礎・臨床の枠に囚われず広い視野と行動力をもって医学・医療に貢献できるような人間になるべく、一層努力したいと思います。

医学科3年 王 莉莉

この度は、青藍会奨励賞という栄えある賞を賜りましたことを深く感謝いたします。私は、配属先の先生方の探究心の強さや知識の幅広さ、論理的思考力の高さに非常に感銘を受けました。そして同時に、自分の知識がまだまだ不十分で浅いものであることを痛感しました。これから勉強を進めていくにあたって、先生方のような学問に対する姿勢を忘れずに、知識を深めていきたいと思います。

医学科3年 大上 路生

この度医学研究実習において青藍会奨励賞を受賞

したことを大変嬉しく思います。徳島大学に入学した当初は、やはり医学といえば臨床医学といった印象が強かったのですが、この実習を通して研究手技、研究に対する考え方や心構えを学ぶことで医学への認識が大きく変化しました。こういった有意義な経験の場を設けて頂いた教員の皆様、また支援してくださっている青藍会の方々への感謝の気持ちを忘れず、今回得た経験を将来へと生かしていきたいと思います。

医学科3年 中西 祥子

このたび、医学研究実習のポスター発表において青藍会奨励賞を頂き大変光栄に思います。この発表を通じて、研究内容を改めて客観的に見直すことができ、理解を深めることができました。今後もこの貴重な経験を忘れず、勉学により一層励んでいきたいと思います。青藍会を運営してくださっている皆様、これまで指導していただいた先生方や支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。



平成29年度青藍会奨励賞受賞者 平成30年1月9日

徳島大学の現況

大学産業院の設立について

徳島大学長

野 地 澄 晴

2018年になり、国立大学法人の今後に関するニュースが次第に多くなってきています。例えば、3月23日の日経新聞においては、その一面に名古屋大学と岐阜大学が、運営法人の統合に向けて4月下旬に協議に入る旨の記事が掲載されました。「東海国立大学機構（仮称）」を設立し、名古屋大学、岐阜大学に加え、他の大学も加わる可能性もあるようです。この記事に先立ち、3月20日に、名古屋大が、国際競争力強化をめざす国立大を支援する文科省の「指定国立大学法人」に指定されたのですが、その申請にあたり、複数の大学が協力する「マルチ・キャンパスシステム」構想が盛り込まれていたそうです。

“それが指定の一つの条件だったので”はと噂されています。

徳島大学はどうするのか？を日々決断しなければならない状況になってきました。例えば、「四国国立大学機構（仮想）」を設立して、四国の5国立大学が1法人の中に入るとするなどの考え方や、「関西国立大学機構（仮想）」に入るのが良いとか、様々な意見があります。もちろん、独立独歩の世界を生きる道もあるかもしれません。このような中で、いずれの道を進むにしても徳島大学が継続的に繁栄するように、大学改革を推進しておかなくてはなりません。特に、国からの運営費交付金が継続して1.2%（約1億円）削減される状況においては、いかにして外部資金を獲得するかが重要なポイントになります。その目で医学部と大学病院を見ますと、この組織は非常に良くできた組織であると感じています。その理由は、3点あります。1）基礎研究から臨床研究を経て、実際に多くの患者が救われるまでの全てが揃っている。2）医学部には、基礎系と臨床系の教員がおり、分業体制が明確である。3）高度な医療体制を独立採算的に維持している（多くの教員の入件費は大学本部が負担しており、収益率が高い）。

もちろん、様々な問題もありますが、「医学部+大学病院」の組織は、大学が生き残るために仕組みを示唆しているように感じています。この良い組み合わせを他の学部にも応用できないかと考え、2018年4月から、大学産業院を設立することにしました。つまり、1）基礎研究から応用研究を経て、実際に様々な課題を解決する（例えば、製品を製作）までの、全て揃った組織の構築。2）理工学部などの学部においては、基礎系教員と応用系教員の分業体制を明確にする。3）高度な産業を産む体制を独立採算的に維持する。これらを可能にする組織として、「学部+産業院」を考えています。応用系教員は、産業院を併任し、企業との共同研究、スタートアップの起業などにより、課題を実際に解決し、収益をあげます。さらに、既存の課題に関連する企業から社員を教員として大学に派遣していただき、学内研究者と共同開発をしながら、学生の指導や講義も担当していただくことを考えています。例えば、産業院において、応用系教員が臨床系教員と共に医療用のロボットや器具を開発したり、創薬などができるなどを期待しています。もし、産業院において収益をあげることができれば、その一部を学部や基礎系研究に還元することも考えています。青藍会の会員の皆様で、この産業院をご利用されたい方がおられましたら、是非とも直接ご一報いただけすると幸いです。

最後になりましたが、2019年は徳島大学創立70周年を迎えます。様々な記念行事を開催いたしますので、是非ご参加いただければと存じます。また、キャンパスの整備やICT化などの記念事業も予定しておりますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

徳島大学病院の現況

徳島大学病院長

永 廣 信 治

徳島大学病院の平成29年度の活動と現況について報告します。

平成29年度は病院の品質目標を1. チーム医療の推進, 2. 患者環境の改善, 3. 危機管理として、各部署で具体的目標を掲げ、達成に向けて努力してまいりました。チーム医療の推進では、電子クリニカルパスの導入を進め、各全診療科で複数疾患でのパス運用が可能となり、年度末にはクリニカルパス大会も開催しました。今後継続的にパス導入を推進し医療の品質向上に努めたいと思います。患者環境の改善に関しては、病棟や外来の老朽化した設備の改善や分かりやすいサインの設置を行いました。総合メディカルゾーン構想のもと隣接の県立中央病院との境界壁が撤去され、施設内に乗り入れるバス用の道路や外構整備を継続し皆様にはご不便をかけていますが、今秋には完成予定です。危機管理面では、昨年10月に県立中央病院と合同でトリー・アージュを主とする災害訓練を行いました。今後は大規模地震を想定したBCP（災害後の業務継続計画）を見直し、BCPに順じた訓練を行う予定です。

ロボット支援下内視鏡手術に用いられているダビンチが、昨年11月から第4世代のダビンチXiにバージョンアップされ、益々高性能のロボット手術が可能となりました。今年度の診療報酬改定で泌尿器科領域だけでなく、消化器がんや肺がんなどにもロボット手術の適用が認められ、今後本院でも行う予定ですので患者さんの紹介をお願いいたします。超高齢化社会となって、益々低侵襲の高度手術が必要とされており、当院でも最高の高度医療を安全に提供できるようにいたしたいと思います。心臓血管外科と循環器内科が協力して行う経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）も高難度新規医療として症例

を重ねています。昨年正式に発足した総合スポーツ医学センターも、スポーツ選手の障害の診断や予防、治療に加え、本年3月の徳島大学病院市民フォーラムでは「スポーツ医療」と題して市民への啓発を行いました。

研究面では、いよいよ臨床研究法が正式に運用開始されます。医師主導型や企業の資金で未承認医薬品の臨床研究を行うような特定臨床研究については、審査する委員会の認定許可を厚労省に申請し、本年3月30日付で「徳島大学臨床研究審査委員会」として正式に認定されました。今後国民に信頼される臨床研究の推進に尽力したいと思います。

ICTを用いて徳島県全域を網羅する医療連携ネットワーク整備事業（阿波あいネット）も昨年末から参加登録を開始しました。双方向性に医療情報を共有でき、情報システムが異なっても連結可能で、救急や災害時にも医療情報が確保できる利点など、近未来の医療連携としては極めて有用なツールになると思います。現時点では徳島大学病院を中心に登録活動を行い、3月末で15,000人を超える患者さんや家族、住民に登録いただきました。徳島大学の職員や家族にも登録をお願いしていますので、徳島在住の青藍会の会員およびご家族の皆様には、是非登録をお願いします。登録は、阿波あいネットのホームページから同意書をダウンロードし事務局に送付いただくことで可能です。

さて今年度の品質目標は、1. 機能するチーム医療の確立、2. 信頼される病院づくり、3. 優しい病院づくり、といったしました。患者さんや職員の満足度が最高のものになる病院づくりのために、一丸となって取り組みますので、青藍会会員の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

徳島大学医学部の現況

医学部の現況と新年度への所信

徳島大学医学部長

丹 黒 章 (医学部27期)

今年の冬はこのほか厳しく、富山や北海道など各地で豪雪による甚大な被害が報道されました。平昌オリンピックでは、フィギュアスケート、ジャンプ、ノルディックだけでなく、スピードスケートやカーリングなど多くの選手が期待に応えてくれ、冬季オリンピックでは最多のメダル獲得数で、「ソダメー」という可愛い北海道弁が日本中を和やかにしてくれました。そのせいなのか今年の春の訪れは格段に速く、全国各地の開花宣言も1週間早いという暖春です。

先週開花した徳島の桜も、この原稿を書いている4月5日現在、すでに散り始めている状況です。蔵本キャンパスから眺める「眉山」も処々にピンクをちりばめ、山全体が生気に満ちています。以前にも申し上げましたが、私は43年前に徳島大学に入学し、3年目からこの蔵本3丁目18番地の15の住人になり、2年半をキャンパス内の、今は青藍会館が建つ「学生寮」で暮らしていました。3月末には全室の畳を持ち出して天日干し、大掃除をして新入生を迎えます。1年のうちでのんびりとした、期待に胸が膨らむシーズンでした。

本年度の第112回医師国家試験の合格発表がありました。本年から試験も3日から2日間に短縮されました。本年度の徳島大学の合格率は88.1%（104/118）（全国平均90.1%）でした。新卒者が90.7%

（98/108）（全国平均93.3%）、既卒者が60%（6/10）（全国平均63.9%）です。医学部全体では栄養学科で、管理栄養士は全体で92.6%（20/54）、新卒者は96%（全国平均60.8%）でした。看護師免許は合格率98.5%（67/68）（全国平均91%）で、保健師が94%（47/50）（全国平均92.9%）、診療放射線技師が94%（29/35）（全国平均75.3%）、助産師が100%（7/7）（全国平均98.7%）、臨床検査技師が100%（19/19）（全国平均79.3%）でした。

さて、徳島大学に昨年度新たに教授としてお迎え

したのは微生物病原学分野の野間口雅子先生、機能解剖学分野の富田江一先生、医療情報学分野の廣瀬隼先生、脳神経外科の高木康志先生、生体機能解析学分野の遠藤逸朗先生、医用画像情報科学分野の芳賀昭弘先生です。

3月でご退職されたのは薬理学分野の玉置俊晃名誉教授、腎臓内科学分野の土井俊夫名誉教授のほか、定年を前に、病態病理学分野の坂下直実教授、救急集中治療学分野の西村匡司名誉教授、人類遺伝学分野の井本逸勢教授がご退職されました。皆様のご貢献に心から感謝し、敬意を称します。ご存知のように西村教授は徳島県立中央病院病院長に就任されました。

徳島大学の運営費交付金は2004年の156億6,900万円から2016年には125億4800万円へ20%も削減されました。全国では1兆2415万円から1兆945億円と11%ダウンです。予算削減にともなう人件費削減が全国的に施行され、定年退職後のポスト不補充が多くの大学で施行されております。徳島大学でも人件費削減を推進するため全学人事委員会が設置され、定年退職のポストに関しては原則1年間不補充とすることが今春から実施されることになりました。そのポジションを早期に回復させるには部局あるいは病院が人件費を捻出しなければなりません。不思議な話ですが本当です。

医学部の教授は、人命にかかる医療系国家資格の取得を目指す学生の教育だけでなく、地域医療、行政との密接なかかわりを持つとともに将来の国民の健康・福祉に寄与する研究を遂行しています。研究費や寄付金も他学部に比較して高額であり、臨床系の教授では、病院への貢献が甚だ大きく、多くの患者の診療を行い、大学から支給される俸給の何十倍の病院収益にも貢献しています。そういう意味で、医学部で一律に人事凍結を行うのは大学にとって不利益であるという趣旨の嘆願書を医学部教授会全員

の署名をもって本部に提出しております。

運営費交付金の削減分の一部は重点配分される全国の競争資金にまわり、本学でも多くの改革に取り組むとともに予算獲得するべく研究体制の強化に励んでおりますが、教授不在の期間が長ければ予算獲得にも影響を及ぼすことになります。職員や分野の業績はKPIという総合的な点数で評価されますが、このような個々の病院収益への貢献度は計算されず、地域、大学への貢献の軽重も図ることは難しいとして参考にしかされません。

地域医療をさらに崩壊させかねないと世論が沸騰し、塩崎恭久厚生労働大臣の異例の大蔵談話で1年間延期となっていた一般社団法人日本専門医機構による専門医登録が本年から始まりました。平成29年4月に厚生労働省で開催された「今後の医師養成のあり方と地域医療に関する検討会」で①専門医はすべての医師が取得しなければならないものではなく自己研鑽と位置付ける。②地域医療従事者などに配慮したカリキュラム制を設置する。③市中病院も重要な研修拠点として大学病院に研修先が偏らないなどの方針が示され、「専門医制度新整備指針」と運用細則が改定されました。

平成30年4月から新制度による研修を開始する専攻医については10月10日から11月15日に一次登録が、12月16日から1月15日にかけて二次登録がWebシステムを介して行われました。今年4月から研修プログラムを開始する約8400人の専攻医の内訳は、内科：2,671、小児科：562、皮膚科：270、

精神科：430、外科：807、整形外科：550、産婦人科：442、眼科：327、耳鼻咽喉科：264、泌尿器科：271、脳神経外科：224、放射線科：263、麻酔科：498、病理科：114、臨床検査科：6、救急科：266、形成外科：162、リハビリテーション科：78、総合診療科：184名(NIKKEI MEDICAL 605, 2018.4)で、ほとんどの診療科で例年通りでした。総合診療科ができ、減員が危惧されていた内科医はそれほど大きくは減少してはいませんが、都道府県別でみると東京都に基幹施設を置く研修プログラム採用者は1,825名で全国の21.7%が東京に集中しています。初期研修を行った人数からの増加も475名、他県から移ってきた専攻医は710名で東京集中は否めないものの、専門医機構は、他県からの移行は主に首都圏、山梨、長野、静岡で、全国からの集中はほとんどなかったと説明しています。徳島県の専攻医は60名で昨年の52名から若干の増加でした。

間もなく眉山の景色も新緑にかわり、栗の花の色に変わります。何万年も変わることのない自然の移り変わりに比べ、かつてない少子高齢化とともに日本の教育現場は激動の時代を迎えています。国の借金は漸増する一方で、地域の現役労働人口は都会へ流出し漸減しています。ますます高齢化の進む地域での医療の質を維持するために医療人を育成していくことが任務であるわれわれは、発生が不可避な南海地震などの天災に対しても準備していかなければなりません。

定年退職教授挨拶

退職のご挨拶

徳島大学名誉教授

玉置俊晃(医学部23期)

平成30年3月末をもって薬理学分野教授を定年退職しました。平成8年8月1日付けで母校の徳島大学に戻ってきて21年8月の長きにわたり、薬理学分野の教育・研究と医学部の組織運営にたずさわりました。薬理学分野を担当させていただいたものの、不安や心配が満載の船出でした。振り返ってみると、勝手な思い込みかもしれません、教育・研究分野でささやかですが成果を出すことが出来た様に感じています。これも、青藍会の諸先輩方に暖かいご指導とご支援をいただいた賜と、心より感謝しています。暖かい家族と多くの弟子や教育研究仲間に囲まれて、無事に定年退職の日を迎えることが出来たことに、大きな幸せを感じています。有り難うございました。

徳島の地域医療に貢献したいとの子供の頃からの思いを抱いて、昭和46年4月に徳島大学医学部に入学しました。卒後、泌尿器科医として医療活動を始めましたが、色々な人の出会いや偶然や間違いが積み重なって、基礎医学の研究活動の分野に移動しました。このまま基礎医学の研究活動を続けていても良いものかと思い悩んで香川医科大学薬理学講座に勤務しているときに、青藍会の先輩方にご推薦いただき、徳島大学医学部薬理学講座の教授に就任しました。医学生時代には全く想像もしていなかった教育者・研究者の生活を、母校で始めることになりました。学生時代から元来のサボりであり、浅学非才の身にとって、母校の薬理学講座の教授が本当に務まるのか?大きな不安を抱えて徳島に帰ってきました。徳島に帰ってくると、多くの同級生や青藍会

の先輩・後輩などが非常に暖かく迎えてくれて、とても心強く思ったことを思い出します。赴任当時は悪戦苦闘の毎日でしたが、何故か?多くの優秀な若い研究者が私の周りに集まってくれました。若い仲間が増えるに従って、研究室が明るくなり活気が出てきました。大将のできが悪いと、教室の若い仲間達は必死に頑張らざるを得なくなり、研究成果も出るようになりました。その結果、わずかですが幾つかの外部資金が獲得出来ました。若い仲間が頑張ってくれたことで、私がいなくても薬理学分野の研究が進むようになり、医学部や大学の組織運営にも携わる機会を得ました。とても貴重な経験をすることが出来ました。また、家庭的には、3人の子供たちが私の元から巣立って社会人として独立した生活を開始しました。今、徳島大学医学部での教員生活を振り返ってみると、非常に幸せな大学人としての生活を徳島大学で送ることができました。

有り難いことに多くの先輩方から、退職後の仕事のお誘いをいただきましたが、退職後は私がしたいことをしようと決めていました。退職後は、医学部入学時に目指した地域医療の仕事を始めます。4月1日付けで、阿南共栄病院・阿南中央病院統括院長に就任しました。徳島南部の地域医療の充実と阿南共栄病院と阿南中央病院が合併して新設される阿南医療センター開設に微力ながら努力する所存です。地域医療に関する仕事は、多岐にわたり私一人の力は限られています。青藍会の皆様には、これまで以上のさらなるご指導とご支援を、今後ともお願ひ申し上げます。

退職のご挨拶

徳島大学名誉教授

土 井 俊 夫

私は平成11年10月に徳島大学に赴任いたしました。18年あまりの間大変お世話になりました。前任者の島健二教授の後任として、臨床検査医学講座および検査部の運営を行うのと同時に腎臓内科を立ち上げるよう要請されました。歴代の検査部技師長をはじめ検査部の方々の助けもあり問題なく検査部運営ができたのではないかと思っております。腎臓内科の立ち上げは、最初の10年は人事の問題もあり、大変困難な時期を経験いたしましたが、学内外のご配慮で現在の診療科としての形に落ちつき、大学病院のなかで診療科として機能している事を大変喜ばしく思っております。透析室は平成16年より稼働し、安井前病院長および永廣現病院長のご配慮で本年度より拡充され、今後は腎不全医療の更なる充実が図れると期待いたしております。学生教育では物事をいかに判断し、病態を解析し、治療法をいかに考えるかを主たる目的として教育しており、腎臓内科のおもしろさを強調して教育をしております。腎臓病は生理、病理、診療、治療、透析療法、血液浄化療法、腎移植など非常に重要な分野を理解できる興味ある領域ですので、学生にも興味を持たすことができるようになったと自負いたしております。

今回最終講義では「腎臓病における診療および研究の黎明期を経験し」という演題で講演させて頂きました。腎臓は身体の体液を一定にし、生体の代謝でできた老廃物を排泄し、血圧調節の中心的役割を果たすなど、生体で重要な働きをします。この腎臓病の診療は私が大学を卒業した昭和52年当時ではまだ十分に理解されてなく、未熟な段階でした。

腎臓病診断の進歩は腎生検法が確立し、確定診断がつくようになった事で、ようやくその疾患概念が定着したころでした。その診断に必須である蛍光抗体法を京都

大学病理学教室の故濱島義博教授の下で取得し、今日の腎臓病診療の基礎を築くことに貢献できたことを大変光栄に思っております。

治療の進歩は透析療法の確立です。昭和47年に人工腎臓が厚生医療、育成医療に認められ、昭和54年に腎移植が認められ、昭和59年に腹膜透析が認められています。このような腎不全医療の制度の進展と技術革新があり、今日の腎不全医療の確立に結びついています。私はその間、直接腎不全医療に関与しており、透析療法の手技の確立、合併症対策、ブランドアクセスの作成、管理にも力を注いでいました。未熟な透析医療の段階から今日のように確立されるまでの間、腎不全臨床に深く関与し、貴重な経験をいたしました。

研究では濱島教室における研究を発展させ、さらに病態の本質を追究するため米国国立衛生研究所のStriker博士のところに留学しました。腎臓病分野において、世界に先駆け遺伝子改変動物を作成、さらに培養細胞の確立、遺伝子解析の手法の確立を行いました。このように研究面でもその手法の変革期を経験させて頂きました。その後の主たる研究課



最終講義「腎臓病における診療および研究の黎明期を経験し」

題は糖尿病性腎症です。糖尿病性腎症は我が国のみならず全世界において腎不全になる最大の原因です。その病態解明と診断および治療法の開発は今日の医療での最重要課題として取り組んでおります。今後もこれら活動が腎臓病における世界の医療の未来に貢献できるよう願っております。

最後に無事退官を迎えることができるには徳島大学の関連の皆さんを初め、徳島大学検査部の方々、徳島大学腎臓内科の関係者の方々、前任地の京都大学の関係者および私の意思を尊重しサポートして頂いた多くの方々のお陰と思っております。ここにお礼申し上げます。

「クリニカルアナトミー教育・研究センター」および「メディカルトレーニングラボ」報告

クリニカルアナトミー教育・研究センター長
金山 博臣 (医学部28期)

徳島大学病院では未固定遺体を用いたサージカルトレーニングや医学研究に対応できる「クリニカルアナトミーラボ (CAL)」が平成26年8月1日に完成し、「解剖室」として解剖学教室が管理し、徳島大学病院クリニカルアナトミー教育・研究センターが運営しています。徳島大学に所属する医師および歯科医師だけでなく、外部の医師・歯科医師の先生方にもご活用いただいている。白菊会および解剖学教室の皆様のご支援、青藍会のご援助に対して、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。ご遺体に対する礼意を失すことなく、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」を遵守し、サージカルトレーニングや医学研究を実施します。

また、平成28年4月から新たに生物資源産業学部が設置され、石井町に大型動物を用いた研究が可能な動物飼育施設（創薬・医療機器開発施設）が開設されました。この中に豚を用いた手術トレーニングや医学研究が行える「メディカルトレーニングラボ」が平成28年12月1日に設置されました。施設は生物資源産業学部が管理し、メディカルトレーニングラボの利用は徳島大学病院キャリア形成支援センター・医師部門が管理しています。動物実験に関する教育訓練を受講し、動物実験計画書を申請し審査を受けたのち、利用申請書を提出し利用料を支払い、豚を用いたサージカルトレーニングや医学研究を実施します。こちらも外部の先生方の利用も可能となっています。

現在 CAL では多くの手術研修・医学研究が実施されており、平成28年度に文部科学省の教育研究活動の概算要求として「未固定遺体とシミュレータを用いた新たな実践型内視鏡下低侵襲手術トレーニングプログラムの構築」が採択されています。シミュレータを用いたドライラボトレーニングおよび未固定遺体を用いたサージカルトレーニングを連携させた卒前卒後一貫トレーニングプログラムの構築によ

り、内視鏡下低侵襲手術の実践・開発を担う医師・歯科医師の育成を行う事業で、5年間の予算がついています。平成29年度にはメディカルトレーニングラボにおける生豚を用いたサージカルトレーニングが加わりました。多くの手術手技トレーニングを実施し、その効果を検証しています。また、平成29年度には厚生労働省の「平成29年度実践的な手術手技研修会事業」にも採択されました。平成30年度は予算が大幅に増額しており、採択および増額が期待されます。

CAL を利用している診療科は医科・歯科合わせて11診療科で、実施された教育・研究テーマは29テーマに及びます（表1～3）。平成30年3月31日現在の各診療科における実施回数は整形外科が214回、泌尿器科が10回、食道・乳腺甲状腺外科が14回、呼吸器外科が9回、消化器・移植外科が8回、脳神経外科が15回、耳鼻咽喉科・頭頸部外科が5回、麻酔科が1回、循環器内科が8回、形成外科・美容外科が5回、歯科口腔外科が4回、合計293回で、70名の外部実施者、8名の外部見学者を含め、延べ977名が参加しました。毎年診療科、回数、参加者ともに増加しています。学会発表は平成27年度5件、平成28年度21件、平成29年度35件、合計61件と顕著に増えています。論文掲載も2016年英文3編、2017年英文5編、2018年もすでに英文5編が掲載・受理されています。科学研究費も6件採択され、その他の助成も3件採択されています。今後もさらに多くのトレーニング・研究が実施され、学会発表や論文掲載が増加するものと思われます。

豚を用いた手術トレーニングについても平成28年12月より可能となり、平成28年度には1件、平成29年度には10件実施されました（表4・5）。泌尿器科が腹腔鏡手術トレーニングを6回、消化器・移植外科が3件、心臓血管外科が2件実施しました。生きた状態で手術トレーニングが可能であり、解剖は人体と多少異なりますが、獣医の先生による麻酔下、

実際の手術に近い状態で手術トレーニングが可能です。文部科学省の事業費および病院からの助成により、29年度は10件までは利用料が無料でしたが、平成30年度も助成により可能な限り参加者の負担を少なくする予定です。

豚を用いた低侵襲手術トレーニングが加わり、シミュレータを用いたトレーニングから豚を用いたト

レーニング、凍結遺体を用いたトレーニングと学生から研修医、専門医まで切れ目のないサージカルトレーニングが可能となり、全国的にも例を見ない画期的なサージカルトレーニングシステムが構築されています。大学外の先生方も参加可能であり、青藍会の先生方にも是非ご活用いただければ幸いです。

表1 実施された教育・研究テーマ(平成30年3月31日現在)①

診療科	教育・研究テーマ
整形外科	未固定遺体を用いた経皮的内視鏡下腰椎間板ヘルニア摘出術(PEO:percutaneous endoscopy discectomy)の教育と研究 未固定遺体を用いた上肢スポーツ障害の病態解明 未固定遺体を用いた脊椎生体力学研究 未固定遺体を用いた骨盤および股関節周囲の血管・神経支配研究 未固定遺体を用いた人工関節置換術における動脈バランス研究 未固定遺体を用いた脊椎マトリックス研究 未固定遺体を用いたX線撮影による椎間板疾患研究 未固定遺体を用いた關節鏡および關節再建術の教育と研究 未固定遺体を用いた避難血管柄付き椎間移植の教育と研究 未固定遺体を用いた脊椎生体力学的乳突脊椎弓根スクリューの研究
泌尿器科	未固定遺体を用いた副腎摘出術の教育プログラム 未固定遺体を用いた腎・副腎手術における手術治療の教育と研究 未固定遺体を用いた腹腔鏡下前立腺全摘除術(LRP:Laparoscopic radical prostatectomy)の先進的技術開発及び教育と研究 未固定遺体を用いた骨盆臟器脱(POP:Pelvic Organ Prolapse)の手術治療の教育と研究

表2 実施された教育・研究テーマ(平成30年3月31日現在)②

診療科	教育・研究テーマ
食道・乳頭甲状腺外科	未固定遺体を用いた食道CTリバփ造影の難消化化を目指した臨床研究及び食道切開術の教育と研究 未固定遺体を用いた乳頭癌後リンパ浮腫の原理及びセンチネルリンパ節の機能を解明する研究 未固定遺体を用いた内視鏡補助下甲状腺手術の教育と研究
呼吸器外科	未固定遺体を用いた局所進行肺癌に対する高精度切除術の教育と研究 未固定遺体を用いた内視鏡補助下甲状腺手術の教育と研究
消化器・移植外科	未固定遺体を用いた胰膵癌下消化管・肝胆脾手術の教育と研究 未固定遺体を用いた先進的脳神経外科手術の技術開発及び教育と研究
脳神経外科	未固定遺体を用いた頭頸部内視鏡手術(head and neck endoscopic surgery)の教育と研究
耳鼻咽喉科	未固定遺体を用いた頭頸部血管内イメージングと病理組織の関連性および冠動脈の高度な解剖学的評価法の開発に関する研究
循環器内科	未固定遺体を用いた頭頸部血管内イメージングと病理組織の関連性および冠動脈の高度な解剖学的評価法の開発に関する研究
歯科	未固定遺体を用いた超音波ガイドの神経ブロック手術の習得及びブロック効果範囲の研究
形成外科	未固定遺体を用いた頭頸部顎面頸頸域における骨格形成術の先進的技術開発及び教育と研究 未固定遺体を用いた頭頸部血管内イメージングと病理組織の関連性および冠動脈の高度な解剖学的評価法の開発に関する研究
歯科口腔外科	未固定遺体を用いた頭頸部清潔術の教育と研究 未固定遺体を用いた頭頸部領域の血管走行の教育と研究

表3 CALの申請件数と実施回数

診療科名	申請件数	実施回数
整形外科	10	214
泌尿器科	5	10
食道・乳頭甲状腺外科	3	14
呼吸器外科	3	9
消化器・移植外科	1	8
脳神経外科	1	15
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1	5
麻酔科	1	1
循環器内科	1	8
心臓血管外科	1	5
形成外科・美容外科	2	5
歯科人科	1	4
歯科口腔外科	2	4



平成30年3月31日現在

- 計293回実施した
- 8名の外部見学者
- 70名の外部実施者
- 延べ977名が参加

表4 メディカルトレーニングラボ(MTL) 実施されたトレーニング(平成30年3月31日現在)

診療科	トレーニングの概要
泌尿器科	泌尿器科領域における腹腔鏡下手術のトレーニングと新技術の有効性の評価
心臓血管外科	心臓血管外科手術トレーニング(カニュレーション手技、冠動脈バイパス術、シャント手術)
消化器・移植外科	ブタを用いた手術手技training

表5 MTLの申請件数と実施回数

診療科名	実施件数	参加人数
泌尿器科	5	21
心臓血管外科	2	11
消化器・移植外科	3	10



- 計11回実施した(試行1回含む)
- 延べ42名が参加

徳島大学病院キャリア形成支援センター活動報告

徳島大学病院キャリア形成支援センター長

赤 池 雅 史 (医学部31期)

当センターでは、医療に携わるすべての職種のキャリア形成支援を担当しています。特に医師部門では、徳島大学病院の各診療科と密接に連携しながら、平成30年度からの新専門医制度に積極的に対応しています。現在、徳島大学病院を基幹とする18の基本領域専門研修プログラムを構築し、その研修施設は徳島県や四国はもちろんのこと、北海道から九州・沖縄に至るまで全国90施設にのぼっています。また、徳島県からの委託により徳島大学病院に設置されている徳島県地域医療支援センターと一緒に取り組むことで、徳島県や地域医療機関とも十分な連携をはかっており、地域枠医師のキャリア形成についても完全に対応できています。

研修プログラムの詳細は、検索システムとともにホームページに公開し、相談窓口も開設しています。この結果、平成30年度は56名の専攻医が徳島大学病院基幹型専門研修プログラムにエントリーすることとなり、徳島大学病院が連携施設となっているプログラムをあわせると、合計60名が徳島県を拠点として専門研修を開始することになりました。今後は、研修状況の把握と評価を含め、研修管理連絡協議会の運営に携わるとともに、サブスペシャルティ領域の専門研修プログラムの構築に取り組む予定です。専門研修プログラムの構築にあたりましては、各関係医療機関における青藍会会員の皆様から多大なご尽力をいただきしております。この場を借りて御礼を申し上げますとともに、専門研修指導につきまして、引き続きご高配のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

また、当センターでは学内外の若手医師を対象に、講習会等の開催やその支援も行っています。山田博胤特任教授（地域循環器内科学、医学部40期）の企画による「くらもとエコー塾」、「心エコー道場」、「臨床研究・論文執筆入門」、北川哲也教授（心臓

血管外科、医学部26期）の企画による「四国心臓血管外科 WetLab セミナー」、久保宜明教授（皮膚科、医学部34期）の企画による「皮膚病理組織講習会」、橋本一郎教授（形成外科、医学部34期）の企画による「形成外科病理組織セミナー」は定期的に開催され、参加者に非常に好評です。

また、医療教育開発センター（大学院医歯薬学研究部）や徳島県地域医療支援センターとの共催により、岩田貴教授（教養教育院医療基盤教育分野、医学部36期）による中心静脈カテーテル挿入講習を引き続き実施しており、徳島県内の研修医のほとんどが受講しています。さらに、徳島大学ではスキルスラボ（大学院医歯薬学研究部）、メディカルトレーニングラボ（石井キャンパス）、クリニカルアナトミーラボ（徳島大学病院）の3つの施設を活用して、金山博臣教授（泌尿器科、医学部28期）を中心に、徳島大学の第3期中期目標期間（平成28～33年度）における重点的取組である「未固定遺体とシミュレータを用いた新たな実践型内視鏡下低侵襲手術トレーニングプログラムの構築」を取り組んでいます。本事業の一環として、当センター医師部門ではメディカルトレーニングラボにおける生豚を用いたサージカルトレーニングを新たに開始し、平成29年度には合計10件を実施することができました。

当センターの運営にあたりましては、青藍会からご寄付をいただいており、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も卒前～卒後～生涯にわたる医師のキャリア形成支援に取り組む所存ですので、青藍会の皆様のご指導とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

ホームページ：<http://www.careercenter-dr.jp/>

卒後臨床研修センターの活動報告

徳島大学病院卒後臨床研修センター長
安倍 正博 (医学部30期)

青藍会ならびに会員の先生方からは、当院の研修医へのご指導ならびに卒後臨床研修センターの各種活動に対しご協力と暖かいご支援賜り、誠にありがとうございます。

今年度のセンターのメンバーは、私と特任准教授で副センター長の西京子先生（脳神経外科）、飛梅威助教（循環器内科）、田中久美子特任助教（消化器内科）、そしてこの4月から西野豪志特任助教の後任として着任された河北直也先生（食道・乳腺甲状腺外科）の5名の教官ならびに4名の事務スタッフです。

現在当センターが取り組んでいる課題に、各研修協力病院の強みと特徴を活かした連携研修プログラムの構築があります。医師を育成するという目標を共有し、大学病院と地域の病院が一体となり研修プログラムを提供するというものです。研修医が異なる研修病院を体験することにより、様々な医療現場での経験を多く積み、偏りのない研修が実践できるとともに、研修医と各研修病院の医師とのつながりが強化でき、魅力的な研修プログラムになると思います。徳島大学と徳島県は「県民医療の発展」と「地域医療の再生」のための医療拠点として総合メディカルゾーン（MZ）の整備を行っております。MZ構想推進プロジェクトの1つとして、平成30年度から「MZ重点研修プログラム」（定員3名）を開始しました。このプログラムでは、MZ構想を活かし、徳島県立中央病院と大学病院を跨いだ各診療科ごとの双方向の連携を強化した一体化研修により、両病院が役割分担し実施している診療現場に研修医が広く参加し、多様な症例を経験することができます。また、MZ重点研修プログラムでは、県内の各臨床研修施設において広く地域医療も実践できるように対応しており、幅広い視野と診療能力を体得することを目指しています。この「MZ重点研修プログラム」を全国的にも類を見ない魅力的な研修プログラムにするために、多面的な角度から両病院の研

修環境の整備を進めています。その一環とし、「メディカルゾーンセミナー」を徳島県立中央病院と合同で昨年度より開催し、研修医、学生のみならず県内の医療機関から異なる職域の方々に多数参加頂きました。今年度もさらに多くの医療機関と連携したセミナーに発展させたいと考えております。

徳島大学病院卒後臨床研修センターの近況をご報告させていただきます。徳島大学病院医師卒後臨床研修管理委員会が本年3月7日に開かれ、平成28年に研修を開始した研修医20名の研修終了が認定されました。3月19日に修了式を執り行ない、臨床研修修了書が手渡されました。研修修了を迎えた研修医からは各病院でのご指導に対する感謝が述べられておりました。この4月より、修了者のうち17名が徳島大学病院および県内の関連施設で、のこりの3名が県外での専門医研修を開始しました。各人が人間味のある医療人として成長し活躍されることをスタッフ一同祈念しております。

平成30年度の新人研修医は23名で、この内15名が大学病院で、8名が研修協力病院で研修を開始しております。23名のうち18名が徳島大学卒の研修医です。今年度より新しく開始した「MZ重点研修プログラム」（定員3名）には3名が参画してくれました。徳島県立中央病院と大学病院を中心に診療現場で研修医がより多様な症例を経験できるものと思います。平成29年に研修を開始した現在2年目の研修医は28名で、その内14名が現在大学病院で研修しています。1年目を研修協力病院で研修を行い、この4月から大学病院で初めて勤務する研修医は8名です。各研修医の希望を元に、基本的診療能力がしっかりと習得できるよう2年目の研修プログラムを柔軟に調整しております。徳島大学病院卒後臨床研修センターでは、他病院からも広く研修医も受け入れております。県内だけでなく、日本医科大学病院や高知赤十字病院など県外からも研修医を受け入れ、多くの研修病院の研修医の育成にも協力をしております。

研修医の育成には、大学病院の全ての診療科や地域の病院が協力体制で臨むことが必須です。良い意見は取り入れ、柔軟で行動力と躍動感のあるセンターの運営を行い、今後さらに研修の充実に向けた

取り組みを発展させて行く所存です。今年も、徳島大学病院卒後臨床研修センターならびに研修医へのご指導とご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。



写真1. キャリアデザインセミナー
平成29年11月24日



写真2. 平成30年度卒後臨床研修説明会
平成29年12月8日



写真3. 卒後臨床研修プログラム修了式
2018年3月19日

地域医療教育の活動報告

地域医療実習を体験した医学生からの提言～10年目を迎えて～

徳島大学病院総合診療部
谷 憲治（医学部28期）

この度、平成29年4月1日付で徳島大学病院に新設された総合診療部に部長・教授として就任いたしました28期卒の谷憲治と申します。徳島大学病院で総合診療を実践しながら、卒前・卒後の一貫した総合診療教育にも関わることで、地域医療に貢献できる総合診療医の育成にも関わってまいります。引き続きご支援ご協力ご指導よろしくお願ひいたします。

さて、平成20年に徳島大学の医学生教育に本格的に導入された地域医療実習も10年が過ぎました。臨床実習クリニック・クラークシップでは徳島県南での1週間泊まり込みの地域医療実習を我々教室員が担当しております。最終日の金曜日の午後には、院長を始めとする海部病院スタッフや地域住民を前にして実習報告会を開催しております。実習で学んだこと、実際に感じた地域医療の課題、地域で住むということ、そして実習前に抱いていたイメージとの違い、など、率直な気持ちを実習医学生から聞かせてもらい、我々スタッフや住民との意見交換を行い

ます。彼ら医学生との議論の中から我々指導者が学ぶこと、気づかされることがあります。この一年間の発表やレポートにおいて、実習医学生たちから届いた地域医療が良くなるための提案をここで紹介したいと思います。

提案1) 地域医療実習のさらなる充実が必要

- ・地域医療に触れる実習を低学年から必修化すればよいと思います。こういった実習をコツコツと続けることで、学生に地域医療の現状を伝え、また地域の魅力を伝えることが一番現実的で効果的であると思いました。
- ・4年生のチュートリアル教育に臓器別ではない総合診療を導入することで総合診療の魅力を教え、ドクターGなどを観て総合診療は難しいというイメージを払しょくさせる
- ・地域医療の魅力には「人間関係の良さ」「地元住民の温かさ」「ほどよくゆったりした職場環境」

があると思う。今回の実習においてそれらの魅力を実際に感じることができたので、このような実習を続けていくことが大切だと思う。
・これから超高齢社会に対応するには各領域の専門医も総合診療能力を備えておく必要があります。その研修には地域医療が最もふさわしいということを実習などでアピールすることが大切だと思います。



写真1 海部の住民たちとともに



写真2 牟岐町の自然の中で

提案2) 地域医療に勤務するローテーションシステムを構築すべき

- ・地域出身の医学生を入学させる枠を設け、一定期間地元での医療貢献を義務化させる
- ・若い医師が3, 4年交代でローテーションする仕組みを作る
- ・誰かに権限を持たせ、医師不足の地域偏在を考慮しながら10年後までの医師ローテーションをスケジューリングすればよいと思います。
- ・自分のよいと思うタイミングで、かつ期限付きで地域医療(へき地医療)に従事するローテーションシステムを構築し、交代制で地域医療活動を行うことが地域偏在の問題解決につながると思う。
- ・卒後15~20年など、子育てが一段落した医師が2, 3年地域で働く制度を作ること。

地域医療での勤務と引き換えに、希望する有名病院での研修が約束されるシステムを作ることで両方からのメリットを得ることができる。

提案3) 地域の魅力を増やし、しっかりアピール！

- ・地域で暮らすという魅力をもっとアピールすべきだと思います。徳島県南の海部であれば魚がおいしいこと、魚釣りやサーフィンなど、アピールできる観光や趣味はたくさんあると思います。
- ・患者である住民の数が減っていることが大きな問題です。企業の誘致などを図り、観光や産業をさらに発展させることで、人口減をくいとめ町の活性化に努めることが、医師不足や医療の質の低下の解消にもつながると思います。

・海部などの地域で大きな学会を開催し、四国や全国の医師に訪問してもらいその魅力をアピールして就職してもらうことを提案します。

・全国のサーファーや釣り師が集まる全国規模の医師サーフィン大会や医師磯釣り大会などを海部で企画し全国の医師にその魅力をアピールする。

・水難事故に特化した外傷・救急医療のワークショップを開催して、若い医師に全国から集まってもらい海部を知ってもらう。

・牟岐少年自然の家などを使って、医学生を対象とした病院見学と釣りやマリンスポーツ、おいしい魚介類料理を食べたりする企画をすることで、海部の魅力を伝えることは意味があると思います。

・SNSなどで地域の魅力をしっかり発信していくこと。

・地域のPR動画を作成してYouTubeなどのメディアを通して拡散する。

以上、この一年間の間に実習医学生から届いた「地域医療の充実に向けた提案」の中から印象に残ったものをまとめてみました。これらの本学の地域医療教育には地域医療現場で勤務されている青藍会の先生方に指導医として多大な労力をいただいております。また、青藍会からは実習活動費のご支援もいただいており、有効に利用させていただいております。改めて深く感謝いたします。引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。



写真3 海部病院採血実習

新入生歓迎会

日時：平成30年4月6日（金）12:00～13:00
場所：第1臨床講堂

平成30年度徳島大学入学式が4月6日（金）10時からアスティとくしまで挙行された後、12時から医学部第一臨床講堂にて青藍会主催の新入生歓迎会が盛大に開催された。

新入生（114名）は、今年もサークルの勧誘活動を行う先輩からの熱い歓迎を受けながら、「吉野の流れ（医学部の歌）」が流れる会場に晴れやかに入場した。

河野知弘事務長代理の司会のもと、桜井えつ会長の祝辞について、谷憲治先生、荻野広和先生から

歓迎のことばが述べられ、新入生を代表して久米航海さんが謝辞の意を表した。引き続き昼食に移り、予定の時間に閉会した。



入学生（2018年度準会員）への祝辞

平成30年度医学部医学科新入生 歓迎の言葉

青藍会会長
桜井えつ（医学部16期）

皆様、ご入学おめでとうございます。徳島大学医学部医学科の同窓会であります青藍会会長の桜井です。若々しく晴れやかな皆さんのお顔を拝見しながら、50年前のことを思い出しておりました。長い受験戦争に無事栄光を持って終えられた皆様方や支えられたご家族の方々に対しまして、改めてお祝い申し上げます。入学式と医学部医学科のオリエンテーションの間、同窓会である青藍会主催の新入生歓迎会を開かせていただきます。私は皆様のご両親のお母さんにあたる年代で、皆様からすると“おばあちゃん”になります。

徳島の医学教育は第二次世界大戦中に徳島医学専門学校に始まります。戦後に徳島医科大学となり、その後徳島大学の医学部から栄養学科併設後医学部医学科へと発展してきました。来年で75周年を迎ますが、この徳島で医学教育を終えられた人々の同窓会組織が青藍会です。医師になった方々がほとんどですが、医療行政職を選ばれた方々や医師免許を

取得せず医学の研究の道に進まれている方などもいらっしゃいます。

青藍会の名前の由来を申し上げますと、その昔、明治から大正にかけて徳島県は藍染めの原料であります藍の生産が日本一で当時地方としては非常に栄えた都市であったと言われています。その藍にちなんだ故事の中に、紀元前3世紀の中国の思想家荀子の言葉で「青は藍より出でて 藍より青し」に由来しています。「藍で染められた青色は、もとの藍よりもずっと青い色をしている」との意味で「出藍の誉」とも言われています。その故事にちなみ伝統ある徳島大学医学部で学ぶ者は、先輩たちよりも一段と優れた者に育って行って欲しいとの意味で同窓会名を青藍会とつけられたようです。

青藍会会員は現在亡くなられた方を含め約6000名越えの大きな組織です。先ほど司会の事務長代理より話がありましたとおり、同じ医学の道を志し徳島で青春の日々を送った会員の心の拠りどころとして、同級生はもとより先輩から後輩への親睦・懇親を図る場所として、また母校の徳島大学医学部の発展に寄与することを目的とした同窓会組織です。全国に北から南まで13の支部がありそれぞれの支部で先輩・後輩たちとの交流が盛んに行われます。本日から皆様は青藍会の準会員ですが、数年後の卒業され



た時に正会員になっていただきます。本拠地の徳島支部をはじめ各支部とも期待してお待ちしています。

今皆様は夢と希望に満ち溢れていると思います。ただ どこの世界でも同じですが、医学医療の世界でも非常に厳しい時代となっています。将来、お医者さんになる道、ノーベル賞を目指して研究の道、行政職の道、いずれの道を選ばれても根本は「自分は命を守る職業を選んだのだ」ということを絶対に忘れないでください。どの仕事の上でも様々な能力が必要ですが、最も大切なのは人と人とのコミュニケーション能力です。これを培うには、また、厳しい現実に向う時に必要なのはよき友人・よき先輩・よき先生です。話が少し個人的になりますが、私が青藍会会長を引き受け力不足に悩んでいた時に協力を申し出てくれたのが、事務長代理をしてくれている20期の河野先生、幹事の17期高橋先生、入学式に出席され先に帰られました副会長で24期の福島先生などをはじめとする多くの人たちです。皆さん全くの無給のボランティアです。このよき友人たちや事務局の二人に支えられて会長職を辛うじてこなしているのが現状です。人の心の温かさをしみじみと感じています。

話を元に戻しますが、大学は学問や技術習得だけの場ではありません。よき人間関係を築くこと、ひいては自分を成長させる場所もあります。卒業までの間をどのように過ごされるかでご自分の将来が左右されると言っても過言ではありません。皆様方も、よき友を得るために、よき先輩に教えを乞うために、またよき伴侶を得るために、積極的に行動を起こしてください。じっと待っていてはだめです。とりあえずとして講義室の外には、たくさんのサークル勧誘の先輩たちが今か今かと皆さんを待っています。私たちの時代と違ってカリキュラムはかなり厳しいようですが、あなた達なら必ず可能と信じています。明日から、大いに勉強して、大いに遊んで、

大いに恋をして、大いに悩んで大学生活・青春時代を謳歌してください。

この後に、素晴らしいお二人の先輩の方にお話を来ていただくようお願いしてあります。心してお聞きください。簡単ですが、皆さんの健康とご活躍を祈念してお祝の挨拶といたします。重ねてご入学おめでとうございます。

充実した6年間を願って

徳島大学病院総合診療部特任教授
谷 憲治（医学部28期）

新入生の皆さん、この度は徳島大学医学部医学科へのご入学おめでとうございます。入学にあたっては、これまでの皆さんの努力が実って夢を果たせたことに対して皆さん自身が誇りに思っているとともに、ご家族ご親族や先生方からも大きな祝福をいただいていることだと思います。支援をいただいた皆様への感謝の気持ちを忘れずにいていただきたいと思います。私は医師になって37年が過ぎましたので、学生時代の6年間を加えると、ここに42年前の自分の姿と対面していることになる訳ですが、医学生時代のことはついこの間のように思い出されます。現在、私は徳島大学病院の総合診療部に籍を置き、大学病院内で総合診療を実践しながら将来地域医療に貢献できる総合診療能力を備えた若き医師の育成に努めています。皆さんは、医師になるという共通の将来を持っているわけですが、6年間の医学部教育を修了し、さらに2年間の初期臨床研修を終えた後に自分で自身の進む道を選択することができるのです。その選択肢には、私の担当している総合診療以外にも、内科、外科、小児科、産婦人科といった専門診療の道、あるいは医学研究の道や行政業務など多彩です。私はもともと呼吸器疾患と膠原病リウマチ疾患を専門にする内科医でしたが、約10年前に現在の総合診療の道に転向しました。このように、一つの道にしばられずに複数の診療科や研究の世界を行き来することでそれぞれの良い面を修得し自分自身のレベルアップを図っていくということも可能なことです。

今日の入学の日を迎えて、皆さんはこれから約6年間の大学生時代をどのように過ごしていくかと

夢と不安の交錯する気持ちではないでしょうか。学校の講義だけでなく、部活動やアルバイト、ボランティアなど、様々な活動によって将来素晴らしい医師になるための基本的な資質を磨いておくことが大切だと思います。そこで、今日は青藍会の先輩のひとりとして皆さんにひとつのアドバイスをさせていただきたいと思います。皆さんには、これから医師として、一生をかけて自分自身の中に富士山のような山を築いていってほしいと願います。富士山の偉大な点は何といつても日本一のその高さにあります。どういう医師を目指すにしても、皆さんにはぜひこの世界において誰にも負けないトップの高さを目指してほしいと思います。しかし、日本一の高さの富士山を支えるには、富士山の持つあの広大な裾野の存在が必要であることを忘れてはいけません。しっかりととした土台としての裾野があってこそ、あの高さが安定して保たれるのです。また、富士山は世界遺産に登録されていますが、その理由は高さだけではなく、その美しさもあります。美しい富士山の絵には頂上だけでなく必ず裾野全体も描かれていますね。私は富士山の美しさの主役は頂上ではなくあの裾野だと思っています。皆さんには、学生時代に自分の中にしっかりととした裾野を作っていくことを考えてください。徳島大学の蔵本キャンパスの裏には眉山という徳島市を象徴する山があります。名前の通り、市内のどこからみても眉のようになだらかな形をした、どこに頂上があるか分からない300m足らずの標高の低い山です。まず、皆さんには、眉山でよいので、将来築く高い山の裾野となる土台をこれから約6年間で築いていってください。あせってビルのような高い山を築こうとするのは危険です。何かがぶつかったり、地震などによって、簡単に崩れてしまうような山ではいけません。急がず、あせらず、しっかりとした山の土台作りから始めていきましょう。



そのためには、大学での勉学に励むことはもちろんのこと、課外でのクラブやサークル活動、学外でのアルバイトやボランティア活動など、将来優れた医師になるための土台作りにしっかり励んで下さい。医学生サークルのひとつに地域医療研究会というサークルがあります。医学生が自分自身で地域医療の広い世界を学んでいくというサークルで、私が顧問をさせていただいております。他の部やサークルとの兼部も可能なので、そういういったサークルに籍を置いて、積極的に活動に参加することは皆さんの土台作りに役立つことでしょう。大学生になるとこれまでにはなかった自由度を手に入れることができます。しかし、自由であるということ、それは自分のやったことに対して自分自身で責任を持たなければならぬということです。私のモットーとしている論語に書かれた孔子の言葉に「内に省みて疚しからざれば、それ何をか憂え何をか畏れん」があります。これは、「自分自身の気持ちにやましいものがないのであれば、迷わず畏れずやっていけ」という意味です。周囲に惑わされることなく自分が正しいと思ったことは、自分の責任において前向きに突き進んでいきましょう。

私は、これから皆さんとは講義や実習の現場でお付き合いをさせていただきますが、何か困ったことや相談などがあったら近くにいますのでいつでも気軽に顔をみせてください。できる限りの対応をさせていただきます。それでは、これから皆さんのが健康新生活の充実を祈念してお祝いのご挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございました。

新入生の皆様へ

徳島大学大学院医歯薬学研究部
呼吸器・膠原病内科学分野

荻野 広和 (医学部56期)

医学部新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。呼吸器・膠原病内科学分野の荻野広和と申します。

おそらく、今皆さんはこれから始まる新生活に向けて大きな期待と少し不安で胸を膨らませていることと思います。私も17年前の2001年に地元の大坂か

ら、誰一人知り合いのいない徳島にきてこの入学式を迎えた日の事を懐かしく思い返しています。

偉そうなことを言える立場ではありませんが、一先輩として、これから大学生活を始める皆さんにメッセージを送りたいと思います。それは、学生時代が終わった時に「学生時代、これは頑張った」と思える「何か」を持ってほしいということです。勉学、部活動、課外活動、あるいは研究活動など、その「何か」が何であるかは人それぞれだと思います。ですが、後々の将来、誰かから、あるいは就職試験の際面接官から「学生時代の一番の思い出は？何を頑張りましたか？」と聞かれた時に胸を張って話ができる「何か」を持てるような学生生活を送って欲しいと思います。

自身の話を少しさせていただくと、私はこの入学式当日、まさにこの後繰り広げられる部活動の熱心な、かつ強引な勧誘活動に引っ張られバーボール部に入部しました。また大学2年次の冬からは生化学講義での最先端の研究の話に魅力を感じ、部活の合間に研究室へ顔を出すようになりました。その後、部活の先輩が大学祭の実行委員長をしていたこともあり、4年次に大学祭実行委員長を務めました。その際当時医学部長をしていた曾根教授から基礎研究に興味があるならとお誘いをいただき、一旦医学部を休学し大学院へ進学する M.D.-Ph.D. コースへ進み3年間基礎研究に従事し学位を取得しました。少し様々なことに手を出し過ぎた感は否めませんが、充実した学生生活であったと思えるし、おそらくそれを評価してもらい東京の聖路加国際病院にて4年間の充実した臨床研修を行う機会を与えていただきました。

このように積極的に様々なことに挑戦することで、様々な出会いおよびチャンスがあり、その結果充実した「何か」が得られると思います。ですから、皆さんも自分の殻に閉じこもった6年間を過ごすのではなく、積極的に様々な経験をしてもらえばと思います。

最後に M.D.-Ph.D. コースについてお話しをしたいと思います。このコースは先ほどお話しした通り、4年次修了後一旦医学部を休学し大学院へ進学、3年間の研究活動に従事し、学位取得後医学部5年次へ復学、臨床実習・卒業試験・国家試験を経て医師になるという制度です。これまでに私を含め



17名の先輩がこのコースへ進学しそれぞれの道を歩んでいます。入学当時の私は、おそらくここにいる大多数の皆さん方が感じているように基礎研究には全く興味はなく、変わった人がやることなどと感じていました。ですが現在の医療では基礎医学と日常臨床の距離は非常に近くなっていますし、今後ますます近くなると思います。ノーベル賞を受賞した山中先生で有名な iPS 細胞も現在実際の患者さんを対象とした臨床試験が始まっており、もしかしたら皆さん方が医師になるころには臨床応用されているかもしれません。また私が専門にしている肺癌に関しても、患者さんの癌組織の遺伝子検査を行い、その結果に応じて最適な治療薬を選択するという個別化医療を行うことがすでに常識になっています。このように臨床医をするにあたって、基礎医学を知らない、経験がないではやっていけない時代になってきています。ですから是非皆さんの中に基礎医学を遠く無縁な存在と考えている人がおられたら、是非現状を知っていただき、この M.D.-Ph.D. コースへの進学も一つの選択肢として考えてもらえばと思います。もし何か聞きたいことがありますたらいつでも声をかけてください。

話が長くなってしまいましたが、ここにいる皆さん全員が充実した学生生活を送られ、そしてかけがえのない「何か」が得られることを期待し歓迎の言葉とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。



新入生代表謝辞 久米航輝さん

青藍会賞論文募集

平成30年度青藍会賞論文募集

平成30年度青藍会賞論文を下記のとおり募集します。

本賞は、青藍会会員による学術研究の発展と奨励のために、若手研究者の優れた業績に対して授与するものです。奮ってご応募下さい。

1. 応募資格

審査対象論文発刊日に42才未満の青藍会正会員

但し、平成30年度までの会費完納入者であること。

2. 審査対象

平成30年1月から平成30年12月までの1年間に医学関係学術専門誌に発表された医学論文（1人1編とする）。但し、博士号論文及び博士号申請予定論文は除く。共著論文であるときは、筆頭著者とする。選考では、徳島大学で主として行われた研究であること重視し、過去の研究歴も考慮します。

3. 応募締切

平成31年3月15日（金）（応募締切り後は提出書類の変更を認めません）

4. 応募手続

提出書類は、

- ①申請書（別紙様式1）*
- ②略歴（別紙様式2）*
- ③主指導者の推薦状
- ④論文別刷り 10部（コピー可）
- ⑤論文内容要旨800字以内 10部（コピー可）
- ⑥提出論文に関する参考論文（5編以内）の別刷り 各10部（コピー可）
- ⑦業績一覧（誌上発表） 10部（コピー可）

なお、同一推薦人が複数者を推薦する場合は推薦順位を付けること。

*申請書、略歴の様式は事務局（電話：088-633-7109 内線2601）にご請求下さい。

詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

5. 選考

青藍会会長から委任された選考委員会が行う。

6. 受賞者数

若干名

7. 青藍会賞の授与

賞状及び研究助成金50万円を青藍会通常総会開催日に授与する。

8. 受賞講演

受賞者は対象論文内容を総会当日ご講演していただきます（30分程度）。

青 藍 会

青藍会賞受賞者一覧（平成22年度～平成29年度）

年 度	卒業期	氏 名	論 文 名・掲載誌	応募数
H22年度 (18回)	医学部 41期	漆原 真樹	ERK5 activation enhances mesangial cell viability and collagen matrix accumulation in rat progressive glomerulonephritis American Journal of Physiology Renal Physiology 2010 ; 298 : F167-76	3
H23年度 (19回)	医学部 42期	北村 明子	A mutation in the immunoproteasome subunit PSMB8 causes autoinflammation and lipodystrophy in humans Journal of Clinical Investigation 2011 ; 121 : 4150-4160	3
H24年度 (20回)	医学部 44期	猪子 誠人	Trichoplein and Aurora-A block aberrant primary cilia assembly in proliferating cells The Journal of Cell Biology 2012 ; 197(3) : 391-405	2
H25年度 (21回)	医学部 47期	吉田守美子	Androgen receptor promotes sex-independent angiogenesis in response to ischemia and is required for activation of vascular endothelial growth factor receptor signaling Circulation 2013 ; 128(1) : 60-71	2
H26年度 (22回)	医学部 46期	多田 恵曜	Intra-arterial signal on arterial spin labeling perfusion MRI to identify the presence of acute middle cerebral artery occlusion Cerebrovascular Diseases 2014 ; 38 : 191-196	3
H27年度 (23回)	医学部 46期	沼田 周助	Blood diagnostic biomarkers for major depressive disorder using multiplex DNA methylation profiles : discovery and validation Epigenetics 2015 ; 10(2) : 135-141	7
H28年度 (24回)	医学部 48期	岩佐 武	Effects of chronic testosterone administration on body weight and food intake differ among pre-pubertal, gonadal-intact, and ovariectomized female rats Behavioural Brain Research 2016 ; 309 : 35-43	3
H29年度 (25回)	医学部 49期	佐光 亘	The effect of istradefylline for Parkinson's disease : A meta-analysis Scientific Reports 2017 ; 7(1) : 18018	4

青藍会行事予定表（平成30年度）

月	行 事	月	行 事
4	入学式（新入生歓迎会）(4.6)	10	青藍会講演会（10.25）
5	青藍会賞選考委員会（4.17） 広報委員会 役員会	11	兵庫支部総会 広報委員会
6	会報第91号発行 香川支部総会（6.30）	12	会報第92号発行
7	総会・評議員会・支部長会議（7.16） 青藍会 MD-PhD 奨励金授与（7.16） 青藍会賞授与式（7.16）	1	
8		2	青藍会講演会実行委員会 近畿支部総会（2.16） 奈良支部総会
9	役員会 高知支部総会（9.8） 愛媛支部総会（9.29） 青藍会講演会実行委員会	3	役員会 岡山支部総会（3.2） 東京支部総会 青藍会賞応募締切（3.15） 卒業式（青藍会記念品贈呈）（3.22）

留学記

ハノーファーで感じたこと

医学科6年 川村 晨

みなさん、こんにちは。医学科6年の川村晨と申します。私は、昨年の4月から1ヶ月間ドイツのハノーファー医科大学 (MHH ; Medizinische Hochschule Hannover) に留学してきました。ハノーファーはドイツ北部のニーダーザクセン州の州都で人口は約53万人です。人口だけを考えると徳島県の方が多いので田舎に思われるかもしれません。徳島市の人囗密度が1346人/km²に対してハノーファーは2609人/km²と比較的大きな街でした。またハノーファーは大学街であり私のいた寮にも医学部を始め電子工学、経済、デザインなど専攻の違う様々な留学生がいました。そういう国も専門も違う友人と寮のリビングで夕食を共にしながら自分の国の話や将来の夢などについて語った日々は私にとってかけがえのないものになりました。

MHHは、病床数1500床のとても大きな病院で敷地も東京ドーム4.5個分と広大であったため病院自分が一つの小さな町のように感じました。実習内容としては、神経内科病棟と脳卒中ケアユニット (SCU) で2週間ずつ実習を行いました。神経内科病棟では、多発性硬化症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症など多くの疾患の経験することができました。SCUでは、救急搬送される脳卒中患者の初期治療とその後の管理について一連の流れを勉強することができました。MHHに行くまでは病院実習もまだ始まっておらず、知識や手技に関しては

教科書やOSCEでの実習のみによるものでした。そんな私にとっては実際の臨床現場で働く医師・看護師の一挙手一投足が新鮮でした。徳島大学での1年間の実習が終わる今になって恥ずかしい話なのですが、当時の私は採血でさえも食い入るようにしていました。そんな私にMHHの先生が採血をしてみるとかと言ってもらえたのですが、今まで実際の患者さんで採血をした経験はないということを伝えるととても驚かれました。ドイツでは2年生から病院での実習が始まり、5年生になると日本でいう研修医1年目のような役割を実習生がしていました。実際に私と一緒に実習を回っていた5年生の女子学生は一人で入院患者の採血や身体診察を行い、その結果を上級医に報告しそれを元に上級医の先生はカルテを書いていました。最も驚いたのは、先生の監督下ではありますが彼女が腰椎穿刺まで行っていたことです。彼女は、実際のDr.と同じように働いているのに無給なのは腑に落ちないと嘆いていましたが、医療チームの一員として役割を与えられている彼女がとてもうらやましいのと同時に世界のライバルはここまでやっているのかと焦りを感じました。この経験は、私にとってとても良い経験となりました。その経験をもとにドイツから帰ってきて徳島大学での1年間の病院実習を始める上で私が大切にしてきたことは、当たり前のことがベッドサイドでの経験を大切にすることです。担当の患者さんと実際に話し病状の辛さやを知り、身体診察をさせて頂きながら疾患の特徴を身体で覚えることを繰り返していく中でそれまで味気のなかった教科書が今ではページを繰るごとに担当した患者さんの顔が思い浮かぶようになりました。今後も患者さんから学ぶという姿勢を忘れずに精進していきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった臨床神経科学梶龍児教授、野寺裕之先生に厚く御礼を申し上げます。

病院紹介

徳島赤十字病院

徳島赤十字病院 副院長
医学部25期 長江 浩朗

私は昭和54年卒業で専門は形成外科です。平成9年小松島赤十字病院（現徳島赤十字病院）に赴任しました。病院が歩んできた道、現状などを紹介させていただきます。

沿革

昭和24年9月小松島町立診療所が日赤徳島県支部に移管され、支部診療所として発足しました。翌昭和25年4月小松島赤十字病院と改称して病床数60床で診療を開始しています。その後増床を重ね、昭和62年には564床となりました。

片岡善彦院長就任

平成9年4月片岡善彦先生が院長に就任されました。私が赤十字病院に赴任したのはそれから2カ月後の6月です。折しも医療保険制度の改革が始まった時期であり激動の時代の幕開けでした。

ここから病院が目指していくのは

- ① 在院日数の短縮。
- ② 紹介率の上昇。
- ③ 外来患者数/入院患者数(入外比)

を下げるための外来患者数の削減でした。

まず入院患者の早期転院を図りました。その後平成12年に回復期リハビリテーション病棟が新設され、導入する病院が増えてからは在院日数が劇的に短縮されました。外来では日赤がかかりつけ医であった慢性疾患の患者を近隣の診療所に紹介しました。さらに職員の外来受診まで制限しました。また、一度紹介した患者が受診するときには必ず紹介状を書いていただき、紹介率

のアップを目指しました。その甲斐あって平成14年10月には紹介率80%の地域支援病院になりました。長期入院患者が転院し在院日数が短縮されると当然のことながら空床が出てきます。そこで段階的にダウンサイジングを進め、平成18年5月の新病院開院時には一般病床405床のみの病院になりました。

一方で救急業務には特に力をいれ体制を充実させました。平成14年4月には徳島県から小児救急医療拠点病院に指定され、小児科医を4名から7名に増員し、2交代制による24時間小児救急を開始しました。病院も思い切った決断をしましたが、当時の小児科医局の協力なくしては実現できないことでした。

人材育成の面では平成14年4月、全国に先駆けて臨床研修看護師制度を開始しました。また、平成16年4月新医師臨床研修制度の開始時には単独型で研修医を募集しました。両制度とも順調に稼働しており臨床研修看護師は毎年30名以上採用し、臨床研修医は12名ほぼフルマッチとなっています。

日浅芳一院長就任

平成23年4月片岡院長定年退職に伴い、日浅芳一先生が院長に就任されました。断らない医療を全面に押しだし救急医療の更なる充実を目指しました。平成27年4月からはドクターカー（救急車）の運用を開始、平成28年6月からはラピッドレスポンスカー（乗用車）も導入されました。現在は1カ月に50～70件の出動があり積極的な病院前治療に取り組んでいます。

平成26年5月にはハイブリッド手術室を新設し、県内の他施設に先駆けて大動脈弁狭窄症に対する経



病院の全景

病院紹介

皮大動脈弁留置術（TAVI）を開始しました。症例数は70件を越え良好な成績を残しています。

西棟竣工

現在の稼働状況は平均在院日数8.5日、1日当たりの新入院者数42.5人、病床利用率（入院患者延数）99.9%です。職員数は増加して現在千名を超え、研修医を含めた医師数は159名となっています。それに伴い様々な部署が手狭になってきました。そこで新棟建設を計画し平成29年11月19日無事西棟竣工となりました。

西棟の中心となる日帰り手術センターを活用し、これまで短期入院で行っていた外科手術、カテーテルを使った心臓病の検査や治療、内視鏡手術などを

日帰りで行うことで空床を確保して、今まで以上に重症患者や救急患者を受け入れることを目指します。

同時にカテ室、内視鏡室を拡充し、PET-CTを新設しました。スキルスラボ等の研修室、会議室、職員の休憩室などにも十分なスペースを取りました。また屋上には南海トラフ巨大地震に備えて一時避難スペースを設け、地域住民の方が外階段からいつでも避難できるようになっています。

医療を取り巻く環境は益々厳しくなりますが、救急医療を中心とした高度急性期医療を充実させ、他施設の皆様と連携して良い医療を構築するよう努力いたしますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



西棟引き渡し時

左から真鍋文雄前事務部長 庄野泰乃副院長兼看護部長 後藤哲也副院長 日浅芳一院長 筆者 武田芳嗣副院長



西棟スタッフラウンジ

德大關係醫療機關名簿

德大關係医療機関協議會

NO	経営体	病院又は診療所等名	病院長名又 は施設長名	診 療 科 名		内科	呼吸器科	循環器科	神経科	小児科	歯科	その他
				病床数	内呼内吸							
23	法人	日比野病院	日比野敏行	42	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
24	法人	水の都記念病院	佐々木克哉	80	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
25	法人	緑ヶ丘病院	岡田 健	252	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
26	法人	リハビリテーション病院	木村 誠	171	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
27	法人	宇都宮皮膚泌尿器科	宇都宮正登	19	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
28	法人	住友内科病院	住友 辰次	32	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
29	法人	博愛記念病院	片岡 善彦	210	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
30	法人	東洋病院	清水 寛	50	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
31	法人	むくの木クリニック	岩花 弘之	19	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
32	法人	伊月健診クリニック	藤田 葉子	0	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
33	法人	中洲八木病院	日浅 匡彦	105	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
34	法人	虹の橋病院	竹内 尚	60	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
徳島県北西部地区												
35	県	徳島県立三好病院	住友 正幸	220	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
36	市町村	つるぎ町立半田病院	須藤 泰史	120	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
37	市町村	三好市民健康保険	中西 嘉巳	60	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
38	厚生連	阿波病院	佐藤 登	133	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
39	厚生連	吉野川医療センター	橋本 寛文	290	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
40	地方独立行政法人	地方独立行政法人徳島県鳴門病院	邊見 達彦	307	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
41	法人	藍里病院	元木 洋介	240	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
42	法人	秋田病院	秋田 亮	120	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
43	法人	稻次病院	湊 省	67	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
44	法人	浦田病院	浦田 隆弘	100	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
45	法人	折野病院	折野 悅子	192	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
46	法人	兼松病院	兼松晴彦	86	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
47	法人	鴨島病院	土橋 孝之	268	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○

区地部南部県島徳

NO	経営体	病院	病院又は診療所等名	病院長名又は施設長名	病床数	診 療 科																		その他	
						内科	呼吸器科	循環器科	消化器科	神経科	内分泌科	腎臓科	内分泌科	泌尿器科	肛門科	整形外科	眼耳鼻咽喉科	頭頸部外科	乳瘻科	外傷科	心臓科	小児科	婦人科	産科	
73	市町村	海陽町立玄喰診療所	白川 光雄	—	○																				
74	市町村	國民健康保険浦尾病院	小西 貞備	60	○																				○
75	市町村	美波町国民健康保険病院	本田 壮一	50	○																				
76	市町村	美波町国民健康保険日和佐診療所	川井 尚臣	—	○																				
77	日	赤徳鳥赤十字病院	日浅 芳一	405	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
78	厚生連	阿南共栄病院	東 博之	343	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
79	法人	阿南中央病院	澤田 誠三	229	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
80	法人	大里医院	松田 啓次	—	○																				
81	法人	小松島金磯病院	加藤 好包	43	○																				
82	法人	小松島病院	福本 常雄	92	○																				○
83	法人	頑心館病院	藤本 隼	82	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
84	法人	玉真病院	神田 光則	42	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
85	法人	富田病院	阿部 司郎	144	○																				
86	法人	杜のホスピタル	吉坂要一郎	127	○																				
87	法人	宮本病院	宮本 兵之	48	○																				
88	市町村	上那賀病院	鬼頭 秀樹	40	○																				○
89	法人	藤野医院	藤野 和也	19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
90	法人	ライフクリニック	岩浅祐二郎	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
91	県	香川県立白鳥病院	坂東 重信	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
92	県	香川県立丸亀病院	長楽鍊力祐	215	○																				○
93	市町村	さぬき市民病院	德田 道昭	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
94	市町村	高松市民病院	和田 大助	417	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
95	市町村	三豊市立西香川病院	大塚 智文	150	○																				
96	市町村	三豊総合病院	安東 正晴	482	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
97	日	赤高松赤十字病院	網谷 良一	576	○																				

香川県地区

香川県地図

NO	経営体	病院又は診療所等名	病院長名又は施設長名	病床数	診 療 科																				名					
					内呼 内科	循 内科	消化 内科	腎 内科	神 内科	皮 膚 科	内 部 科	外 科	心 外 科	心 肺 科	脳 外 科	脳 門 脳	形 成 科	整 形 科	眼 科	耳 科	小 兒 科	婦 産 科	鼻 咽 喉	外 科	麻 醉 科	疾 患 科	急 救 科	歯 科	小 児 ア レル ギー 科	透析 科
98	厚生連	屋島総合病院	安藤 健夫	279	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
99	厚生連	滝宮総合病院	大越 祐一	191	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
100	医社	オリーブ高松メディックリニッケン	福井 敏樹	—	○																									
101	法人	まるがめ医療センター	鎌野 周平	300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
102	法人	回生病院	杵川 文彦	402	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
103	独立行政法人国立病院機構	中川 義信	689	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
104	医社	阪本病院	小川 智也	108	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
105	法人	瀬戸健康管理研究所	太田 房雄	—	○																									
愛媛県地区																														
106	県	愛媛県立中央病院	西村 誠明	827	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
107	県	愛媛県立新居浜病院	酒井 堅	313	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
108	日赤	松山赤十字病院	横田 英介	650	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
109	共済	四国中央病院	鎌田 正晴	275	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
110	法人	社会医療法人石川記念会	石川 賀代	257	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
111	法人	十全総合病院	中村 寿	350	○																									
112	法人	今治第一病院	曾我部仁史	90	○																									
113	独立行政法人四国がんセンター	谷水 正人	405	○	○																									
高知県地区																														
114	市町村	四万十市立市民病院	樋口 佑次	99	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
115	市町村	土佐市民病院	田中 肇	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
116	組合	高知医療センター	吉川 清志	660	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
117	日赤	高知赤十字病院	浜口 伸正	468	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
118	厚生連JA	高知病院	谷木 利勝	178	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
119	法人	高知鏡川病院	横山 佳秀	272	○																									

NO	経営体	病院又は診療所等名	病院長名又 は施設長名	診		療		科		名									
				病床数	内科	内呼内	消化	循環	腎内	精神科	心外	呼吸外	心外	眼科	耳鼻喉科	婦産科	小児科	歯科	口腔外
120	法人	高知高須病院	大田 和道	63	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
121	法人	同仁病院	安岡 照道	252	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
122	独立行政法人国立病院機構	高知病院	大串 文隆	424	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
123	法人	室戸病院	三宮 勝隆	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北 海 道 地 区				124	法人	釧路孝仁会記念病院	原田 英之	232	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
茨 城 地 区				125	生協	友愛記念病院	加藤 煙一	325	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
埼 玉 県 地 区				126	法人	彩の国東大宮メディカルセンター	坂本 龍郎	337	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静 岡 県 地 区				127	法人	聖隸浜松病院	鳥居 裕一	730	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京 都 府 地 区				128	法人	武田総合病院	森田 陸司	500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大 阪 府 地 区				129	財団	住友病院	松澤 佑次	499	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵 庫 県 地 区				130	県	兵庫県立淡路医療センター	小山 隆司	441	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福 岛 地 区				131	会社	三夢神戸病院	佐々木順子	188	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈 滋 地 区				132	法人	神鋼記念病院	東山 洋	333	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近 畿 地 区				133	法人	ベリタス病院	辻村 知行	199	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北 陸 地 区				134	医社	中林病院	中林 愛晶	93	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
信 通 地 区				135	個人	翠鳳第一病院	吉田 勇人	119	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四 国 地 区				136	法人	八木病院	岡 夏生	98	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

徳大関係医療機関協議会会則

(名称)

第1条 本会は、徳大関係医療機関協議会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を徳島大学病院内に置く。

(目的)

第3条 本会は、会員相互の親睦、研修を図るとともに医学の進歩発達及び病院経営の合理化に寄与することを目的とする。

(組織)

第4条 本会は、徳大関係医療機関の管理者の職にある者をもって組織する。

(2) 前項に掲げるもののほか、徳島大学病院、医学部及び歯学部の各講座・診療科等の推薦に基づき、徳島大学病院長（以下「病院長」という。）が承認したものを加えることができる。

(役員)

第5条 本会に、会長及び評議員若干名の役員を置く。

(2) 会長は、病院長をもって充て、会務を総理する。

(3) 評議員は、地区別会員中から会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

(総会)

第6条 総会は、定例総会及び臨時総会とする。

(2) 定例総会は、毎年1回会長が招集する。

(3) 臨時総会は、必要に応じて会長が招集する。

(経費)

第7条 本会の運営に必要とする経費は、次の会費及びその他の収入をもって充てる。

通常会費 2,000円（年一医療機関につき）

臨時会費 総会の都度徴収する。

(附則)

この会則は、昭和43年12月3日から施行する。

(附則)

この会則は、昭和47年1月14日から施行する。

(附則)

この会則は、昭和49年1月11日から施行する。

(附則)

この会則は、昭和55年1月11日から施行する。

(附則)

この会則は、昭和56年1月23日から施行する。

(附則)

この会則は、平成16年1月30日から施行し、平成15年10月1日から適用する。

第54回徳大関係医療機関協議会総会

徳島大学病院副病院長 香 美 祥 二 (医学部26期)

第54回徳大関係医療機関協議会総会は平成30年1月26日（金）にホテルクレメント徳島において開催されました。出席者は徳島大学から87名、関係医療機関から42名の計129名です。

最初に徳島大学病院長、永廣信治先生が開会のご挨拶を行い、その後、本院の現状について説明しました。病院長は大学病院の理念の中で、安全な医療の実践を心がけており、そのために院内安全管理体制を充実させている旨を説明しました。国の特定機能病院の医療安全に関する承認要件の見直しに従い、高難度新規医療技術や未承認の医薬品等による医療の実施につき検討する部門を準備していることも説明しました。特に、未承認や適応外の医薬品を用いた臨床研究では、今後は臨床研究法の規則下の研究となり院内に特定臨床研究審査委員会の設置が求め

られているとのことでした。また、大学病院の新しい取り組みとしては、1) 県立中央病院と共に共同初期臨床研修、物品購入、共同災害訓練などの実施を行い総合メディカルゾーンとしての機能を高めていること、2) 国際貢献の一貫として、JICA（独立行政法人国際協力機構）プロジェクトに加わり首都ウランバートルにおける日本モンゴル教育病院の運営管理や医療体制整備に協力していること、3) 県内のメディカルICTの充実のために、総務省のクラウド型医療情報連携基盤（Electronic Health Record : EHR）高度化事業より資金を頂き、「阿波あいネット」を設立したこと、4) 東京オリンピック2020を控えスポーツ振興が求められる中、スポーツ外傷の臨床と研究に取り組む総合スポーツ医学センターを設立したことなど、詳細に

解説しました。このような国内外における新しい取り組みを契機として大学病院をこれまで以上に発展させていく決意であることを述べられました。

病院長報告に続いて、新しい徳島大学役員の佐々木卓也理事（研究担当）、吉田和文理事（地域・産官学連携担当）からご挨拶がありました。続いて新たに学部教授に就任された遠藤逸朗先生（医用検査学）、高木康志介先生（脳神経外科学）、廣瀬隼先生（医療情報学）、湯本浩通先生（歯周歯内治療学）と新たな寄附講座特任教授に就任された松浦哲也先生（脊椎関節機能再建外科学）、山田博胤先生（地域循環器内科学）の6名より、それぞれ簡単なご挨拶をいただきました。

続いて卒後臨床研修センター報告として安倍センター長から研修プログラムについて説明がありました。徳島大学病院初期研修プログラムは、地元で活躍する診療能力の高い医師を育成するために、徳島大学病院と徳島県内外の研修協力病院との間で各病院の特徴と強みを活かした融合研修を進めています。平成30年度からは、徳島県立中央病院と大学病院が役割分担している診療現場に研修医がより広く参加し多様な症例を経験するために、総合メディカルゾーン（MZ）構想の取り組みの一つとして、両病院を跨いだ診療科ごとの双方向の一体化研修、「MZ重点研修プログラム」を開始することです。

次にキャリア形成支援地域センターと地域医療支援センター副センター長、赤池雅史先生から専門医研修プログラムと地域枠医師につき報告がありました。

1) 徳島大学病院では18の基本領域専門研修プログラムを構築しており、研修施設は四国を中心に全国に広がり90施設にのぼっていること。シミュレータ、生豚、未固定遺体による外科修練施設も充実している。これらの結果、初期臨床研修制度開始後に減少していた県内で専門研修を行う者の数が徐々に回復している。2) 院内に設置された徳島県地域医療支援センターが中心となり、本人の希望、地域医療ニーズ、キャリア形成を考慮しながら地域特別枠医師の配置調整を開始しており、制度離脱者ではなく順調に進んでいることです。

病院報告の最後に、病院情報センターの玉木悠助教より徳島県全域医療連携ネットワーク、「阿波あいネット」の特徴と今後の展望についての説明がありました。

関連病院からの現状報告として、坂東弘康先生（徳島県立海部病院長）、住友正幸先生（徳島県立三好病院長）からお話を伺いました。坂東先生は、海部病院のこれまでの歩みと現在、取り組んでいる救急、災害医療、訪問医療、総合診療医の育成につき解説しました。住友先生からは三好病院の概要、理念を説明した後、西部圏域（四国の中央部）における病院の役割と使命につきプレゼンテーションをいただきました。両病院の存在が地域の医療を支えているだけでなく、住民の生活基盤を守る要になっていることが強く印象に残りました。

10分間の休憩をはさんで特別講演に入りました。今回は東京大学高齢社会総合研究機構教授、飯島勝也先生に「超高齢社会を見据えた未来医療予想図－地域コミュニティのリデザイン」というテーマでご講演をいただきました。桐野先生は、疫学データ、社会医学の観点から日本の超高齢時代の到来に向けて、どのようにすれば高齢世代の方々が元気で豊かな老後を送って頂けるのか、その予防戦略につき解説をしてくださいました。飯島先生は、フレイル（虚弱）というコンセプトを提案し、その予防対策が重要であり、特に身体的フレイル（ロコモティブシンドローム、サルコペニア、オーラルフレイル）の予防プログラムの確立が課題であると述べられました。市民レベルで行えるサルコペニア危険度のフレイルチェック活動も提案されていました。老人が社会とのつながりの喪失することがフレイルドミノの入り口になることより、社会全体での健康寿命の延長に向けたフレイル予防が大切であると感じました。

総会終了後、ホテル内の別会場で情報交換会が行われ多数のご参加をいただきました。徳島市民病院管理者、曾根三郎先生のご発声で乾杯し、参加者同士で和やかな懇親の場が設けられました。ここでも飯島先生を中心[new]に新用語フレイル、国の高齢化社会対策の話や管理者ならではの関心事で会話が盛り上がりいました。

徳島大学病院 外来担当医一覧表（医科診療部門）

平成30年4月1日現在

診療科名	月		火		水		木		金		備考
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
循環器内科	初診・再診 若槻哲三(FAX) 山田博胤(FAX) 川端 豊(FAX) 伊藤浩敬(FAX) 山口浩司(TAVI)	初診・再診 佐田政隆(FAX) 赤池雅史(FAX) 添木 武(FAX) 松本和久(FAX)	八木秀介(FAX) 伊勢孝之(FAX) 楠瀬實也(FAX)	伊勢孝之(TAVI)	伊勢孝之(FAX) (心臓リハビリ外来) 伊勢孝之(FAX)	伊勢孝之(FAX) (肺高血圧症外来) 八木秀介(FAX)	伊勢孝之(FAX) (肺高血圧症外来) 西條良仁(FAX)	山口浩司(FAX)	山口浩司(FAX)	山口浩司(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479
心エコー外来								【第1・2週】 伊勢孝之(FAX) (心臓リハビリ外来) 伊勢孝之(FAX) (肺高血圧症外来) 西條良仁(FAX)	山口浩司(FAX)	山口浩司(FAX)	山口浩司(FAX)
呼吸器・膠原病内科	初診・再診 豊田優子(FAX) 河野 弘(FAX) 近藤真代(FAX) 荻野広和(再診)	初診・再診 後東久嗣(FAX) 飛梅 亮(FAX) 内藤伸二(FAX)						西岡安彦(FAX) 楊河宏章(FAX) 佐藤正大(FAX) 軒原 浩(再診)	西岡安彦(FAX) 楊河宏章(FAX) 佐藤正大(FAX) 軒原 浩(再診)	西岡安彦(FAX) 楊河宏章(FAX) 佐藤正大(FAX) 軒原 浩(再診)	吾妻雅彦(FAX) 河野 弘(FAX) 西條敦郎(再診) 岸 昌美
消化器内科	初診・再診 佐藤康史(FAX) 宮本弘志(FAX) 友成 哲(FAX)(肝臓) 藤野泰輝(FAX)	初診・再診 高山哲治(FAX) 岡本耕一(FAX) 田中久美子(FAX) 三好人正(FAX)	岡久稔也(FAX) 北村晋志(FAX) 中村文香(FAX) 三井康裕(FAX) 田中宏典(FAX)(肝臓)	岡久稔也(FAX) (午前) 北村晋志(FAX) 中村文香(FAX) 三井康裕(FAX) 田中宏典(FAX)(肝臓)				六車直樹(FAX) 田中貴大(FAX)(肝臓) 岡田泰行(FAX) 宮本桂彦(FAX)	六車直樹(FAX) 田中貴大(FAX)(肝臓) 岡田泰行(FAX) 宮本桂彦(FAX)	六車直樹(FAX) 田中貴大(FAX)(肝臓) 岡田泰行(FAX) 宮本桂彦(FAX)	初診・再診 東 桃代
腎臓内科	初診・再診 長井幸二郎(FAX)	初診・再診 岸 誠司(FAX)						安部秀斎 田舎昌憲(FAX)	安部秀斎 田舎昌憲(FAX)	安部秀斎 田舎昌憲(FAX)	初診・再診 村上太一(FAX)
内分泌・代謝内科	初診・再診 栗飯原賢一(FAX) 吉田守美子(FAX)	初診・再診 明比祐子(FAX)			遠藤逸朗(再診)(午後) 福本誠二(FAX)(午前)			遠藤逸朗(FAX) 栗飯原賢一(FAX)	遠藤逸朗(FAX) 栗飯原賢一(FAX)	遠藤逸朗(FAX) 栗飯原賢一(FAX)	初診・再診 初診・再診 倉橋清衛(FAX)
糖尿病外来	吉田守美子(FAX)	船木真理【第2・3週】			松久宗英(FAX)			黒田暁生(FAX)	黒田暁生(FAX)	黒田暁生(FAX)	倉橋清衛(FAX)
血液内科	初診・再診 安倍正博(FAX)				三木浩和(FAX)			中村信元(FAX)	中村信元(FAX)	中村信元(FAX)	初診・再診 初診・再診 賀川久美子(FAX)
造血幹細胞移植外来	藤井志朗(FAX) 藤井志朗(FAX)	【13:00~14:00】 フローラップ外来 (看護師・薬剤師)									賀川久美子(FAX)
神経内科	初診・再診 和泉唯信(再診) 大崎裕亮(FAX)(初診)	初診・再診 梶 龍兒(FAX)	初診・再診 (初診のみ：完全予約制)	和泉唯信(FAX)(初、再診) 村上永尚(再診)	梶 龍兒(BTX外来／再診) 和泉唯信(再診) 村上永尚(再診)	梶 龍兒(BTX外来／再診) 和泉唯信(再診) 村上永尚(再診)	梶 龍兒(BTX外来／再診) 和泉唯信(再診) 村上永尚(再診)	和泉唯信(FAX)(初、再診) 宮本亮介(FAX)(初診) 大崎裕亮(午後)(再診)	和泉唯信(FAX)(初、再診) 宮本亮介(FAX)(初診) 大崎裕亮(午後)(再診)	和泉唯信(FAX)(初、再診) 宮本亮介(FAX)(初診) 大崎裕亮(午後)(再診)	初診・再診 山本選平(再診) 宮本亮介(再診) 野寺裕之(FAX)(初診) 佐光 亘(ハイキンソン病)(初診) 【第2・4週】 フォローアップ外来 (看護師・薬剤師)

診療科名	月			火			水			木			金			備考
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	
外 消化器・移植外科	初診 鳥田光生(FAX) (ドナー外来)			初診 鳥田光生(FAX) (ドナー外来)	初診 鳥田光生(FAX) (ドナー外来)											受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	肝・胆・脾外科	初診 居村 肇 齋藤 裕	再診 柏原秀也 (下部消化管外来) 東島 潤(FAX)	初診・再診 池本哲也			初診・再診 岩橋栄一(FAX)									受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	消化管外科															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	小児外科・ 小児見内視鏡外科	石橋宏樹(FAX)					石橋宏樹(FAX)									受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	食道・ 乳腺甲状腺外科															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	骨・ 脊椎															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	脳神経・ 腫瘍															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	整形外科															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	緩和ケア外来															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	初診															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
整形外科	脊椎	西良浩一 (脊椎FAX) 千川隆志 (脊椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 酒井紀典 (脊椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 高砂智哉 (腰椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 浜田大輔 (腰椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 宮城 亮 (腰椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 手東文威 (再診)	西良浩一 (脊椎FAX) 高田洋一郎 (側弯)	西良浩一 (脊椎FAX) 手東文威 (再診)	西良浩一 (脊椎FAX) 宮城 亮 (再診)	西良浩一 (脊椎FAX) 高田洋一郎 (側弯)	西良浩一 (脊椎FAX) 高砂智哉 (腰椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 宮城 亮 (再診)	西良浩一 (脊椎FAX) 高砂智哉 (腰椎FAX)	西良浩一 (脊椎FAX) 高砂智哉 (腰椎FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	脳神経															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	骨・ 筋肉・ 運動器・ スポーツ外来															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	女性・ アンドロイジング															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482
	骨粗鬆症															受付時間 8:30~11:00 TEL633-7136 FAX633-7482

診療科名	月		火		水		木		金		備考
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
心臓血管外科	小児心臓 成人心臓	北川哲也(FAX) 北市 隆	初診・再診 黒部裕嗣 【第2・4週 休診】	北川哲也【第2・4週 休診】	初診・再診 黒部裕嗣 【第3週 休診】	初診・再診 黒部裕嗣(FAX)	初診・再診 黒部裕嗣(FAX)	初診・再診 黒部裕嗣(FAX)	初診・再診 黒部裕嗣(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7150 FAX633-7483	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7150 FAX633-7483
	血管専門外来	北川哲也(FAX) 黒部裕嗣(FAX)	(成人大児性心疾患外来) 北市 隆(FAX)	(成大人臓専門外来) 北市 隆(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7157 FAX633-7487	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7157 FAX633-7487					
	腎移植専門外来	(TAVI 専門外来) 黒部裕嗣 【第3週のみ】	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣【10:00~13:00】	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣(午前)	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣(午後)	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣(午後)	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣(午後)	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣(午後)	(成人心臓専門外来) 黒部裕嗣(午後)	受付時間 8:30~12:30 【14:00~16:00】	受付時間 8:30~12:30 【14:00~16:00】
	泌尿器科	福森知治(FAX) 福岡義人(FAX) 岸本大輝(ED・不妊)(FAX) 【13:40~16:00】	金山尙臣(FAX) 山本恭代(FAX) 高橋正幸(FAX) 森英泰(FAX)	高橋正幸(FAX) 福森知治(FAX) 山口邦久(FAX)	高橋正幸(FAX) 福森知治(FAX) 山口邦久(FAX)	金山尙臣(FAX) 布川朋也(FAX)	金山尙臣(FAX) 布川朋也(FAX)	金山尙臣(FAX) 布川朋也(FAX)	金山尙臣(FAX) 布川朋也(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7157 FAX633-7487	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7157 FAX633-7487
	眼科	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	初診・再診 内藤毅(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	受付時間 8:30~10:30 TEL633-7161 FAX633-7488	受付時間 8:30~10:30 TEL633-7161 FAX633-7488
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	江川麻理子(FAX) 高橋美香(FAX) 佐藤豪弘(FAX) 中野誠一(FAX)	三田村佳典(網膜硝子体)(FAX) 井上昌幸(網膜硝子体)(FAX) 四宮加容(斜視弱視・眼瞼下垂・眼底 OCT)(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7166 FAX633-7489	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7166 FAX633-7489						
	皮膚科	高橋美香 高石谷祐美 佐藤謙太 近藤英司(FAX)	再診 <交代制>	再診 佐藤謙太 【奇数週】/庄野仁志 遠藤重紀 遠藤英司(FAX)	再診 佐藤謙太 【奇数週】/庄野仁志 遠藤重紀 遠藤英司(FAX)	再診 佐藤謙太 【奇数週】/庄野仁志 遠藤重紀 遠藤英司(FAX)	再診 佐藤謙太 【奇数週】/庄野仁志 遠藤重紀 遠藤英司(FAX)	再診 佐藤謙太 【奇数週】/庄野仁志 遠藤重紀 遠藤英司(FAX)	再診 佐藤謙太 【奇数週】/庄野仁志 遠藤重紀 遠藤英司(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7166 FAX633-7489	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7166 FAX633-7489
	漢方	漢方【第4週】 陣内自治	高橋美香 高石谷祐美 佐藤謙太 近藤英司(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7153 FAX633-7486	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7153 FAX633-7486						

診療科名	月		火		水		木		金		備考
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
形成外科 (レーザー専門外来)	再診(予約のみ)	初診・再診 (小耳症・唇裂口蓋裂・レーザー専門外来・乳房再建)	再診(予約のみ) (レーザー専門外来)	初診・再診 (ケロイド外来)	初診・再診 初診担当医(FAX)	初診・再診 初診担当医・血管腫など(FAX)	初診・再診 初診担当医・血管腫など(FAX)	初診・再診 初診担当医・血管腫など(FAX)	初診・再診 初診担当医・血管腫など(FAX)	初診・再診 初診担当医・血管腫など(FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7047 FAX633-7493
脳神経外科	初診・再診 高木康志 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 多田恵理 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 溝瀬佳史 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 永薗信治 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 宮本亮介 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 中島公平 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 川人伸次 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 山崎理恵 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 川人伸次 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	初診・再診 山崎理恵 (脳神経科・脳腫瘍 専門外来)	受付時間 8:30~11:00 (新患) TEL633-7147 FAX633-7485
麻酔科	初診・再診 (ペインクリニック) 曾我朋宏(FAX)	初診・再診 (ペインクリニック) 曾我朋宏(再診のみ) 笠井飛鳥	初診・再診 (麻酔評価) 川西良典	初診・再診 (麻酔評価) 酒井陽子	初診・再診 (ペインクリニック) 曾我朋宏(FAX)	初診・再診 川人伸次(FAX)	初診・再診 東島祥代	初診・再診 山崎理恵 (麻酔評価)	初診・再診 川人伸次 (ペインクリニック)	初診・再診 山崎理恵 (麻酔評価)	受付時間 【ペインクリニック】 8:30~11:00 (新患)
精神科・心身症科	初診・再診 初診担当医(FAX)	初診・再診 大森哲郎 友竹正人	初診・再診 沼田周助 中瀧理仁	初診・再診 梅原英裕 住谷さつき	初診・再診 大森哲郎 沼田周助	初診・再診 梅原英裕 江戸宏彰	初診・再診 龟岡尚美 川端正志	初診・再診 山崎理恵 (麻酔評価)	初診・再診 川人伸次 (ペインクリニック)	初診・再診 山崎理恵 (麻酔評価)	受付時間 8:30~15:00 (再来,予約患者: 木曜午後除く) 【麻酔評価】 13:00~16:30 (予約患者) TEL633-7179 FAX633-7492

診療科名	月			火			水			木			金			備考	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前		
小 兒 科	(初診) 一診 二診 アレルギー外来 代謝外来 神経外来	香美祥二 (FAX) 須賀健一(午前) 森 達夫(午前)	早測康信 (FAX) 杉本真弓(午前)	【11時まで】 東田好広(午前)	中川龍二 (FAX) 東田好広(午前)	【11時まで】 杉本真弓(午前)	渡辺浩良 (FAX) 内藤雅(午前)	漆原真樹 (FAX) 森 達夫 (FAX)	【11時まで】 岡村和美(午前)	漆原真樹 (FAX) 森 健治(午前)	漆原真樹 (FAX) 森 健治(午後)	漆原真樹 (FAX) 森 健治(午後)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479			
	子と親の こころ診療室	精神科医 愛付は精神科	森 健治(午後)	森 健治(FAX)午前	森 健治(午後)	森 健治(FAX)午前	森 健治(午後)	森 健治(午前)	森 健治(午後)	森 健治(午前)	森 健治(午後)	森 健治(午前)	森 健治(午後)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	循環器外来	早測康信 (FAX)	早測康信	香美祥二 (FAX) 漆原真樹 (午前)	永井 隆	香美祥二 (FAX) (午前)	渡辺浩良 (FAX)	渡辺浩良 (FAX)	渡辺浩良 (FAX) (午前)	渡辺浩良 (FAX) (午前)	渡辺浩良 (FAX) (午前)	渡辺浩良 (FAX) (午前)	渡辺浩良 (FAX) (午前)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	腎臓外来	香美祥二 (FAX) 漆原真樹 (午前)												受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	血液腫瘍外来													受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	内分泌外来	横田一郎 (FAX) 小谷裕美子 【14:00~16:00】												受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	糖尿病外来	須賀健一 (FAX) (午後)												受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	新生児外来	小谷裕美子 【15:30~16:30】												受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	予防接種													受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
	産科婦人科	初診・再診 苛原 稔 (一診) (FAX)	初診・再診 加地 剛 (-診) (FAX)	初診・再診 西村正人 (FAX)	初診・再診 西村正人 (FAX)	初診・再診 安井敏之	初診・再診 松崎利也 (-診) (FAX)	初診・再診 桑原 章	初診・再診 安井敏之	初診・再診 桑原 章 (-診) (FAX)	初診・再診 加地 剛	初診・再診 吉田加奈子 (AM)	初診・再診 桑原 章	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		
放射線科	放射線診断科	放射線診断 原田雅史	放射線診断 大友真姫	放射線診断 宇山直人	放射線診断 竹内麻由美	放射線診断 岩本誠司	放射線診断 久保重貴子 (FAX)	放射線診断 川中 崇 (FAX)	放射線診断 古谷俊介	放射線診断 古谷俊介 (FAX)	放射線診断 原田雅史	放射線診断 吉田加奈子 (AM)	放射線診断 山本由理	放射線診断 笠井可菜 (AM)	放射線診断 峰田あゆか	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479
	放射線治療科	病棟初診のみ 岩本誠司	病棟初診のみ 外穂千智	生鳥仁史 (FAX) 工藤隆治 (歯科領域)	初診のみ 古谷俊介	初診のみ 久保重貴子 (FAX)	再診のみ 川中 崇	初診のみ 久保重貴子 (FAX)	再診のみ 川中 崇	初診のみ 久保重貴子 (FAX)	再診のみ 川中 崇	初診のみ 古谷俊介	再診のみ 古谷俊介 (FAX)	初診のみ 外穂千智	再診のみ 外穂千智	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479
	総合診療部	初診・再診 大倉佳宏 (FAX)	初診・再診 谷 憲治 (FAX)	初診・再診 大倉佳宏 (FAX)	初診・再診 大倉佳宏 (FAX)	初診・再診 山口治隆 (FAX)	初診・再診 山口治隆	初診・再診 鈴記好博 (FAX)	初診・再診 鈴記好博 (FAX)	初診・再診 鈴記好博 (FAX)	初診・再診 鈴記好博 (FAX)	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7132 FAX633-7481	受付時間 8:30~11:00 TEL633-7118 FAX633-7479		

教室の現況

(研究分野)

病態生理学分野
消化器内科学分野

「ストレス制御医学」から 「病態生理学」分野へ

病態生理学分野・教授 六 反 一 仁
准教授 西 田 憲 正
講師 桑 野 由 紀
助教 西 川 達 哉

今年は桜の開花がことのほか早く、あっという間に満開を迎え、あっという間に散ってしまいました。徳島大学医学科でも、定年や早期でのご退職が相次ぎました。長年徳島大学に尽くされ、多大な功績を挙げられた諸先輩方が、「ああ早く退職出来て良かった」「これから君たちは大変だね」「頑張ってね」といって去って行かれます。毎年、毎年、同じ言葉が出てくるので、大学をめぐる環境が年々悪くなっている現実が浮かび上がります。

青藍会の会員の皆様も新年度を迎える、新たな気持ちでご活躍のことでしょう。厳しい環境で頑張っておられる先生方も多いと思います。私(六反)もあと1年で定年退職を迎えます。平成4年に徳島大学に赴任し、栄養学科で10年、医学科で16年、お世話をになりました。文句と暴言ばかりで皆様には多大な迷惑をおかけしました。これまでのご厚情に感謝しながらこの場をお借りして「ストレス制御医学」から「病態生理学」分野への足跡を簡単に紹介させて頂きます。

大学院プロテオミクス医科学専攻の設置に伴い、平成15年に新しく開設された「ストレス制御医学分野」を担当させて頂きました。当時は、21世紀 COE

プログラム「ストレス制御をめざす栄養科学」事業の一翼を担い、その後、外部資金の獲得も順調で大学院生が多く集まり、活気に満ちた教室へと発展しました。この間、5名のMD-PhDの学生を受け入れたのは数少ない自慢の一つです。この5名の学生を含めて19名が学位を取得し、このうちの5名が日本学術振興会の特別研究員に採用されました。人材育成には多少とも貢献できたと思っています。

学部教育では、当初、共通教育の基礎生物学を担当し、専門教育への橋渡しの講義を行っていました。平成27年に生理学Iと生理学実習を担当することになり、分野名も「ストレス制御医学」から「病態生理学」へ変更しました。研究面では、分野開設以来reviewを含めて94編の英語論文を発表しました。研究テーマは一貫してストレス応答を取り上げ、遺伝子からヒトまで幅広い研究を展開してきました。スプライシング調節因子をはじめとするRNA結合タンパク質による広範な遺伝子発現調節機構、スプライシング調節因子をコードする遺伝子ファミリーがもつ超保存領域に内在された新たな機能の解明などを手がけてきました。DNAチップを用いたストレス・ストレス関連疾患の評価・診断技術の開発も継続して行い、ストレスゲノミクス・エピジェネティックスの先導的な研究と応用研究を行ってきました。その成果の一つとして、ヒトの腸に定着して、ストレスに関連した心理・身体症状と睡眠障害を改善する乳酸菌を発見し、アサヒグループホールディングスと共同して製品化しました。この乳酸菌は、成長ホルモンの分泌を高める作用もあり、高齢者のQOLを改善する画期的な機能性食品になると確信しています。

地域格差と人口減少が顕著に進行する県にある大学として、人的にも経済的にも益々厳しい時代を迎えようとしています。こういう時こそ、大学本来の使命である「教育=教えはぐくむ」の精神に立ち返って、良い人を育て良い研究をする基本的なスタンスに徹する以外に再生の道はないと思っています。

今後とも、会員の皆様のご支援とご指導を宜しくお願い致します。

徳島大学消化器内科学分野 10年間の歩み

徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学

高山 哲治

私は2007年12月に札幌医大から徳島大学に着任致しましたので、ちょうど10年が過ぎたところです。初めは旧第二内科の後身である臓器病態治療医学分野に着任し、まもなく循環器内科学が分かれて消化器病内科学分野となりました。この10年間、いろいろなことがありました。教室は無事少しづつ成長しているように思います。これもひとえに、徳島大学及び青藍会の諸先生たちのご支援と教室員が自らの教室の為に頑張ってくれた賜物であると感謝しております。

私は北海道生まれの北海道育ちであり、初めて北海道外である徳島（四国）の地に足を踏み入れましたので、初めは何もかもが異なり、なかなか思うように行きませんでした。気の知れた先輩や後輩も一人もいませんでしたし、知り合いもいませんでしたので、何かあったときは医局長や教室員に尋ねるしかありませんでした。北海道と徳島では気候、食べ物、言葉などあらゆるもののが異なりますが、もっとも大きな違いは、人々の習慣や考え方かもしれません。しかし、幸いにして大学関係者や教室員にも恵まれ、少しづつではありますが教室運営も軌道に乗ります。

当教室は、他の教室と同様に「臨床」と「研究」に力を入れています。臨床で疑問に思ったこと、すなわち clinical question を研究（実験や外注検査でも）で解決して欲しいと思っています。また、逆に基盤研究や臨床試験で得られた知見をできるだけ臨床に反映させることができればと思っています。

当科は、大きく消化管、肝、胆嚢の3つのグループに分けられています。しかし、教室員は卒後少なくとも5年間はいろいろなグループを回り、消化器内科学全般、ひいては内科全般を診療できるように教育しています。また、消化器内科では癌患者の占める割合が多く、必然的に癌の診断と治療には力を入れていますが、炎症性腸疾患、肝炎、消化管機能性疾患、等々にも力を入れています。

消化管グループは、食道癌、胃癌、大腸癌などの消化管癌の内視鏡診断はもとより、食道胃逆流症や炎症性腸疾患などの内視鏡診断を行っています。早期癌に対する内視鏡治療はもっとも得意とするところであり、その適応は徐々に拡大されつつあります。カプセル内視鏡や小腸内視鏡も多数行っています。肝臓グループでは、C型肝炎やB型肝炎の治療、肝癌のラジオ波焼灼療法や肝動脈化学塞栓療法を多数行っています。胆嚢グループは、今もっとも注目されている超音波内視鏡（EUS）を用いた胆嚢癌の診断とEUSガイド下の穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）を得意としています。さらに、いずれのグループでも癌のステージ診断と切除不能癌に対する化学療法にも力を入れています。内科とし



※※ 教室の現況 ※※※※※※※※※※※※※※※※

て全身を管理しながら新しい分子標的薬や抗癌剤を投与するとともに、今注目されている癌のゲノム医療（先進医療）を積極的に進めています。

「研究」は、臨床に反映されるべき translational research を目指すとともに、臨床検体を用いた臨床医にしかできない研究に重点をおいています。消化器癌治療や内視鏡治療に関する当科で企画した臨床試験、全国の臨床試験、グローバル第3相試験などに参加し、エビデンスを構築しています。基礎研究も一生懸命行っており、月火金の夕方は各実験グループの meeting を行い、火曜日の朝は全グループで meeting をしています。国内留学やア

メリカへの留学も積極的に進めております。

最後に、当教室は徳島県を含む四国4県の地域医療を支えることが重要であると考えております。これまでの旧第2内科の流れを受けて、三好病院や半田病院を含む県内の多くの病院に医師を派遣し、海部病院にも週1～2回パート勤務しております。また、高知県の国立高知病院や赤十字病院、香川県の高松市民病院や四国こどもとおとの医療センター、愛媛県の四国中央病院などにも医師派遣を行っております。青藍会の先生たちが永年にわたり築いた関連病院を支えることができればと考えております。

第3回 MD-PhD コース近況報告会を開催しました

医学部54期 石澤(井澤)有紀

平成30年2月17日（土），第3回 MD-PhD コース同窓会および近況報告会を開催致しましたのでご報告申し上げます。

【第1部：同窓会総会】

本コースの卒業生・現役生が集まり，平成29年度の活動報告及び今後の活動計画について討議しました。昨年度は SNS を利用した広報活動あるいは情報提供に努めて参りました。少しずつではありますが、学内外に本コースの概要などが浸透しているように感じています。平成30年度の活動計画の概要是以下の通りです。

- ・縦のつながりの強化：名簿の管理・進路の追跡、報告会や交流会の開催
- ・卒業生のキャリア支援：徳島大学公募情報の共有、学内外ロールモデルの呈示
- ・現役生への支援：経済的支援や学部復帰支援に関する情報提供
- ・学部学生の研究活動支援：本報告会の学内公開、Lab 部懇談会の企画など学部教育との連携、医学部生を対象とした国内学術集会等への参加推進

以上の内容を中心に、本コースを志望する学生が安心して研究活動に集中できるよう、また医学生に対し研究の魅力を伝えて行けるよう、微力ながら活動を続けていく所存です。

【第2部：近況報告会】

今年も学内公開で開催し、数名の学部学生や教員の先生方にご参加いただきました。今回は徳島大学 AWA サポートセンターの「女性研究者裾野拡大支援事業」の一環として開催支援をいただきました。はじめに現在の徳島大学や全国における MD-PhD コースの概要について説明し、他大学で同様のコースを選択してきた先生方からのメッセージを紹介いたしました。

高橋恵美先生 (Boston Children's Hospital, Harvard Medical School, Assistant Pro-

fessor, 千葉大学医学部 MD-PhD コース第1期卒業)

岩崎正治先生（大阪大学微生物研究所 感染症国際研究センター 特任准教授，九州大学医学部 MD-PhD コース第1期卒業）

お二方ともに卒後医学研究の第一線でご活躍されています。卒業生のキャリアを考える上で非常に参考になり、励みになるお言葉をいただくことができました。同じ道を選択した先輩・仲間として引き続き情報交換をさせていただく所存です。

続いて同窓生の2名から特別講演を賜りました。

講演1）川添僚也先生「神経難病診療の専門家を目指して」

実際に経験された症例を挙げながら、希少疾患・神経難病の診断に至る過程を紹介してくださいました。3時間にも及ぶ問診からいかに重要なエピソードを引き出し、得られた膨大な量の情報から診断に繋がるものを見出していくか。まさに research mind を臨床に活かしている様子を臨場感たっぷりにお話いただきました。

講演2）荻野広和先生「臨床医になって感じるMD-PhD コースの意義」

大学院時代に培った研究力を武器に、臨床、基礎研究、臨床研究、教育と幅広く精力的に取り組んでおられる様子をご講演いただきました。キャリアの



特別講演2

ターニングポイントにおけるご自身のお気持ちやお考えも赤裸々にお話いただき、その本音トークは後輩にも非常に参考になりました。また、抗がん剤開発などに見られるように基礎医学研究と医療の距離がどんどん縮まっている、というお話も印象的でした。

参加者からは「動画で配信して欲しい」という声もあるくらい、大変ご好評をいただきました。最後に参加者の近況報告、並びに欠席会員からのコメント等を紹介して報告会を終了しました。報告をいたいた同窓生の現況（2018年4月現在）は以下の通りです。

坂根亜由子（54期）

徳島大学大学院医歯薬学研究部

生化学分野 准教授

石澤有紀（54期）

徳島大学大学院医歯薬学研究部

薬理学分野 講師

川添僚也（55期） 東京都立神経病院 神経内科
荻野広和（56期）

徳島大学大学院医歯薬学研究部

呼吸器・膠原病内科学分野 助教

赤池瑠子（62期）

倉敷中央病院 病理診断科 後期研修医

三橋惇志（62期）

徳島大学病院 内科後期研修医

狩野静香（64期）

四国こどもとおとの医療センター

初期研修医

酒井遙介（医学科6年） 徳島大学医学部

藤本将太（医学科5年） 徳島大学医学部

西條早希（博士課程3年） 病態生理学

河本知大（博士課程2年） 人類遺伝学

【第3部：交流会】

場所を移して皆で食事をしながら大いに語り合いました。現役の学生にとって、先輩たちがそれぞれ苦しみながらキャリアを形成していく過程を知ることは新鮮かつ参考になったようです。また同窓会員以外からも大学院生にご参加いただき、今後の研究の発展にも繋がる非常に実りある交流会となりました。

最後になりましたが、本報告会開催にあたりご支援いただきましたAWAサポートセンターおよび医学部後援会に御礼申し上げます。また、青藍会の先輩諸先生方には日頃より格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。MD-PhDコース同窓会員は、皆、悩み、もがきつつも、確実に力をつながらそれぞれの道を歩んでいます。また1年後、どんな医師・研究者になっているかこの場でご報告させていただきます。それまで変わらずのご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。



交流会にて

準会員だより

自身のMD-PhDコースの意義とこれから

医学科5年 藤本将太

私は医学科4年次終了後より3年間、消化器内科学教室で高山教授、六車准教授のご指導のもと、当教室初のMD-PhDコース生として、消化器系腫瘍の医学基礎研究に従事してきた。本稿では、この春の博士課程修了に際し、この3年間を振り返りつつ、自身のMD-PhDコースの意義と今後について少し考えてみたい。

医学研究のきっかけのはほとんどは、日々の臨床で遭遇するClinical question (CQ) にある。そして、CQに答えるにはそれ相応の研究遂行能力と論理的思考力、論文執筆能力が必要となる。しかし、その能力は一日にして成らず、文献検索一つとっても、ある程度の本数の科学英語論文を読み、研究手法の実際を自らが手を動かして知らないと上手く出来ない。私はこの3年間で研究に十分集中でき、それらの能力を身につけることが出来た。このことは、これから臨床実習や臨床研修を迎える私にとって、大きなアドバンテージとなるだろう。新専門医制度が始まり、同世代の若い医師にとって、臨床と研究の両立がますます難しくなり、PhD取得が厳しくなると予想される中で、既にPhDを取得している私たちは、実習中や研修中に遭遇するCQに対しても、すぐさま科学的根拠(EBM)や解決方法(研究計画)を模索すべく行動を起こすことが可能である。

さて、私は博士課程の3年間を消化器内科学教室で過ごした。当教室はいわゆるBench to BedsideのTranslational researchを主とす

る教室であり、そこで私は、消化管間質腫瘍(GIST)に対する光分子イメージング(Diagnosis)と光免疫療法(Therapy)を組み合わせた新たな診断治療法(Theranostics)の開発をテーマに研究をしてきた。消化管粘膜下腫瘍であるGISTは表面が正常粘膜に覆われているため、消化器内視鏡での質的診断が難しく、適切な診断治療時期を逸する可能性がある。したがって、内視鏡下で簡便にGISTを早期診断できる新たなモダリティの開発が必要である(CQ)と考え、内視鏡分子イメージングが専門の六車准教授のもと、GISTに対する内視鏡光分子イメージングおよび光免疫療法の基盤研究を行い、その成果を国内・国際学会、そして英文科学雑誌に発表してきた。特に、国内の消化器内科領域の基礎研究会で最もレベルの高い学会のひとつとされるG-PLUSにおいて優秀賞を頂けたこと、また、米国消化器病週間(DDW)で口頭発表の機会を得て、海外の医師及び研究者と意見をかわすことが出来たことは非常に貴重な経験となった。

また、高山教授のご厚意により、3年目最後の2ヶ月間、ニューヨークのAlbert Einstein College of Medicineで、かねてより希望していた研究留学が実現した。留学体験の詳細はここでは割愛させていただかうが、その中で再確認できたことがひとつある。それは、分業システムが確立しているアメリカにおいて、MD-PhDは唯一、現在進行形で“臨床と研究を橋渡し”出来る存在であり、それは日本でも同様ではないかということだ。患者のために医療を発展させていくには、Bench to Bedsideが可能なMD-PhDがやはり不可欠であり、Clinical questionを常に考え、“Physician Scientist”として臨床と研究の橋渡しをしていくことが、自身的これからの使命ではないだろうか。

最後に、MD-PhDコース博士課程の3年間、学位論文研究に対して手厚いご指導をいただき、また、学会発表や海外留学など数々の貴重な経験をさせていただきました高山教授、六車准教授はじめ諸先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

学友会活動

医学部学友会クラブ・サークル一覧

平成30年度

医学部学友会のクラブ・サークルは、次のとおりです。

準会員の皆様は、サークル活動に積極的に参加して、学生生活を有意義に過ごしてください。

運動部	
クラブ名	助言・指導教員
水上競技部(男女)	河合慶親
弓道部(男女)	丹黒章
硬式野球部	北川哲也
柔道部	谷憲治
空手道部(男女)	丹黒章
卓球部(男女)	香美祥二
バドミントン部(男女)	西岡安彦
サッカー部	高橋章
ゴルフ部(男女)	苛原稔
バスケット部(男女)	川人伸次
合気道部(男女)	上野淳二
水泳部(男女)	松香芳三
硬式庭球部(男女)	福井清
軟式庭球部(男女)	森健治
陸上競技部(男女)	福井清
準硬式野球部	島田光生
ラグビー部	鶴尾吉宏
剣道部(男女)	久保宜明
バレーボール部(男女)	岡久稔也

文化部	
クラブ名	助言・指導教員
ジャグリングサークル	渡辺浩良
軽音楽部	橋本一郎
茶道部	竹谷豊
地域医療研究会	谷憲治
栄養学研究部	酒井徹
外国語研究会	福井清
室内楽同好会	赤池雅史
TIFMSA (徳島国際医学生連盟)	赤池雅史
先端医療研究会	佐田政隆
IAHSS (保健学科国際交流サークル)	LOCSIN ROZZANO DE CASTRO

大学内の動き

(平成29年10月7日以降)

- 平成30年1月15日 白衣授与・Student Doctor認定証授与式挙行(大塚講堂大ホール)
 1月26日 第54回徳大関係医療機関協議会総会を開催(ホテルクレメント徳島)
 2月6日 平成29年度康楽賞贈与式を挙行(長井記念ホール)
 3月4日 徳島大学病院フォーラムを開催(徳島大学大塚講堂)
 3月20日 徳島大学医学部医学科の臨床実習教育病院に関する説明会を開催(医学部第一会議室)
 3月23日 平成29年度卒業式・修了式を挙行(アスティとくしま)
 3月27日 平成29年度国立大学法人徳島大学永年勤続者表彰式及び名誉教授称号授与式を挙行(大学本部庁舎第二会議室)
 4月6日 平成30年度入学式を挙行(アスティとくしま)

徳島大学大学院医歯薬学研究部、徳島大学病院 教授・准教授一覧表

○大学院医歯薬学研究部

(医学域)

平成30年4月1日現在

部 門	系	研究分野	教 授	准教授
医科学部門	生 理	顕微解剖学	鶴尾吉宏	
		機能解剖学	富田江一	平山晃斎
		病態生理学	六反一仁	西田憲生
		統合生理学	勢井宏義	志内哲也
		生化学		坂根亜由子
		薬理学		池田康将
	病 理	細胞生物学	米村重信	
		疾患病理学	常山幸一	小川博久
		生体防御医学	安友康二	
		微生物病原学	野間口雅子	
	社会医学	法医学	西村明儒	
		予防医学	有澤孝吉	上村浩一
		医療教育学	赤池雅史	吾妻雅彦
		血液・内分泌代謝内科学	安倍正博	
	内 科	消化器内科学	高山哲治	六車直樹
		呼吸器・膠原病内科学	西岡安彦	後東久嗣
		腎臓内科学		安部秀斎
		循環器内科学	佐田政隆	添木武
		臨床神経科学	梶龍兒	
		難治性神経疾患病態研究	後藤惠 (特任教授) (難病対策プロジェクト)	
		精神医学	大森哲郎	沼田周助
		小児科学	香美祥二	渡邊浩良
		皮膚科学	久保宜明	村尾和俊
		放射線医学	原田雅史	
	外 科	医療情報学	廣瀬隼	
		臨床薬理学	石澤啓介	座間味義人
		消化器・移植外科学	島田光生	森根裕二
		胸部・内分泌・腫瘍外科学	丹黒章	滝沢宏光
		心臓血管外科学	北川哲也	北市隆
		泌尿器科学	金山博臣	高橋正幸
		脳神経外科学	高木康志	兼松康久
		運動機能外科学	西良浩一	酒井紀典
		麻酔・疼痛治療医学	田中克哉	堤保夫
		眼科	三田村佳典	

部 門	系	研究分野	教 授	准教授
医科学部門	外 科	耳鼻咽喉科学	武田憲昭	阿部晃治
		産科婦人科学	苛原稔	松崎利也
		形成外科学	橋本一郎	安倍吉郎
栄養科学部門	医科栄養学	分子栄養学	宮本賢一	
		生体栄養学	二川健	
		食品機能学	河合慶親	
		予防環境栄養学	高橋章	
		実践栄養学	酒井徹	
		代謝栄養学	阪上浩	
		臨床食管医学	竹谷豊	
		疾患治療栄養学	濱田康弘	
		総合診療医学		山口治隆 (特任准教授)
連携研究部門	寄附講座	地域総合医療学	岡久稔也 (特任教授)	
		脊椎関節機能再建外科学	松浦哲也 (特任教授)	千川隆志 (特任准教授)
		分子難病学	福井裕行 (特任教授)	
		地域医療人材育成	谷洋江 (特任教授)	八木秀介 (特任准教授)
			川人伸次 (特任教授)	
		糖尿病・代謝疾患治療医学	栗飯原賢一 (特任教授)	湯浅智之 (特任准教授)
		地域消化器・総合内科学	佐藤康史 (特任教授)	
		地域運動器・スポーツ医学		米津浩 (特任准教授)
		地域循環器内科学	山田博胤 (特任教授)	
特定研究部門	研究支援	動物資源研究		松本高広
		光イメージング研究	堀川一樹	
		in vivoイメージング研究		丸山将浩
	教育支援	医学教育支援		三笠洋明 (特任准教授)

(保健科学域)

平成30年4月1日現在

部 門	系	研究分野	教 授	准教授
保健科学部門	看護学	看護技術学	LOCSIN ROZZANO DE CASTRO	
		看護教育学	岩佐幸恵	
		看護管理学	谷岡哲也	安原由子
		療養回復ケア看護学	田村綾子	南川貴子
		ストレス緩和ケア看護学	雄西智恵美	今井芳枝
		臨床腫瘍医療学	近藤和也	
		子どもの保健・看護学	森健治	橋本浩子
		生殖・更年期医療学分野	安井敏之	
		女性の健康支援看護学	岸田佐智	
		メンタルヘルス支援学	友竹正人	千葉進一
		地域看護学	岩本里織	岡久玲子
		学校保健学	奥田紀久子	松下恭子
		助産学	葉久真理	田中祐子
	放射線科学	放射線理工学	阪間稔	河野理
		医用理工学	森田明典	
		医用画像情報科学	芳賀昭弘	
		医用画像機器工学	吉永哲哉	
保健科学部門	放射線科学	医用画像解析学	上野淳二	
		画像医学・核医学	大塚秀樹	西原貞光
		放射線治療学	生島仁史	
	医用検査学	生体機能解析学	遠藤逸朗	富永辰也

部 門	系	研究分野	教 授	准教授
保健科学部門	医 用 檢 查 学	微生物・遺伝子解析学	片岡佳子	
		病 理 解 析 学	香川典子	
		細胞・免疫解析学	細井英司	濱野修一

○病院

(医科)

平成30年4月1日現在

病 院 長	永 廣 信 治
-------	---------

診療科部名	教 授	准教授
手 術 部		富 山 芳 信
リハビリテーション部	加 藤 真 介	
周産母子センター		桑 原 章
病 理 部	上 原 久 典	坂 東 良 美
臨床試験管理センター		楊 河 宏 章
安 全 管 理 部		池 本 哲 也 (特任准教授)
卒後臨床研修センター		西 京 子 (特任准教授)
糖尿病対策センター	船 木 真 理 (特任教授)	
口腔インプラントセンター		友 竹 健 則
総 合 診 療 部	谷 憲 治 (特任教授)	
地域脳神経外科診療部		岡 博 文 (特任准教授)
地域産婦人科診療部		岩 佐 武 (特任准教授)
ER・災害医療診療部	大 藤 純 (特任教授)	
地 域 外 科 診 療 部	居 村 曜 (特任教授)	
麻 醉 科 診 療 部		酒 井 陽 子 (特任准教授)
地 域 小 児 科 診 療 部		早 渕 康 信 (特任准教授)

徳島大学病院 科長(部長)等一覧表

平成30年5月1日現在

大診療科	科長	診療科	診療科長	副診療科長	総務医長	外来医長	病棟医長
内 科	西岡 安彦	循 環 器 内 科	佐 田 政 隆	若 橋 哲 三	添 木 武	若 橋 哲 三	伊 势 孝 之
		呼 吸 器 ・ 膜 原 病 内 科	西 岡 安 彦	後 東 久 瞬	豊 田 優 子	飛 梅 亮	荻 野 広 和
		消 化 器 内 科	高 山 哲 治	六 車 直 樹	岡 本 耕 一	田 中 貴 大	三 好 人 正
		腎 臓 内 科	長 井 幸 二 郎	岸 誠 司	村 上 太 一	村 上 太 一	田 蒔 昌 憲
		内 分 泌 ・ 代 謾 内 科	遠 藤 逸 朗	吉 田 守 美 子	吉 田 守 美 子	吉 田 守 美 子	倉 橋 清 衛
		血 液 内 科	安 べ 正 博	賀 川 久 美 子	賀 川 久 美 子	中 村 信 元	藤 井 志 朗
		神 経 内 科	梶 龍 児	和 泉 唯 信	和 泉 唯 信	藤 田 浩 司	村 上 永 尚
外 科	北 川 哲 也	心 臓 血 管 外 科	北 川 哲 也	北 市 隆	黒 部 裕 嗣	菅 野 幹 雄	藤 本 銳 貴
		食 道 ・ 乳 腺 甲 状 腺 外 科	丹 黒 章	吉 田 卓 弘	吉 田 光 輝	鳥 羽 博 明	西 野 豪 志
		呼 吸 器 外 科	滝 沢 宏 光	吉 田 光 輝	吉 田 光 輝	鳥 羽 博 明	西 野 豪 志
		泌 尿 器 科	金 山 博 臣	高 橋 正 幸	高 橋 正 幸	福 森 知 治	山 口 邦 久
		消 化 器 ・ 移 植 外 科	島 田 光 生	森 根 裕 二	東 島 潤	岩 橋 衆 一	西 正 曜
		小 児 外 科 ・ 小 児 内 視 鏡 外 科	石 橋 広 樹	森 大 樹	森 大 樹	石 橋 広 樹	森 大 樹
		感 觉 ・ 皮 膚 ・ 運 動 機能 科	久 保 宜 明	眼 科	三 田 村 佳 典	四 宮 加 容	江 川 麻 理 子
感 觉 ・ 皮 膚 ・ 運 動 機能 科	久 保 宜 明	耳 鼻 咽 喉 科 ・ 頭 頸 部 外 科	武 田 憲 昭	阿 部 晃 治	北 村 嘉 章	東 貴 弘	佐 藤 豪
		整 形 外 科	西 良 浩 一	松 浦 哲 也	浜 田 大 輔	岩 日 敏 幸	高 田 洋 一 郎
		皮 膚 科	久 保 宜 明	村 尾 和 俊	松 立 吉 弘	鉢 谷 真 由	矢 田 未 央
		形 成 外 科 ・ 美 容 外 科	橋 本 一 郎	安 倍 吉 郎	石 田 創 士	山 下 雄 太 郎	峯 田 一 秀
		脳 ・ 神 経 ・ 精 神 科	大 森 哲 郎	脳 神 経 外 科	高 木 康 志	牟 札 英 生	高 麗 雅 章
		麻 醉 科		兼 松 康 久			岡 崎 敏 之
		精 神 科 神 経 科		川 西 良 典			笠 井 飛 鳥
小 児 ・ 周 産 ・ 女 性 科	香 美 祥 二	心 身 症 科	大 森 哲 郎	沼 田 周 助	中 瀧 理 仁	富 永 武 男	渡 部 真 也
		小 児 科	香 美 祥 二	渡 迈 浩 良	漆 原 真 樹	岡 村 和 美	杉 本 真 弓
		産 科 婦 人 科	苛 原 稔	松 崎 利 也	加 地 剰	阿 部 彰 子	米 谷 直 人
放 射 線 科	原 田 雅 史	放 射 線 診 断 科	原 田 雅 史	岩 本 誠 司	阿 部 孝 志	大 友 真 姫	岩 本 誠 司

大診療科	科長	診療科	診療科長	副診療科長	総務医長	外来医長	病棟医長
放射線科	原田 雅史	放射線治療科	生島 仁史	古谷 俊介	古谷 俊介	久保重貴子	川中 崇
歯科	松尾 敬志	むし歯科	松尾 敬志	中西 正	菅 俊行	湯本 浩通	
		歯周病科	湯本 浩通	木戸 淳一	成石 浩司	二宮 雅美	
		そしゃく科	市川 哲雄	永尾 寛	永尾 寛	後藤 崇晴	
		かみあわせ補綴科	松香 芳三	天島 正充	大倉 一夫	鈴木 善貴	
		歯科放射線科	菅田 栄一		細木 秀彦	細木 秀彦	
矯正歯科	田中 栄二	矯正歯科	田中 栄二	堀内 信也	泰江 章博	川合 暢彦	
小児歯科	岩本 勉	小児歯科	岩本 勉	長谷川智一	上田 公子	北村 尚正	
歯科口腔外科	東 雅之	口腔内科	東 雅之	桃田 幸弘	桃田 幸弘	可児 耕一	青田 桂子
		口腔外科	宮本 洋二	眞野 隆充	玉谷 哲也	玉谷 哲也	大江 剛
		歯科麻酔科	北畠 洋	高石 和美	高石 和美	江口 覚	

中央診療施設等	部(室・センター)名	部(室・センター)長	副部(室・センター)長		
			長井 幸二郎	音見 暢一	
	検査部	島田 光生	富山 芳信		
	放射線部	原田 雅史	菅田 栄一		
	救急集中治療部	大藤 純	板垣 大雅		
	リハビリテーション部	加藤 真介	佐藤 紀		
	視能訓練部	三田村佳典	四宮 加容		
	周産母子センター	苛原 稔	桑原 章	中川 竜二	石橋 広樹
	輸血・細胞治療部	安倍 正博	三木 浩和		
	病院情報センター	廣瀬 隼	大倉 一夫	桑原 章	
	病理部	上原 久典	坂東 良美	石丸 直澄	
	臨床試験管理センター	楊河 宏章	金山 博臣	北畠 洋	松久 宗英
	総合歯科診療部	河野 文昭	岡 謙次		
	高次歯科診療部	田中 栄二	細木 真紀		
	総合診療部	谷 憲治	安倍 正博		
	患者支援センター	香美 祥二	谷 憲治	白山 靖彦	廣瀬 隼
	臨床遺伝診療部		加地 剛		久米 博子
	細胞治療センター	安倍 正博	賀川久美子		
	内視鏡センター	高山 哲治	福森 知治		
	超音波センター	佐田 政隆	山田 博胤	楠瀬 賢也	
	高次脳センター	梶 龍兒	原田 雅史		
	技工室	永尾 寛	大倉 一夫	富永 賢	
	歯科衛生室	日野出大輔	福井 誠		
	安全管理部	加藤 真介	高橋 章	リスクマネジメント部門	
				部門長	副部門長
	感染制御部	橋本 一郎	東 桃代	高橋 章	池本 哲也
				村上 圭史	原田 路可
	卒後臨床研修センター	安倍 正博	医科診療部門	上村 卓広	藤原 範子
				西 京子	河野 文昭
	子と親のこころ診療室	森 健治	沼田 周助		
	光線力学的治療センター	丹黒 章	香留 崇		
	医療支援センター	佐田 政隆	西岡 安彦	宮本 洋二	
	脳卒中センター	高木 康志	大藤 純	兼松 康久	
	高度画像診断センター	原田 雅史	岩本 誠司		
	口腔管理センター	東 雅之	高野 英之		
	がん診療連携センター	滝沢 宏光	近藤 和也	生島 仁史	福森 知治
	褥瘡対策室	橋本 一郎	安倍 吉郎		
	物流センター	島田 光生	若槻 哲三	篠原 義明	
	ME管理センター	北川 哲也	田中 克哉		
	アンチエイジング医療センター	松久 宗英	吉田守美子		
	人工透析室		長井 幸二郎		
	バーキンソン病・ジストニア治療研究センター	後藤 恵	梶 龍兒	永廣 信治	
	高次脳機能障害支援センター	永廣 信治	梶 龍兒	加藤 真介	白山 靖彦
	キャリア形成支援センター	赤池 雅史	北畠 洋	高開登茂子	
	糖尿病対策センター	船木 真理			
	徳島県地域医療支援センター	永廣 信治	谷 憲治	赤池 雅史	寺嶋 吉保 (県立中央病院)
	口腔インプラントセンター	市川 哲雄	友竹 健則		
	クリニカルナotti教育・研究センター	金山 博臣	鶴尾 吉宏	赤池 雅史	殿谷 一朗
	てんかんセンター	森 健治	多田 恵曜	東田 好弘	中瀧 理仁
	国際医療センター	西岡 安彦	酒井 紀典	内藤 毅	
	クリニカルパスセンター	島田 光生	廣瀬 隼	笛井 智子	
	総合スポーツ医学センター	永廣 信治	加藤 真介	西良 浩一	
	地域産婦人科診療部	岩佐 武			
	ER・災害医療診療部	大藤 純			
	地域外科診療部	居村 曜			
	地域脳神経外科診療部	岡 博文			
	麻酔科診療部	酒井 陽子			
	地域小児科診療部	早渕 康信			

新任教授紹介



機能解剖学分野
富田江一 (とみた こういち)
(昭和44年7月30日生)

略歴

昭和63年3月 三重県 高田学苑 高田高等学校 卒業
平成6年3月 三重大学医学部 医学科 卒業
平成10年3月 京都大学大学院 医学研究科 博士課程 修了
平成10年4月～平成11年2月
　　日本学術振興会 特別研究員 (PD)
　　京都大学ウイルス研究所 増殖制御学研究分野 所属
平成11年3月～平成12年10月
　　京都大学ウイルス研究所 増殖制御学研究分野 助手
平成12年11月～平成18年6月
　　ドイツ国 マックス・プランク神経生物学研究所 非常勤研究員
平成18年7月～平成25年3月
　　自然科学研究機構 生理学研究所 行動・代謝分子解析センター 助手・助教
平成25年4月～平成29年6月
　　高知大学教育研究部 医療学系 基礎医学部門 解剖学講座 助教・准教授
平成29年7月～ 現職

機能解剖学分野教授就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部
医科学部門生理系 機能解剖学分野
教授 富田江一

平成29年7月付で機能解剖学分野の教授を拝命しました。謹んで、青藍会会員の先生方にご挨拶申し上げます。

私は、三重大学医学部 医学科を卒業後、直接研究の道に進みました。神経系がどのような仕組みで形成されるのかを解明しようと、京都大学大学院 医学研究科 生体情報科学講座 中西重忠教授の研究室で影山龍一郎先生（現京都大学ウイルス研究所教授）のご指導のもと博士課程の研究を開始しました。発生初期、神経幹細胞は増殖能を持った未分化な状態に維持されるのと同時に、一部は神経細胞やグリア細胞へと分化します。このような神経分化過程を経て生み出された多種多様な神経細胞やグリア細胞によって成熟した神経系組織が構築されています。この神経分化過程の各ステップを制御するメカニズムの解明を目指しました。その結果、bHLH型転写因子であり後にNotch因子の下流に位置すると明らかにされたHes1因子が神経幹細胞を増殖能を持った未分化な状態に維持すること、同じbHLH型転写因子ファミリーに属するMath3因子とMash1因子が共役して機能し神経幹細胞を神経細胞へと分化させること、さらに同ファミリーに属するHes5因子やhesr2因子が神経幹細胞をグリア細胞へと分化させることを解明しました。

続いて、こういった神経分化過程で形成された神経系組織が、発生後期から発達期にかけて、成熟した神経回路を構築するまでの過程を制御するメカニズムを解明したいと考え、一次視覚野の形成過程に関する研究で有名なマックス・プランク神経生物学研究所のTobias Bonhoeffer教授およびMark Huebener教授の研究室に留学しました。

大脳皮質に存在する感覚情報の認知に重要な機能ユニット、中でも解剖学的・生理学的解析が一番進んでいる、一次視覚野に存在する遠近感などの視覚情報の認知に必須の機能ユニット「眼優位カラム」に着目しました。ネコ・サル・ヒトなどの視覚系の発達した哺乳類では、同側・反対側眼からの視覚情報は、同じ大脳半球の第一次視覚野において、それぞれ分かれて機能ユニット「同側・反対側眼優位カラム」に入力します。

眼優位カラムは、開眼前の発生期に制御因子によって大まかに同側・反対側眼優位カラムに分けられたのち「初期形成プロセス」、開眼後の発達期になると視覚刺激に促され完全に分離した同側・反対側眼優位カラムへと成熟する「可塑的発達プロセス」という具合に、2プロセスを経て形成されます。これら2プロセスを制御するメカニズムの解明を目指して新たに研究を開始しました。新概念である発生期に認められる眼優位カラム形成の初期形成プロセスを制御するメカニズムの解明を目標として、開眼前の発生期に大まかに同側・反対側眼優位カラムを分離させる制御因子の同定を試みました。その結果、神経軸索延長活性を持ち、発生期の第一次視覚野で同側眼優位カラムに特異的に発現しており、眼優位カラム形成の初期形成プロセスを制御する可能性が高いシャペロン「同側眼優位カラム特異的シャペロン」の単離に成功しました。

この後、生理学研究所に職を得て帰国し、実際にシャペロンが眼優位カラム形成の初期形成プロセスを制御しているのかを証明しようと志すのと同時に、発達期に認められる眼優位カラム形成の視覚刺激に依存した可塑的発達プロセスにも注目しました。発生期に大まかに分かれた同側・反対側眼優位カラムは、発達期になると視覚刺激に促されて完全に分離しますが、この成熟スピードは第一次視覚野6層間で互いに異なります。つまり、各層の成熟スピードはそれぞれ異なる制御因子によって調節されてい

ると考えられます。この制御因子の候補の1つ、発達期の第一次視覚野の特定層に発現しており、視覚刺激の変化で発現パターンが変わる「微小管脱重合促進因子」の同定に成功しました。

こういった神経発生学や神経解剖学の研究を通して、神経系が精巧なヒトの神経系や身体について知識を得たいと思うようになり、高知大学教育研究部 医療学系 基礎医学部門 解剖学講座の由利和也教授の教室に職を得ました。高知大学では、研究につきましては、眼優位カラムの形成メカニズムの解明研究を続けて推進し、教育につきましては、解剖学の講義および骨学実習・系統解剖学実習・神経解剖学実習・組織学実習など医学部医学科の解剖学教育のほぼ全般を網羅する経験を積みました。

徳島大学では、これまでの幅広い経験を生かして、研究に関しては現在まで推進してきた一次視覚野上に存在する眼優位カラムの形成メカニズムの全貌解明を行いたいと思います。教育に関しては、以下のことを進めます。近年、外科系臨床分野で、開腹手術や開胸手術だけでなく腹腔鏡下手術や内視鏡下手術といった低侵襲手術など様々な外科手術手技が行われるようになり、将来医師となる医学部医学科の学生にとって、眼前だけでなくテレビモニター上でも解剖学的構造を把握する能力が必要になるなど、解剖学教育の重要性も増し、求められる内容も大きく様変わりしてきております。このような変化に対応した新しい解剖学の講義・実習を実践していきたいと思います。

今後は、解剖学分野の研究・教育に奮励努力し、徳島大学 大学院医歯薬学研究部 医科学部門の発展に微力ながらも尽くしたいと思いますので、青藍会会員の先生方のご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。



医療情報学分野
廣瀬 隼 (ひろせ じゅん)
(1966年8月5日生)

略歴

平成4年3月	熊本大学医学部卒業
平成4年4月	熊本大学医学部附属病院（整形外科）
平成5年4月	水俣市立総合医療センター（整形外科）
平成6年7月	熊本県立こども総合療育センター（整形外科）
平成7年4月	熊本大学大学院医学研究科（整形外科）入学
平成11年4月	アメリカ ウィスコンシン医科大学（リウマチ科）留学
平成14年4月	国立熊本病院（整形外科）
平成18年4月	熊本大学医学部附属病院助手（整形外科）
平成21年4月	熊本大学医学部附属病院講師（医療情報経営企画部）
平成26年9月	熊本大学医学部附属病院准教授（医療情報経営企画部）
平成29年10月	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授（医療情報学分野）

資格

日本整形外科学会専門医・リウマチ医
日本リウマチ学会専門医・指導医
日本骨粗鬆学会認定医
社会医学系専門医協会専門医・指導医
日本スポーツ協会スポーツドクター

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部医療情報学分野

教授 廣瀬 隼

平成29年10月1日付けで徳島大学大学院医歯薬学研究部医療情報学分野の教授を拝命いたしました。私は熊本出身で、熊本高校から熊本大学医学部を経て、平成4年に熊本大学整形外科講座に入局し、関連病院で一般整形外科を3年間学びました。平成7年からは熊本大学大学院に進学し、骨格筋における虚血再灌流障害モデルにおいて、活性酸素を含むフリーラジカル発生とその抑制に関する研究を行いました。平成11年にはアメリカのウィスコンシン医科大学に留学して、関節軟骨におけるピロリン酸カルシウム結晶の沈着機序に関する研究に従事しました。

平成14年に帰国してからは救急病院である国立熊本病院（現国立病院機構熊本医療センター）に整形外科医として勤務しました。スタッフ数が決して十分とはいえないなかで、クリティカルパスを有効活用することにより、多忙な医療業務を効率的かつ安全に遂行できたことが印象に残っています。また、当時は医療施設の機能分化が進み始め、急性期と回復期医療施設との連携が全国で行われるようになるなかで、大腿骨近位部骨折に対して地域連携パスを電子化しIT運用を行う医療連携にも取り組みました。全国に先駆けたこれらの活動は、平成18年の地域連携パスを活用した医療連携に対する診療報酬の点数化のきっかけとなりましたが、上記のような医療マネジメントの経験が現在の職務の基礎になっています。

平成18年には熊本大学医学部附属病院整形外科に異動し、主に関節リウマチと変形性関節症の診療に従事しました。同時に大学院生を指導しながら、終末糖化産物（AGES）と小胞体ストレスに注目して、関節軟骨変性の発生機序と進行に関する基礎研究に取り組みました。また、T1ρマッピングやT2マッピングといった最新のMRI撮像法を用いて、従来は生体内での評価が困難であった関節軟骨の変性度を定量化する臨床研究も並行して行いました。

平成21年からは、整形外科の外来診療を継続しながら、同院医療情報経営企画部に異動して病院情報システムの運用に関する仕事に従事することになりました。平成22年と平成29年には病院情報システム（HIS）の移行を経験だったので、徳島大学病院において現在進められている平成31年1月のHIS更新の準備作業とシステム構築、およびその後の運営が円滑に達成できるよう、これまで培った経験を活かして責務を果たしていきたいと思います。また、医療施設間連携は全国的にIT化が進められており、徳島県においては診療情報をクラウドで連結する徳島県全域医療介護連携ネットワーク（阿波あいネット）が本年度より運用開始されます。熊本県でも医療および介護施設の診療情報を県全域で共有化する事業（くまもとメディカルネットワーク）が平成26年度より開始されており、私はその構築と運用業務にも携わってきたので、阿波あいネット事業の成功と、徳島県における地域連携や救急・災害時の医療にも貢献できるよう取り組んでいくつもりです。さらにAIやIoTなどの技術を活用し、医療・介護の提供者だけでなく受給者側も利用可能となる、安全で利便性の高いシステムの開発研究を手がけていきたいと考えています。

青藍会の先生方には医療情報の利活用においてご協力ををお願いすることになるとは存じますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆となりましたが、青藍会の益々のご発展をお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせて頂きます。



脳神経外科学分野
高木康志 (たかぎ やすし)
(昭和41年5月6日生)

略歴

学歴

- 昭和60年 大阪教育大学教育学部附属高等学校池田校舎卒業
平成3年 京都大学医学部卒業
平成11年 京都大学大学院医学研究科 博士課程卒業

学位

- 平成11年 京都大学医博

職歴

- 平成3年6月1日 京都大学医学部附属病院脳神経外科研修医
平成4年5月1日 福井赤十字病院脳神経外科医員
平成5年5月1日 国立循環器病センター脳血管外科レジデント
平成11年4月1日 財団法人田附興風会北野病院脳神経外科副部長
平成12年4月1日 Stroke and Neurovascular Regulation, Department of Neurology and Neurosurgery, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School (平成12年度日本学術振興会海外特別研究員) Research Fellow
平成13年9月1日 医薬品副作用被害救済研究開発機構 (京都大学再生医科学研究所再生誘導学研究分野) 派遣研究員
平成14年4月1日 理化学研究所発生再生医学研究センター研究員
平成14年7月16日 京都大学医学部附属病院脳神経外科助手
平成20年4月1日 京都大学大学院医学研究科脳神経外科講師
平成21年10月1日 福井赤十字病院 脳神経外科・脳卒中センター部長・センター長
平成23年4月1日 京都大学大学院医学研究科脳神経外科講師
平成23年8月1日 京都大学大学院医学研究科脳神経外科准教授
平成29年10月1日 徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学分野教授
(現在に至る)

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学分野

教授 高木 康志

平成29年10月に医歯薬学研究部脳神経外科学教授として着任いたしました。脳神経外科教室は昭和49年10月16日に松本圭蔵先生によって開講され、平成9年2月からは永廣信治先生によって率いられてきた伝統ある教室です。平成11年11月からは全国の国立大学に先駆けて脳卒中ケアユニットを開設し、今では年間約300症例の急性期脳卒中の患者さんが搬送されます。そして直達手術、血管内手術のみならず最新の集中管理により数多くの患者さんの治療を行っています。また、脳腫瘍、不随意運動、てんかんに対する外科治療も数多く手がけています。さらには基礎研究の分野においても、脳動脈瘤や脳虚血の分野でめざましい業績を上げています。近年、脳神経外科の領域では、脳動脈瘤や内頸動脈狭窄症、脳動静脈奇形などの分野でその自然歴や外科的治療の成績についてのエビデンスが数多く蓄積され、より安全な手術が重要になっています。単なる手術テクニックのマスターのみならず、神経モニタリングや術中血流評価システム、ニューロナビゲーションなどを通じて合併症の少ない安全な手術が施行されてきています。また、脳神経外科は悪性脳腫瘍に対する遺伝子解析をベースとした新規治療、頭蓋底腫瘍に対する神経内視鏡の適応など、ますますの進歩が認められる分野となっています。基礎研究においても、私も長年手がけてきた神経再生を通して、失われた中枢神経系の機能を回復させるべく研究が進んでいます。私は前任地の京都大学において脳動静脈奇形、もやもや病、脳動脈瘤などの難治脳血管障害の外科治療を中心に、頭蓋底腫瘍や脊髄腫瘍などの手術も数多く手がけてきました。これからの方々に、安全な外科手術ができるようにトレーニングを積んでもらうとともに研究活動も行ってもらいたい論理的思考を持った次世代を担う脳神経外科医を育てていきたいと考えています。

さて、徳島に来て半年が過ぎようとしています。私が住んでいる中洲町は、ケンチョピアや中徳島河畔緑地にほど近く、徳島中央公園も徒歩圏内です。休日はゆっくり散歩しながら、戦国時代以来の城下町の歴史を感じながら、過ごしています。中徳島河畔緑地には、日本の近代医学を切り開いた人々の一人であるポンペや佐藤泰然の弟子であった関寛斎の像があります。この辺りには雰囲気のいい喫茶店も多く、ゆったりとした徳島ライフを楽しんでいます。先日、徳島城博物館で江戸時代の旧徳島城下の町並みの模型を見ました。天然の山と川を利用し難攻不落であった徳島城と水運を利用した城下の往時の繁栄が容易に想像できるものでした。これら近所以外にも、少し散策すれば吉野川や眉山の風景などの、今まで聞き及んできた名所のみならず、新町川や助任川の河畔の風景など、町中にはいつも新しい発見が色々とあります。

これは、脳神経外科教室や徳島大学についても言えるかと思います。外部から来た人間として、日々発見のある新しい視点を大事にしながら、教室や大学の発展に寄与できるように力を尽くしたいと考えております。

青藍会の先生方には、これから脳神経外科教室の発展のためにますますのご支援賜りたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



脊椎関節機能再建外科学分野
松浦 哲也 (まつうら てつや)
(昭和43年9月5日生)

略歴

平成5年3月	徳島大学医学部医学科卒業
平成5年4月	徳島大学大学院医学研究科入学
平成9年3月	徳島大学大学院医学研究科単位取得退学
平成9年4月	高知赤十字病院医員（整形外科）
平成11年6月	徳島大学医学部附属病院医員（整形外科）
平成14年3月	徳島大学大学院医学研究科博士課程修了
平成14年11月	徳島大学医学部附属病院助手（理学療法部）
平成15年9月	米国ピツバーグ大学整形外科リサーチフェロー
平成17年9月	徳島大学医学部附属病院助手（理学療法部）
平成20年5月	徳島大学病院整形外科講師
平成26年7月	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部（現：医歯薬学研究部）准教授 (運動機能外科学)
平成28年10月	徳島大学大学院医歯薬学研究部脊椎関節機能再建外科学特任教授 (現在に至る)

資格

- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 日本体育協会公認スポーツドクター
- 日本リハビリテーション認定臨床医

学会活動

日本整形外科学会、日本整形外科スポーツ医学会（代議員）、日本臨床スポーツ医学会（代議員）、日本肘関節学会（評議員）、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（評議員）、日本肩関節学会、日本足の外科学会、日本リハビリテーション医学会、国際関節鏡・膝・整形外科スポーツ医学会

就任のご挨拶

徳島大学大学院医歯薬学研究部
脊椎関節機能再建外科学分野
特任教授 松浦 哲也（医学部39期）

平成29年10月1日付けで徳島大学大学院医歯薬学研究部脊椎関節機能再建外科学特任教授を拝命いたしました。青藍会の皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。

私は中学時代にスポーツドクターになることを志し、昭和62年に徳島市立高校を卒業、同年に徳島大学医学部医学科に入学いたしました。大学時代は準硬式野球部に所属し、勉強はあまりせず白球を追いかけていました。卒業後は予定通り整形外科に入局し、同時に大学院に進学しました。大学院時代は免荷時の骨格筋に生じる生理的・生化学的变化に関する研究を行いました。また成長期野球肘の疫学調査や病態に関する研究も併せて行いました。

大学院卒業後は2年間、高知赤十字病院にお世話になり、骨折を中心とした外傷学を学びました。その後に帰局し、関節のスポーツ障害・外傷を専門分野としました。2003年～2005年にはスポーツ医学分野で世界的にも有名な米国ピッツバーグ大学に留学する機会もいただきました。臨床では膝靭帯再建術の最前線について学び、基礎では大学院時代にテーマとしていた骨格筋の研究に再び従事しました。研究成果をまとめた幸運にも恵まれましたが、世界各国から訪れていた研究者たちと出会い、日本を外から見る時間を持てたことが何よりの収穫だったと思います。

留学から帰って後は、スポーツに関連した各種関節疾患の診療に携わるとともに、病態解明、治療法の開発や予防に関する研究に取り組んできました。このうち治療に関しては、各種保存療法の適応と限界を明らかにするとともに、関節機能の温存と再建を重視した手術を行い治療成績の検討を行ってきました。手術では正確な解剖学的再建と低侵襲性を重視し、関節鏡視下手術を大半の関節に適応しています。特に肘関節の症例数が多いのが特徴で術後成績について報告してきました。

脊椎関節機能再建外科学は新生児、小児、学童から成人、高齢者まですべての年齢層の運動器疾患を対象にすることが特徴です。少子超高齢化社会となった日本では、健やかな発育・発達を促し、健康寿命を延伸することが喫緊の課題となっています。こうした課題の克服に向けて各種疾患の診療に携わるとともに、病態解明、治療法の開発に関する研究を展開していく所存です。治療以上に重要なのは疾患の予防で、未来の日本を担う小児・学童の関節を守るべく、発育期のスポーツ選手を対象にした検診活動を通じて各種疾患の発生頻度を明らかにし、早期発見・早期治療と予防にも努めてまいります。さらに外部資金獲得にも積極的に応募し、学生や初期・後期研修医の教育にも目を向け、脊椎関節機能外科学教室の更なる発展に、微力ながら尽くす所存です。

末筆になりましたが、青藍会の先生方におかれましては今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひいたします。青藍会の益々のご発展をお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

准教授・講師の異動

○採用

氏名	発令日	講座
米津 浩 (医学部34期)	H29. 11. 1	徳島大学大学院医歯薬学研究部地域運動器・スポーツ医学特任准教授
島田 健司 (医学部46期)	H30. 4. 1	徳島大学病院地域脳神経外科診療部特任講師

○昇任

氏名	発令日	講座
山田 博胤 (医学部40期)	H29. 11. 1	徳島大学病院学長裁量プロジェクト講師から 徳島大学大学院医歯薬学研究部地域循環器内科学特任教授
東 貴弘 (医学部47期)	H30. 1. 1	徳島大学大学院医歯薬学研究部耳鼻咽喉科学助教から 徳島大学病院感覚・皮膚・運動機能科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）講師
岡 博文 (医学部29期)	H30. 4. 1	徳島大学病院地域脳神経外科診療部特任講師から 同特任准教授
渡邊 浩良 (医学部40期)	H30. 4. 1	徳島大学病院小児科講師から 徳島大学大学院医歯薬学研究部小児科学准教授
和泉 唯信 (医学部41期)	H30. 4. 1	徳島大学病院内科（神経内科）診療支援医師から 同特任講師
加藤 剛志 (医学部42期)	H30. 4. 1	徳島大学大学院医歯薬学研究部産科婦人科学助教から 同講師
黒部 裕嗣 (医学部46期)	H30. 4. 1	徳島大学大学院医歯薬学研究部心臓血管外科学助教から 徳島大学病院外科（心臓血管外科）特任講師
河野 弘 (医学部50期)	H30. 4. 1	徳島大学病院内科（呼吸器・膠原病内科）助教から 同講師
高須 千絵 (医学部53期)	H30. 4. 1	徳島大学病院周産母子センター助教から 徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器・移植外科学講師

○配置換

氏名	発令日	講座
早瀬 康信 (医学部35期)	H30. 4. 1	徳島大学大学院医歯薬学研究部小児科学准教授から 徳島大学病院地域小児科診療部特任准教授
兼松 康久 (医学部43期)	H30. 4. 1	徳島大学病院地域脳神経外科診療部特任准教授から 徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学准教授

康楽賞の受賞

平成29年度の康楽賞は次の人に贈与された。

○教員の部

所属部局	職名	氏名	研究題目
大学院医歯薬学研究部	准教授	沼田周助 (医学部46期)	デノボ点変異(子に生じた新たなゲノムの変異)に注目した統合失調症の発病機序の解明研究
大学院医歯薬学研究部	准教授	後東久嗣 (医学部43期)	肺癌を中心とした呼吸器疾患の病態解明および新規分子標的治療の開発
病院	准教授	桑原章 (医学部36期)	生殖補助医療の安全性と有効性に関する研究

○学生の部（学術研究関係）

学科・教育部名	学年	氏名	研究題目
医科学教育部	博士課程1年	鳥居裕太	器質的心疾患のない心房細動患者における三尖弁輪取縮期移動距離への影響
医学部医学科	5年	大島啓亮	鉄は酸化ストレスを介した HIF-2α の不活性化によりエリスロポエチンの発現を低下させる

○学生の部（奨学生関係）

学科・教育部名	学年	氏名
医科学教育部	博士課程3年	武田知也
医学部医学科	6年	杉本達朗

大塚芳満記念財団奨学助成金の受賞

平成29年度（第16回）の大塚芳満記念財団奨学助成金は次の人に贈与された。

学科・教育部名	学年	氏名
医科学教育部	博士課程3年	藤本将太
医学部医学科	6年	狩野静香
医学部医学科	6年	佐々塙涼弥
医学部医学科	6年	黒澤すみれ
医学部医学科	6年	林篤志
医学部医学科	6年	磯村祐太

学位授与

○博士課程修了者

授与年月日	所 属	氏 名	論 文 題 目
平成29年10月26日	消化器内科学	岡田泰行 (医学部56期)	EGFR Downregulation after Anti-EGFR Therapy Predicts the Antitumor Effect in Colorectal Cancer (大腸癌における抗EGFR抗体薬治療後のEGFR Downregulationは抗腫瘍効果を予測する)
平成29年10月26日	消化器・移植外科学	寺奥大貴 (医学部58期)	Role of thrombospondin-1 expression in colorectal liver metastasis and its molecular mechanism (大腸癌肝転移におけるThrombospondin-1発現の役割とその分子メカニズム)
平成30年1月25日	産科婦人科学	炬口恵理 (医学部53期)	Growth inhibitory effect of the Src inhibitor dasatinib in combination with anticancer agents on uterine cervical adenocarcinoma cells (子宮頸部腺癌細胞においてSrc阻害薬ダサチニブを抗癌剤と併用したときの増殖抑制効果)
平成30年3月23日	耳鼻咽喉科学	近藤英司 (医学部49期)	Aural stimulation with capsaicin ointment improves swallowing function in elderly patients with dysphagia (カプサイシン軟膏による外耳道刺激は高齢嚥下障害患者の嚥下機能を改善する)
平成30年3月23日	運動機能外科学	筒井貴彦 (医学部49期)	Efficacy of a computed tomography-based navigation system for placement of the acetabular component in total hip arthroplasty for developmental dysplasia of the hip (発育性股関節形成不全への人工股関節置換術における窓骨臼コンポーネント設置に対するCT-basedナビゲーションシステムの有効性)
平成30年3月20日	呼吸器・膠原病内科学	西條敦郎 (医学部50期)	Bone marrow-derived fibrocytes promote stem cell-like properties of lung cancer cells (骨髓由来線維細胞は肺がん細胞のがん幹細胞様特性を増強する)
平成30年3月23日	眼科学	仁木昌徳 (医学部55期)	MicroRNA-449a deficiency promotes colon carcinogenesis (マイクロRNA449aの欠損は大腸での腫瘍形成を促進する)
平成30年3月23日	消化器内科学	藤本大策 (医学部53期)	Linked color imaging enhances endoscopic detection of sessile serrated adenoma/polyps (Linked color imagingはsessile serrated adenoma/polypsの検出率を向上させる)
平成30年3月23日	脳神経外科学	曾我部周 (医学部52期)	Intra-arterial high signals on arterial spin labeling perfusion images predict the occluded internal carotid artery segment (Arterial spin labeling灌流画像で得られる血管内高信号は内頸動脈の閉塞部位を予測する)
平成30年3月23日	病態生理学	板井美樹 (医学部58期)	Geranylgeranylacetone prevents stress-induced decline of leptin secretion in mice (ゲラニルゲラニルアセトンはマウスにおいてストレスによるレプチン分泌の減少を防ぐ)

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報ならびに本学HPをご覧ください。
また、徳島大学同窓会連合会のFacebook (<https://www.facebook.com/bizankai/>) を開設しました。

徳島大学の情報をよりリアルタイムでお届けします。ぜひ、「いいね！」よろしくお願いします。

<徳島大学総務部総務課>

Tel : 088-656-9979 Fax : 088-656-7012 URL : <http://www.tokushima-u.ac.jp/>

Facebook



1 徳島大学、クラウドファンディングに挑戦中

研究者の研究費獲得手段の一つとして、平成28年度に開始したクラウドファンディングも、3年目を迎えるました。徳島大学からは、これまでに「野球界の未来を拓く子どもたちのために少年野球選手のひじ障害を防ぎたい！」など、10件のプロジェクトが挑戦し、皆さまから温かいご支援を多数いただきました。

平成29年度からは、インターネットを利用して課題解決を呼びかけ、不特定多数の個人あるいは団体から提案してもらう仕組みであるクラウドソーシングも開始しています。

2 大鵬薬品工業株式会社と基礎研究に関する協定書覚書の調印式を行いました

平成29年10月30日、徳島大学は大鵬薬品工業株式会社と基礎研究に関する協定書について期間延長のため覚書を締結し、調印式を行いました。

大鵬薬品工業株式会社と徳島大学は平成16年度、平成26年度にそれぞれ協定を締結し、同社の支援によりがん関連分野の先進的基礎研究拠点の構築と研究振興を目指して活動を進めてきました。平成30年3月31日に協定の満了を迎えますが、引き続き連携研究活動を行います。

3 「徳島大学病院フォーラム2018春」を開催しました

平成30年3月4日、徳島大学蔵本キャンパス内の大塚講堂において、市民公開講座「徳島大学病院フォーラム2018春」を開催しました。第一部では「スポーツ医療」をテーマに最新の取組等を紹介し、第二部では「がん」をテーマにそれぞれの専門医が講演を行いました。約450人の参加者の方々は、最新医療の講演に熱心に聞き入っておられました。

本フォーラムは、県民の健康の増進と医療に対する意識の向上の一助になることを目的として開催しており、今回も盛況のうちに終了することができました。

4 第2回「仁生イノベーショングラント」最終成果報告会を開催しました

平成30年3月13日、学生が創出した新規アイデアの実現化、社会への還元を目的に平成28年度に創設された助成金「仁生（じんせい）イノベーショングラント」の第2回最終成果報告会を開催しました。

平成29年度に助成を受けた5課題の学生グループは、それぞれの活動成果を多くの方に知っていただくため、工夫を凝らした報告を行い、会場に訪れた聴講者は、学生達の成果報告に興味深そうに耳を傾けていました。

徳島大学基金へのご協力のお願い

「徳島大学基金」は、皆さまから事業区分ごとにご支援いただいた寄附金を基金として積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能となりました。

徳島大学創立70周年記念事業基金

2019年に迎える、徳島大学創立70周年記念事業へのご支援

教育・研究・社会貢献事業基金

プロジェクト事業や全学的な教育・研究、管理運営、環境整備などへのご支援

国際交流・グローバル化事業基金

留学、教員の海外派遣など、国際交流事業へのご支援

修学支援事業基金

授業料等の免除など、学生の修学へのご支援

学部等支援基金

各学部、先端酵素学研究所の教育・研究や管理運営、環境整備へのご支援

古本募金 <http://www.furuhon-bokin.jp/tokushima-u/>

不要になった本、CD、DVDを寄贈いただき、買取金額を基金に充てます

詳しくは徳島大学基金
ホームページ
(<http://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/>)をご覧ください。



- 基金に関するお問合せ
徳島大学基金事務局
(担当: 総務部総務課)
電話 088-656-9981
- 申込手続き、税制上の優遇措置に関するお問合せ
徳島大学財務部資産管理課
電話 088-656-7037

メディア（新聞等）にみる医学部・青藍会

徳島県軟式野球連盟は、投球動作を繰り返すことで生じるスポーツ障害・野球肘に対するため、小学生の投球教習を実施するルールを来年から設ける。投手1人の上限を1日7球とし、

来年から主催5大会

野球肘予防 1日70球

小学生に投球数制限

重視されねばならぬ」とあり、慶應大学院における政策が代する専任教授の松浦吉也ケースを取り、上園を即^シ（形勢外見）が「投げて立つ」の如きの手が障害を負うリスクを避けねばならないことは研究者高い」といってある。

徳島新聞 2017年(平成29年)11月6日

小学生の「野球肘」予防へ 徳大医師 練習場に出張

投球動作を繰り返すことで生じる肘のスポーツ障害「野球肘」を早期に発見しようと、長年試合会場での検診活動を続けている徳島大大学院特任教授の松浦哲也医師(49)

大会に導入され、
の投球数制限のゆえ
併せて行うこととし
手生命が長く、選手が育つ環境
を目指す。
現在3チームに
に賛同しており
早くもスター
る。来秋には無観

が、障害を予防するための新たな活動に乗り出す。少年野球チームの練習場へ出向ки、投球前後の肘を診察するなどして、適正なトレーニングの質や量を検証する。

年明けにも
スタート 発症の背景探る

い」で肘検診を始め、現在も続いている。検診によって早期発見が可能になり、重症例は

徳島新聞 2017年(平成29年)12月5日

徳島新聞 2017年(平成29年)11月 8日

-96-

徳島文理大の次期学長に選ばれた

田村 純一さん

創立125周年となる2020年を控え、9学部27学科を束ねるかじ取り役を任せられた。少子化による18歳人口の減少が続く中、「学生に選ばれる、魅力のある大学として、一層の努力と工夫をし続けなければならない」と意気込む。

徳島文理大は学生一人当たりの教員数が全国の私立大で上位にあり、看護師や理学療法士など、国家試験の合格率は全国平均を反映し、社会貢献の役割を果たす。

学生の夢かなえる力を磨く

田村 純一さん

西田玲子さん

鈴木信夫さん

（写真）

徳島新聞 2018年(平成30年)3月27日



徳島市出身。専門分野は内科学と循環器病学で、徳島大医学部に進学し、体の仕組みの奥深さに興味を抱いて内科医を志した。同大学病院の臨床医として長く活躍。国立善通寺病院(香川県善通寺市)で看護学生らを教育指導してきた経験などを賣われ、12年に徳島文理大保健福祉学部の教授に就任した。



宇宙開発利用大賞の文部科学大臣賞を受賞した二川教授

二川教授(大学院)に文部科学大臣賞

筋萎縮予防研究で功績

宇宙開発利用の推進に貢献した個人・団体を表彰する「第3回宇宙開発利用大賞」(内閣府主催)で、徳島大院医歯薬学研究部の一川健教授(宇宙生物学、分子栄養学)が

二川教授は医学を基盤とした栄養学の研究として、無重力や寝起きり状態でみられる筋萎縮に着目。県内外の企業や大学など20

09年に研究会を立ち上げ、筋萎縮に有効な機能性宇宙食の共同開発を進めることで、社会が進む中、筋萎縮は克服すべき疾患の一つ。機能性宇宙食の開発は宇宙環境だけではなく、寝起きり防止などにも応用できる。今後も、健康増進につながる研究に取り組んで

医で、ソプラノ歌手の西田玲子さん(徳島市出身)の詩を歌い上げる。田玲子さん(59)東京の病床にありながらも感謝が、19年6月半から徳島市シビックセンターでリサイタルを開き、難しいと願っている。亡くなった詩人鈴木信夫(まれ)。7歳の時に全盲の鈴木さんは神奈川県生

筋肉が萎縮する筋ジストロフィーと診断された。2011年5月に40歳で亡くなるまで、わずかに動く手指でパソコンを使い、約2千編の詩を書き残した。

「お母さん」「なんであつたかい書きなんだ」「僕は、あなたのところに生まれてよかったのは、世界でいちばんの奇蹟だったのです」(お母さん)

（廣井和也）

（お母さん）

（廣井和也）

2017秋の写真俳句大賞発表



(評) 思わず帰り道を急ぎたくなる句です。車の後ろ側に陽が沈んでいくのも、秋の夕暮れ時のわびしさや肌寒さを感じさせて、趣深いものになっています。海の水平線と吊り橋の縦線の対比も見事です。

森林誠一氏が名誉顧問を務める写真俳句連絡協議会において選考
「HAIKU 日本」にて掲載 <https://haikunippon.net/>

日々是一句

—ケータイ写真で捉えた日常を詠む—
by Kyoko Sumitomo (今比古)

短めの
文を投函
スーパームーン

鶴の門
風すり抜ける
春隣

同級生の住友京子先生は心療内科医であり、文学のエキスパートでもあります。このたび、写真俳句大賞を受賞されたのでご紹介いたします。

医学部27期 林 健司

徳島大学同窓会連合会の活動報告

徳島大学総務部総務課同窓生・基金係

1 平成29年度徳島大学同窓会連合会交流会（びざん会）開催

平成29年10月12日（木），徳島市内のザ・グランドパレスで，びざん会が開催されました。

野地学長，高石理事，佐々木理事，吉田理事，牧野監事，立木監事，佐野学長補佐の他，各部局教授等21名，名誉教授8名，各同窓会会員の方々が出席されました。

野地学長から挨拶及び近況報告のあった後，各同窓会会長からご挨拶及び活動状況についてご報告をいただきました。

また，河田睦眉会会長のご発声で乾杯の後，歓談の中では赤池医学部副学部長など，各学部長等から学部の近況について報告がありました。



野地学長による近況報告



挨拶される桜井会長



赤池副学部長による医学部近況報告

2 徳島大学同窓会連合会近畿地区交流会（近畿びざん会）開催

平成29年11月12日（日），大阪大学中之島センター交流サロン サロン・ド・ラミカルで，近畿びざん会が開催されました。地区のびざん会は関東と近畿で隔年で開催しており，近畿びざん会は今回で5回目となります。

大学からは野地学長，高石理事，佐々木理事，吉田理事，根本理事，齊藤副学長の他，教授等4名が出席しました。また，山田正興先生，山本尚三先生など名誉教授5名，各同窓会からは青藍会桜井会長，

中川近畿支部長をはじめ，各同窓会の代表の方々がご出席くださいました。

野地学長からの挨拶，近況報告の後，同窓会会長，支部長からのご挨拶及び活動状況報告が行われ，青藍会の中川近畿支部長に乾杯のご発声をいただきました。

開催にあたっては，青藍会近畿支部にお世話いただきました。平成30年度の関東びざん会は，工業会関東支部にお世話いただき開催する予定です。



中川支部長による乾杯の御発声



野地学長と青藍会の皆さん



会場の様子

徳島大学同窓会連合会

http://www.tokushima-u.ac.jp/visitor/alumni_association/index.html

徳島大学同窓会連合会 Facebook <https://www.facebook.com/bizankai/>

医学部教育研究振興基金への寄付のお願い

医学部長・大学院医科学教育部長
丹 黒 章

青藍会会員の皆様には、日頃より医学部医学科ならびに大学院医科学教育部の運営に関しまして、格別のご指導とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、徳島大学医学部は、その前身である徳島医学専門学校が設置されてから今年で75年になり、新制大学の医学部となってから69年、大学院医学研究科ができてから64年が経過します。この間、四国唯一の医学部として四国を中心に全国各地で活躍する優秀な多数の医師を養成するとともに、生命科学や医学研究の研究拠点として、先端的な医学研究で世界的に評価される高いレベルの成果を生み出し、輝かしい歴史を刻んできました。特に、医学教育や研究部門で日本をリードする人材を輩出してきました。

このような中、平成15年度に故人となられたある青藍会会員のご遺志により、医学部のために役立ててほしいとの願いを込めていただいた寄付をもとに、「医学部教育研究振興基金」を設けました。この貴重な資金により、平成16年度には40年間使用されて老朽化した旧第一臨床講堂を全面改修し、最新鋭の映像機器を導入しました。同講堂は、平成17年度から「青藍講堂」と名称を変えて、医学、歯学、薬学の学生教育や統合講義に使われるほか、講演会やセミナー、研修会などに利用され、高度先進医学や医療に関する情報発信拠点として有意義に使用されています。改めて、ご寄付賜った会員に深謝申し上げるとともに、今後とも有効活用させていただく所存です。

また、平成25年3月に大塚ホールディングス株式会社様からのご寄附で、これも老朽化した「大塚講堂」の改修整備が行われ、約700名がゆったりと座れる大ホール、また100名規模の小会議室2室、その他の談話室などを備えたすばらしい講堂に生まれ変わりました。ここでは、リニューアル早々から多くの講演会やセミナー、医学科の学生の講義などに

使用されています。

さらに、平成25年8月には一般財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会からのご寄付を受けた藤井節郎記念医科学センターが完成し、これからの中島大学蔵本キャンパスの中心的な研究施設として発展していくことになりました。現在、その内容の充実を進めているところです。

平成26年11月には、故勝沼信彦元医学部長のご遺族から、基礎医学研究の発展及び独創的観点で生命科学分野の開拓に挑戦する研究者が育つようにとの思いを託されました寄附をもとに、「勝沼奨学基金」を設けました。

このように、蔵本キャンパスの学部関係の施設設備は毎年新しくなり、これから有意義に使用されていくと思いますが、一方で、平成16年からの国立大学法人化を契機に、国からの交付金が年々減額される中で、競争的資金の獲得競争が激しくなり、国からの運営費交付金のみに頼る時代は過ぎ、自己努力で新しい事業を展開する必要があります。特に、グローバル化、研究マインドを持つ医師の輩出を目指して、研究環境の整備、若手の研究者への医学部賞などの表彰による支援、学部学生のMD-PhDコースの充実、外国人研究者の受け入れと国際交流の活性化、など、積極的に推進しなければならない事業は目白押しです。今後とも、この基金を本学部の教育、研究の改善や充実に役立たせて参ります。

青藍会会員の皆様におかれましては、このような事情とこの基金の趣旨をご理解いただき、今後とも厚いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、頂戴したご厚情を大切に生かし、母校の発展に努める所存ですので、これからもご支援賜りますようお願いいたします。

なお、本基金へのご寄附あるいはお問い合わせは、下記までご連絡いただければ幸いです。

蔵本事務部医学部総務課管理係（担当 榎本）

電話 088-633-9119 FAX 088-633-9028

e-mail : isykanric@tokushima-u.ac.jp

青藍会の動き

平成29年11月1日以降

- | | |
|-------------|---|
| 平成29年11月20日 | 青藍会広報委員会（青藍会事務室） |
| 12月8日 | 青藍会会報第90号・会員名簿発行 |
| 平成30年2月7日 | 講演会実行委員会（青藍会館小会議室） |
| 3月1日 | 青藍会役員会（青藍会館小会議室） |
| 3月23日 | 第66回卒業式 医学部64期生に卒業記念品贈呈
(ケース付USBカード・青藍会会報第89・90号)
会員名簿・ようこそ青藍会へ・青藍の碑) |
| 4月6日 | 徳島大学医学部医学科新入生歓迎会（第一臨床講堂） |
| 4月17日 | 青藍会賞選考委員会（日亜メディカル） |

青藍会出身教授一覧

氏名	期	大学名	講座	氏名	期	大学名	講座
田村禎通	17	徳島文理大学	保健福祉学部	重光修	28	大分大学	救急医学
木内淳子	18	滋慶医療科学大学院大学	医療安全管理	糟谷英俊	28	東京女子医科大学	脳神経外科
泉啓介	19	徳島文理大学	保健福祉学部	谷憲治	28	徳島大学	総合診療部
清水英治	24	鳥取大学	分子制御内科学	高岡道雄	28	甲子園大学	栄養学部
上野淳二	24	徳島大学	医用放射線技術科学	上田夏生	29	香川大学	生化学
川浦昭彦	24	吉備国際大学	理学療法学科	橋本雅章	29	国際医療福祉大学	脳神経外科学
苛原稔	25	徳島大学	産科婦人科学	宇野昌明	29	川崎医科大学	脳神経外科学
香川典子	25	徳島大学	病理解析学	江原寛昭	29	滋賀大学	障害児教育
北川哲也	26	徳島大学	心臓血管外科学	伊藤裕司	29	純真学園大学	医療工学科
香美祥二	26	徳島大学	小児科学	横越浩	30	四国大学	生活科学部
横関博雄	26	東京医科歯科大学	皮膚科学	橋本健志	30	神戸大学	保健学研究科
長谷川好規	26	名古屋大学	呼吸器内科学	勢井宏義	30	徳島大学	統合生理学
北畠洋	26	徳島大学	歯科麻酔科学	近藤和也	30	徳島大学	臨床腫瘍医学
東敬次郎	26	徳島文理大学	看護学科	前田健一	30	徳島大学	保健管理センター
斧康雄	27	帝京大学	微生物学	安井敏之	30	徳島大学	生殖補助・更年期医療学
丹黒章	27	徳島大学	胸部・内分泌・腫瘍外科学	森健治	30	徳島大学	子どもの保健・看護学
峠哲男	27	香川大学	健康科学	加藤真介	30	徳島大学	リハビリテーション部
川上照彦	27	吉備国際大学	理学療法学科	安倍正博	30	徳島大学	血液・内分泌代謝内科学
内藤毅	27	徳島大学	国際センター	石堂一巳	31	徳島文理大学	健康科学研究所
鶴尾吉宏	28	徳島大学	顕微解剖学	上野修一	31	愛媛大学	精神神経科学
下泉秀夫	28	国際医療福祉大学	医療福祉分野	赤池雅史	31	徳島大学	医療教育学
金山博臣	28	徳島大学	泌尿器科学	鈴江毅	31	静岡大学	教育学部

氏名	期	大学名	講座	氏名	期	大学名	講座
三上 靖夫	31	京都府立医科大学	リハビリテーション医学	田中 克哉	36	徳島大学	麻酔・疼痛治療医学
原田 雅史	32	徳島大学	放射線医学	岩田 貴	36	徳島大学	医療系基盤教育
高橋 吉孝	32	岡山県立大学	栄養学科	松崎 健司	36	徳島文理大学	診療放射線医学
寶學 英隆	32	奈良先端科学技術大学院大学	保健管理セシナー	住谷 さつき	36	徳島大学	特別修学支援分野
川人 宏次	32	自治医科大学	心臓血管外科	上原 久典	36	徳島大学	病理部
吉栖 正典	33	奈良県立医科大学	薬理学	川人 伸次	37	徳島大学	地域医療人材育成
二川 健	33	徳島大学	生体栄養学	栗飯原 賢一	37	徳島大学	糖尿病・代謝疾患治療医学
岡久稔也	33	徳島大学	地域総合医療学	小山 文彦	37	東邦大学	産業精神保健・職場復帰支援セシナー
久保 宜明	34	徳島大学	皮膚科学	久枝 一	38	群馬大学	国際寄生虫病
西岡 安彦	34	徳島大学	呼吸器・膠原病内科学	中村 教泰	38	山口大学	器官解剖学分野
西良 浩一	34	徳島大学	運動機能外科学	遠藤 逸郎	38	徳島大学	生体機能解析学分野
橋本 一郎	34	徳島大学	形成外科学	友竹 正人	39	徳島大学	メンタルヘルス支援学
志馬 伸朗	34	広島大学	救急医学	桑原 知巳	39	香川大学	分子微生物学
高橋 章	35	徳島大学	予防環境栄養学	前川 洋一	39	岐阜大学	寄生虫学・感染学
松田 純子	35	川崎医科大学	病態代謝学	奥村 裕司	39	相模女子大学	健康栄養学科
相澤 徹	35	環太平洋大学	体育学部	松浦 哲也	39	徳島大学	脊椎関節機能再建外科学
堀井 新	35	新潟大学	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	大塚 秀樹	40	徳島大学	画像医学・核医学
篠原 尚	35	兵庫医科大学	上部消化管外科学	山田 博胤	40	徳島大学	地域循環器内科
安友 康二	36	徳島大学	生体防御医学	居村 曜	43	徳島大学	地域外科診療部
矢野 聖二	36	金沢大学	腫瘍内/外科学	大藤 純	43	徳島大学	ER・災害医療診療部
井原 義人	36	和歌山県立大学	生化学	伊藤 弘道	45	鳴門教育大学	特別支援教育



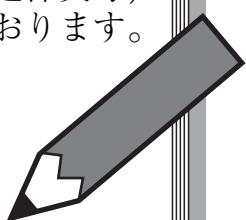
原稿・写真をお待ちしております

青藍会会報は、会員の皆様からのご寄稿によって
発行できており、ご協力に心より感謝申し上げます。

同窓会開催のご報告、医学部時代の思い出、近況、追悼文等、
会員通信の項へのご寄稿及び扉の写真をお待ちしております。
青藍会事務局までご連絡下さい。

TEL 088-633-7109 FAX 088-633-3180
E-mail seiran@tokushima-u.ac.jp

次号92号（12月発行）の締め切りは、10月1日です。



投稿規定

広報委員会

○ 原稿について

- 必ず、文頭にタイトル、氏名・卒業期をご記載ください。
例 タイトル〇〇〇〇〇〇〇 山田太郎（医学部〇期）
- 原則として文字数は1,400字程度、写真は3枚以内でお願いいたします。
但し会員通信は1,400字以内、写真は1枚でお願いいたします。
なお、写真には見出しあるいは説明文を必ずつけてください。
- 英数字は半角文字で、カタカナは全角文字で入力してください。
- 原稿の文中に登場する氏名及び敬称については、スペースを入れずに記載してください。
(例 山田太郎君 高倉健さん 松下幸之助先生)

○ 原稿及び写真の送付について

- 原稿送付は、可能な限りメール添付または電子媒体にてお送りください。
プリントされた写真については、郵送にてお送りください。後日、返送いたします。
- 画像ファイルを送付される場合は、原稿とは別に、JPEGファイル等でお送りください。
原稿（Word等）に貼り付けますと、画質が悪くなります。
なお、画像ファイルの容量が大き過ぎますと届かないことがあります。容量を小さくして1枚ずつに分けてお送りください。また、青藍会事務局からの連絡がなかった場合は、届いていないことが考えられますので、再度確認のご連絡をお願いいたします。

○ 原稿の締め切り日を厳守願います

会報の印刷および製本には、原稿をお預かりした後、ゲラ刷り作成、校正、修正、編集会議などで2ヶ月ほどの時間を必要といたします。
締め切り日より遅れた場合は、次号の掲載になりますので予めご了承ください。

○ 編集作業について

- お送りいただきました原稿は語句などに関して広報委員会で校閲させていただきます。その結果、修正をお願いする場合もございますことをご了承おきください。
- また、用語や表記などの統一のために文章に手を入れることがございます。予めご了承ください。

○ 原稿校正について

- 広報委員会で会報全頁のレイアウト等を校正後、製本前のゲラ刷りを作成しお送りさせていただきますので、著者校正をお願いいたします。
- 校正時の大変な追記、削除等は、会報発行期日に影響いたしますので、ご遠慮くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

事務局からのお願い

◆ 個人情報の取り扱いについて ◆

平成17年から個人情報保護法が施行され個人情報は厳重に取り扱うことが求められています。青藍会事務局におきましても会員の個人情報は慎重に管理し、取り扱いにつきましては細心の注意を払っております。従いまして電話等での**会員情報の提供**につきましては原則お断りをさせていただいております。会員のプライバシー保護とトラブル防止のためより一層のご理解とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

電子化の昨今ではございますが、会員名簿を大いにご活用くださいますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

会員名簿について

1. 会員名簿は、青藍会会員及び本学講座（研究分野）以外には配付しないこととなっております。名簿の保管には十分ご注意くださいますようお願い申し上げます。また**不正使用防止**のため旧版の廃棄等についてはお手数ですが断裁するなどのご配慮をお願いいたします。
 2. 会員名簿及び会報を送付後、転居先不明で返送されてくる郵便物が相当数あり転送等にかなりの費用がかかっております。
勤務先、現住所等名簿のデータに変更がある場合は会員名簿末尾に綴じ込みの青藍会会員名簿変更届または会報末尾に綴じ込みの青藍会会員管理システムデータ変更届をご利用の上速やかにお申し出ください。
 3. 会員名簿に現住所・電話番号等の掲載を望まれない方につきましては「**不掲載項目欄**」に不掲載希望項目を記載の上お申し出ください。
- ※間違いトラブル等防止のため電話での連絡はご遠慮願います。

ご注意ください!!

なりすましのニセ電話について

最近「青藍会事務局の〇〇です。会費のことや…」という青藍会事務局事務員になりすましたニセ電話の事例が数件報告されております。

過去には「青藍会の〇〇です。」「医学部第〇期卒の〇〇です。」「徳島大学の〇〇です。」「〇〇病院の〇〇です。」という同窓生や「青藍会のお荷物のことや…。」という宅配便業者になりましたニセ電話の報告もございました。

電話の内容によりますと青藍会に関する情報に詳しい場合がございますので十分お気をつけください。勤務先及びご家族（帰省先）の皆様にも注意の呼びかけをお願いいたします。

青藍会事務局では、突然の電話による会費のご案内や個人情報の照会はいたしておりません。

また、本人確認のできない電話による照会は、お断りさせていただいております。

くれぐれもなりすましのニセ電話にはご注意ください！！

講演会のお知らせ

青藍会会長 桜井池田えつ史
講演会実行委員長 赤多雅美
蔵本祭学術講演委員長 多田

第35回青藍会・医学科講演会を下記のとおり開催いたします。

多数のご参加をお待ちしています。

講師 大阪大学栄誉教授
大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授

坂口志文先生

日時 平成30年10月25日(木) 18時30分～20時
場所 徳島大学藤井節郎記念ホール(蔵本キャンパス)
演題 「自己と非自己の免疫学：新しい免疫医療に向けて」

坂口志文先生 ご略歴

【学歴・職歴】

1976年3月	京都大学医学部医学科卒業	1992年10月	新技術事業団「さきがけ21研究」 研究員
1976年5月	医師免許取得	1995年4月	東京都老人総合研究所免疫病理部 門部門長
1976年4月	京都大学大学院医学研究科入学	1999年2月	京都大学再生医科学研究所生体機能調節学分野教授
1977年10月	愛知県癌センター研究所実験病理 部門研究生	2007年10月	京都大学再生医科学研究所所長
1980年4月	京都大学医学部免疫研究施設及び 附属病院輸血部医員	2011年4月	大阪大学免疫学フロンティア研究 センター実験免疫学分野教授
1983年9月	京都大学医学部博士号取得	2013年7月	大阪大学特別教授
1983年9月	Johns Hopkins 大学客員研究員	2016年4月	大阪大学名誉教授，京都大学名誉教授
1987年7月	Stanford 大学客員研究員	2017年4月	大阪大学榮譽教授
1989年7月	Scripps 研究所免疫学部助教授		

【受賞歴】

1986年7月	Lucille P. Markey Award for Biomedical Science	2012年5月	米国 National Academy of Sciences 外国人会員
2003年11月	持田記念学術賞	2015年1月	Maharshi Sushruta Award (India)
2004年6月	Cancer Research Institute's 2004 William B. Coley Award	2015年5月	中日文化賞 トムソン・ロイター引用栄誉賞
2005年11月	武田医学賞	2015年9月	Gairdner International Award (Canada)
2005年12月	高峰記念三共賞	2015年10月	吹田市長賞 Crafoord Prize (Sweden)
2007年4月	文部科学大臣表彰科学技術賞	2015年11月	文部科学省 文化功労者 顕彰 食創会 「安藤百福賞」 大賞
2008年3月	上原賞	2017年5月	
2008年11月	慶應医学賞	2017年10月	
2009年11月	紫綬褒章	2018年3月	
2012年1月	朝日賞		
2012年3月	日本学士院賞		

【所属学会】

日本免疫学会、日本癌学会、日本リウマチ学会、日本分子生物学会、アメリカ免疫学会 (American Association of Immunologists)

【学術誌編集】

Science (Reviewing Editor)
Journal of Experimental Medicine (Advisory Editor),
Immunity (Editorial Board)
International Immunology (Associate Editor)
International Journal of Cancer (Editorial Board)
Immunological Reviews (Editorial Board),
Journal of Experimental Pathology (Advisory Editor)
Cancer Immunology Research (Editorial Board)
European Journal of Immunology (Deputy Chairman of Executive Committee)
OncoImmunology (Editorial Board)
eLife (Editorial Board)

共催 青藍会
医学科

青藍会館利用案内

徳島大学医学部青藍会館の宿泊、会議室の利用について

1. 青藍会館は次のような場合に利用することができます。

- ①徳島大学の職員が研修、会議及びレクリエーション等を行う場合
- ②徳島大学の学生が文化行事等を行う場合
- ③徳島大学の卒業生が卒後研修及び生涯教育等のため会議を行う場合
- ④徳島大学に教育研究のため来学したものが宿泊する場合
- ⑤徳島大学の職員が宿泊する場合
- ⑥徳島大学の学生が宿泊する場合
- ⑦その他医学部長が特に必要があると認めた者が会議又は宿泊等をする場合

2. 会議室

インターネット接続可能

- ①大会議室 75席
マイク及びプロジェクタ（VGA 端子）使用可能
- ②小会議室 20席
内装をリニューアルしました。



大会議室



小会議室

3. 宿泊室

洋室 3室（定員各 1名）

インターネット接続可能



洋室（バス・トイレ付）

4. 利用申込みについて

- ①青藍会事務室にて予約（電話088-633-7109 内線：2601）

部屋の空き具合を確認の上、予約をしてください。

- ②青藍会事務室に利用許可願を提出

利用許可願は、原則として利用日の 5 日前までに提出してください。
会議室を利用する場合は、案内書またはプログラムなど（日時・場所が入っているもの）の写しを添付してください。

- ③有料の場合は、藏本事務部医学部総務課管理係より利用許可書を受領し、会計課経理係（医学基礎 A 棟 1 階）に料金を納入
利用料金は、利用日の 2 日前までに前納してください。

- ④青藍会事務室で部屋の鍵の受取り及び返却方法

利用者（又は申込者）は、利用許可書を青藍会事務室に持参し、鍵を受け取り、利用終了時には青藍会事務室に返却してください。

また、宿泊利用者（又は申込者）は、利用当日の15時から16時までの間に鍵を受け取り、翌日（勤務日）の10時に青藍会事務室へ返却してください。

なお、利用日が休日の時は、前日の勤務日に鍵を受領してください。

【利 用 料 金 表】

区 分	利 用 料
会 議 室	大会議室 1,400円
	小会議室 700円
宿 泊 室	3,400円
展示コーナー・ロビー	700円

(注1) 消費税は利用料金に含まれています。

(注2) 会議室及び展示コーナー・ロビーの利用料は4時間以内の料金とし、4時間を超え8時間以内の場合は2倍、8時間を超える場合は3倍とします。

青藍会館利用状況

平成29年度 ゲストルーム・会議室利用状況

ゲストルーム				会議室								
利用月	利用者数	利用者別		利用回数			利用目的別利用回数					
		他大学	その他	大	小	計	行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
4	54	47	7	3	4	7		2	1	4		
5	35	32	3	4	6	10	4	3	1	2		
6	53	30	23	1	1	2		1		1		
7	29	25	4	5	3	8		2	4	2		
8	64	50	14	7	1	8	2		3	3		
9	27	27		5	2	7		2	3			2
10	12	9	3	7	2	9		2	5			2
11	78	37	41	10	5	15	4	3	4			4
12	6	6		3	2	5			3	2		
1	20	20		8	1	9		1	3			5
2	24	18	6	6	7	13		5	5	2		1
3	11	6	5	6	4	10	3	4	1	2		
計	413	307	106	65	38	103	13	25	33	18		14

29年10月分

ゲストルーム				会議室							
区分	利用者数	利用者別		区分	利用回数	利用目的別利用回数					
		他大学	その他			学内行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
1号室	2	1	1	大会議室	7		2	3			2
2号室	5	4	1								
3号室	5	4	1	小会議室	2			2			
合計	12	9	3			合 計	9	2	5		2

11月分

ゲストルーム				会議室							
区分	利用者数	利用者別		区分	利用回数	利用目的別利用回数					
		他大学	その他			学内行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
1号室	19	7	12	大会議室	10	2	1	3			4
2号室	29		29								
3号室	30	30		小会議室	5	2	2	1			
合計	78	37	41			合 計	15	4	3	4	4

12月分

ゲストルーム			会議室								
区分	利用者数	利用者別		区分	利用回数	利用目的別利用回数					
		他大学	その他			学内行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
1号室				大会議室	3			2	1		
2号室	3	3						1	1		
3号室	3	3		小会議室	2						
合計	6	6				合 計	5		3	2	

30年1月分

ゲストルーム			会議室								
区分	利用者数	利用者別		区分	利用回数	利用目的別利用回数					
		他大学	その他			学内行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
1号室				大会議室	8			3			5
2号室	13	13									
3号室	7	7		小会議室	1		1				
合計	20	20				合 計	9	1	3		5

2月分

ゲストルーム			会議室								
区分	利用者数	利用者別		区分	利用回数	利用目的別利用回数					
		他大学	その他			学内行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
1号室	5	1	4	大会議室	6		1	3	1		1
2号室	17	17						4	2	1	
3号室	2		2	小会議室	7						
合計	24	18	6			合 計	13	5	5	2	

3月分

ゲストルーム			会議室								
区分	利用者数	利用者別		区分	利用回数	利用目的別利用回数					
		他大学	その他			学内行事	会議	研究会	講演会	卒業生	学生
1号室	5	5		大会議室	6	3	1	1	1		
2号室	4		4						1		
3号室	2	1	1	小会議室	4		3		1		
合計	11	6	5			合 計	10	3	4	1	2

ゲストルーム利用状況内容

自 平成29年10月
至 平成30年3月

申込者所属部局	利用者数	各 月 内 訳					
		10	11	12	1	2	3
医 学 部	61	11	31	6		7	6
病 院	29		29				
先 端 酵 素 学 研 究 所	12				7		5
埋 藏 文 化 財 調 査 室	1	1					
蔵 本 事 務 部	48		18		13	17	
計	151	12	78	6	20	24	11

会議室利用状況内容

自 平成29年10月
至 平成30年3月

月	利 用 者	会議室	人員	会 議 等 名
10	予防環境栄養学分野 予防環境栄養学分野 細胞・免疫解析学分野 精神医学分野 組織再生制御学分野 倚山会田岡病院 疾患治療栄養学分野	大 大 大 大小 大 大 大小	30 53 18 30 10 50 10 50 10	LED 報告会 管理栄養士国家試験対策模擬試験 臨床検査技師国家試験模擬試験 EGUIDE 講習 蔵本免疫懇話会 第2回徳島大学古流剛柔流空手道部蔵本地区 OB・OG 会 徳島県栄養士会生涯教育
11	予防環境栄養学分野 助産学分野 細胞・免疫解析学分野 疾患治療栄養学分野 産学連携・研究推進課 精神医学分野 予防環境栄養学分野 人 事 課	大 小 大 大小 大小 大 大 大小	50 7 18 50 10 30 10 30 53 60 10	ライフオブティクス研究 PJ 発表会 国際助産師の日事業促進会役員会 臨床検査技師国家試験模擬試験（3日間） 徳島県栄養士会生涯教育 大鵬薬品工業株との基礎研究協定に基づく共同研究中間報告会及び協議会 第10回実践に役立つアセスメント研究会 管理栄養士国家試験対策模擬試験 平成29年度国立大学法人徳島大学永年勤続者表彰式（2日間）
12	アストラゼネカ株式会社 耳鼻咽喉科学分野 生体栄養学分野	大小 大小 大	60 10 40 10 20	あけぼの徳島乳がん講演会 第11回徳島耳鼻咽喉科外来診療研究会 第51期生生体栄養学分野卒業論文発表会
1	細胞・免疫解析学分野 先端酵素学研究所 助産学分野 医学部学務課 予防環境栄養学分野 精神医学分野	大 大 小 大 大 大	18 50 8 50 53 30	臨床検査技師国家試験模擬試験（3日間） 蔵本免疫懇話会 国際助産師の日事業促進会役員会 修士論文看護学領域助産実践コース公開審査 管理栄養士国家試験対策模擬試験 第11回実践に役立つアセスメント研究会

月	利 用 者	会議室	人員	会 議 等 名
1	疾患治療栄養学分野	大	50	徳島県栄養士会生涯教育
2	細胞・免疫解析学分野 青 藍 会 細胞・免疫解析学分野 放 射 線 医 学 分 野 薬 理 学 分 野 大塚製薬株式会社 先端酵素学研究所 助 産 学 分 野 臨 床 神 経 科 学 分 野	小 小 大 大 小 大 大 小 大 大 小	10 17 18 30 10 30 100 15 40 8 30 10	平成29年度健康食品管理士会徳島県部会役員会（2日間） 青藍会講演会実行委員会 臨床検査技師国家試験模擬試験 第39回日本東洋医学会徳島県部会学術講演会 第3回徳島大学 MD-PhD 同窓会総会・近況報告会 第20回徳島脳卒中研究会 蔵本免疫懇話会 国際助産師の日事業促進会役員会 第14回徳島神経懇話会（神経内科同門会）
3	青 藍 会 細胞・免疫解析学分野 放射線総合センター 実 践 栄 養 学 分 野 神 経 内 科 助 産 学 分 野 産学連携・研究推進課	小 小 大 大 大 小 小 大	20 20 50 30 80 10 8 30	青藍会役員会 平成29年度第2回健康食品管理士会四国支部幹事会 放射線業務従事者再教育訓練（3日間） 蔵本免疫懇話会 徳島補聴研究会 年度末特別講演会 国際助産師の日事業促進会役員会 大鵬薬品工業(株)との基礎研究協定に基づく共同研究成果報告会

統計資料

医学部・教育部学生現員表

医学部現員表

学年	学科・専攻等	定員	男	女	計
1 医学科		114	73	51	124
医科栄養学科		50	5	45	50
保健学科看護学専攻		70	2	72	74
保健学科放射線技術科学専攻		37	26	13	39
保健学科検査技術科学専攻		17	9	9	18
計		288	115	190	305
2 医学科		114	79	51	130
医科栄養学科		50	6	45	51
保健学科看護学専攻		70	1	70	71
保健学科放射線技術科学専攻		37	28	12	40
保健学科検査技術科学専攻		17	3	16	19
計		288	117	194	311
3 医学科		114	91	39	130
医科栄養学科		50	6	43	49
保健学科看護学専攻		70	6	71	77
保健学科放射線技術科学専攻		37	32	9	41
保健学科検査技術科学専攻		17	7	12	19
計		288	142	174	316
4 医学科		114	69	44	113
医科栄養学科		50	4	46	50
保健学科看護学専攻		70	2	76	78
保健学科放射線技術科学専攻		37	32	8	40
保健学科検査技術科学専攻		17	5	12	17
計		288	112	186	298
5 医学科		114	60	40	100
計		114	60	40	100
6 医学科		114	83	41	124
計		114	83	41	124
合 計		1380	629	825	1,454

平成30年4月1日現在

医学部現員表

学年	学科・専攻等	定員	男	女	計
1 医学科		114	73	51	124
医科栄養学科		50	5	45	50
保健学科看護学専攻		70	2	72	74
保健学科放射線技術科学専攻		37	26	13	39
保健学科検査技術科学専攻		17	9	9	18
計		288	115	190	305
2 医学科		114	79	51	130
医科栄養学科		50	6	45	51
保健学科看護学専攻		70	1	70	71
保健学科放射線技術科学専攻		37	28	12	40
保健学科検査技術科学専攻		17	3	16	19
計		288	117	194	311
3 医学科		114	91	39	130
医科栄養学科		50	6	43	49
保健学科看護学専攻		70	6	71	77
保健学科放射線技術科学専攻		37	32	9	41
保健学科検査技術科学専攻		17	7	12	19
計		288	142	174	316
4 医学科		114	69	44	113
医科栄養学科		50	4	46	50
保健学科看護学専攻		70	2	76	78
保健学科放射線技術科学専攻		37	32	8	40
保健学科検査技術科学専攻		17	5	12	17
計		288	112	186	298
5 医学科		114	60	40	100
計		114	60	40	100
6 医学科		114	83	41	124
計		114	83	41	124
合 計		1380	629	825	1,454

平成30年4月1日現在

学年	学科・専攻等	定員	男	女	計
1 医科学教育部(修士課程)	医科学専攻 修士課程 計	10	0	0	0
2 医科学教育部(修士課程)	医科学専攻 修士課程 計	10	0	0	0
合 計	合 計	20	0	0	0

平成30年4月1日現在

学年	学科・専攻等	定員	男	女	計
1 医科学教育部(博士課程)	医学専攻 博士課程 計	51	0	0	0
2 医科学教育部(博士課程)	医学専攻 博士課程 計	51	0	0	0
3 医科学教育部(博士課程)	医学専攻 博士課程 計	51	0	0	0
4 医科学教育部(博士課程)	医学専攻 博士課程 プロティクス医科学専攻 博士課程 計	51	0	0	0
合 計	MD PhD コース(内数)	204	0	0	(0) (0) (0)

平成30年4月1日現在

医学部卒業（修了）者数

区分	年度別	平成2 年以前		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	計
		医学生科	栄養学科	3,318	102	104	87	101	98	89	98	95	91	89	100	90	89	99	83	92	89	103	98	94	88	84	100	97	97	113	108
医学部	医科学	1,116	45	48	51	51	52	53	51	54	49	48	50	49	49	52	51	47	52	52	47	49	46	48	49	54	54	4	2,416		
栄養学	医科学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46		
計	計	4,434	147	152	138	152	150	142	149	146	145	138	148	140	138	148	135	143	136	155	150	141	137	130	148	145	146	167	158	8,358	
医学専攻科	栄養学	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	
博	生理系	105	2	3	2	6	1	4	3	1	2	1	3	9	8	7	4	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	164
課	病理系	69	2	2	2	3	1	2	2	3	7	4	3	3	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112
程	社会医学系	27	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	38	
修	内科系	109	4	5	5	4	4	13	20	6	8	6	15	19	12	8	12	8	2	1	4	2	0	1	1	0	0	0	0	269	
士	外科系	156	8	5	5	12	5	5	6	6	9	10	7	5	16	10	6	8	9	2	5	2	0	1	3	0	0	0	0	303	
医	了	医学者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	397	
学	医学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	76	
論	著	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	397	
文	提出者	1,144	38	48	50	51	55	41	46	37	49	14	14	23	35	14	20	33	8	12	4	4	3	0	2	1	0	5	1,755		
論	提出者	1,610	54	63	65	76	66	77	53	75	35	45	60	78	41	67	80	49	55	57	42	43	41	49	36	46	44	41	3,114		
博士	課程修了者	62	2	1	1	6	1	3	3	9	3	5	8	4	3	4	12	10	15	7	10	15	12	10	13	7	6	9	15	256	
論	文提出者	24	2	3	4	4	5	1	5	7	5	4	6	5	4	0	3	0	1	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	93	
論	論	計	86	4	4	5	10	6	4	8	16	8	10	12	10	8	8	12	13	15	7	11	15	14	11	14	8	6	9	15	349
修士	(医科学)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	163	
修士	(栄養学)	210	14	12	15	21	18	22	18	16	19	15	21	30	24	26	21	30	31	20	21	22	26	28	31	24	22	33	23	813	

平成30年度 徳島大学医学部入学試験（医学科）合格者・入学者状況調

1. 合格者

定員 (募集人員)	志願者 数	受験者 数	合格者 数	合 格 者 内 訳									
				男	女	県内・県外等	現 役・浪 人				入 学 辞 退		
		男子	女子	県内	県外	海外	その他	現役	1浪	2浪	3浪	4浪 以上	その他
推薦	42	105 (86)	85	42	20	22	29	13	0	28	14	0	0
前期	72	202 (194)	159	73	46	27	6	67	0	32	22	9	4
私費	若干	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	114	307	244	115	66	49	35	80	0	60	36	9	4

注1：() 内は第一段階選抜合格者

注2：前期日程合格者73名には追加合格者1名含む。

2. 入学者

定員 (募集人員)	入学者 数	入 学 者 内 訳											
		男	女	県内・県外等	現 役・浪 人								
		男子	女子	県内	県外	海外	その他	現役	1浪	2浪	3浪	4浪 以上	その他
推薦	42	42	20	22	29	13	0	28	14	0	0	0	0
前期	72	72	45	27	6	66	0	32	21	9	4	6	0
私費	若干	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	114	114	65	49	35	79	0	60	35	9	4	6	0

3. 入学者の都道府県等別

都道府県	人 数	(男子)	(女子)
茨 城	2	1	1
東 京	2	2	0
神 奈 川	1	1	0
福 井	1	1	0
長 野	1	1	0
愛 知	1	1	0
京 都	4	2	2
大 阪	16	9	7
兵 庫	23	13	10
奈 良	3	3	0
和 歌 山	3	2	1
岡 山	7	3	4
広 島	4	3	1
德 島	35	18	17
香 川	5	2	3
愛 媛	2	1	1
高 知	1	0	1
長 崎	1	1	0
福 岡	1	0	1
沖 縄	1	1	0
そ の 他	0	0	0
合 計	114	65	49

医師国家試験年度別合格調査

年度	回 試験日	徳島大学			徳島大学新卒			徳島大学既卒			全国平均合格率(総数)	備考
		受験者	合格者	%	受験者	合格者	%	受験者	合格者	%		
29	112回 30.2.10,11	118	104	88.1	108	98	90.7	10	6	60.0	39	91.2
28	111回 29.2.11~13	122	112	91.8	113	107	94.7	9	5	55.6	18	90.7
27	110回 28.2.6~8	108	99	91.7	97	93	95.9	11	6	54.5	13	91.7
26	109回 27.2.7~9	110	98	89.1	97	92	94.8	13	6	46.2	21	91.8
25	108回 26.2.8~10	110	96	87.3	100	92	92.0	10	4	40.0	34	91.5
24	107回 25.2.9~11	96	86	89.6	84	79	94.0	12	7	58.3	25	90.7
23	106回 24.2.11~13	98	87	88.8	88	85	96.6	10	2	20.0	14	90.5
22	105回 23.2.12~14	99	89	89.9	93	85	91.4	6	4	66.7	31	90.4
21	104回 22.2.13~15	106	99	93.4	98	94	95.9	8	5	62.5	10	90.9
20	103回 21.2.14~16	115	105	91.3	103	98	95.1	12	7	58.3	24	92.1
19	102回 20.2.16~18	104	92	88.5	89	85	95.5	15	7	46.7	35	91.6
18	101回 19.2.17~19	105	91	86.7	92	84	91.3	13	7	53.8	32	90.3
17	100回 18.2.18~20	89	76	85.4	83	73	88.0	6	3	50.0	40	90.6
16	99回 17.2.19~21	108	102	94.4	98	96	98.0	10	6	60.0	8	90.6
15	98回 16.3.20~22	98	87	88.8	89	82	92.1	9	5	55.6	28	90.3
14	97回 15.3.15~17	104	95	91.3	90	88	97.8	14	7	50.0	23	91.4
13	96回 14.3.16~18	105	91	86.7	99	90	90.9	6	1	16.7	42	92.1
12	95回 13.3.17~19	102	96	94.1	88	86	97.7	14	10	71.4	14	92.4
11	94回 12.3.18~19	103	86	83.5	91	80	87.9	12	6	50.0	17	82.4
10	93回 11.3.20~21	110	98	89.1	95	91	95.8	15	7	46.7	12	87.1
9	92回 10.3.21~23	105	90	85.7	98	86	87.8	7	4	57.1	40	90.5
8	91回 9.3.15~16	100	93	93.0	89	84	94.4	11	9	81.8	10	89.4
7	90回 8.3.16~17	111	100	90.1	98	92	93.9	13	8	61.5	26	91.5
6	89回 7.3.18~19	115	102	88.7	101	92	91.1	14	10	71.4	22	89.7
5	88回 6.3.19~20	107	92	86.0	87	83	95.4	20	9	45.0	28	88.4

平成29年度 徳島大学医学部医学科卒業生の勤務地調（都道府県別）

都道府県名	人 数	都道府県名	人 数
北海道	4	兵庫県	12
埼玉県	1	和歌山県	1
千葉県	3	岡山県	6
東京都	4	広島県	3
神奈川県	1	徳島県	36
石川県	2	香川県	3
岐阜県	1	愛媛県	1
愛知県	2	熊本県	1
京都府	5	大分県	1
大阪府	8	沖縄県	2
		計	97

平成29年度 患者数の状況

医事課

診療月	入院患者延数	病床稼働率			外来患者延数	外来診療日数	一日当たり外来患者延数		
		前年度	今年度	差引			前年度	今年度	差引
4月	17,138	79.2	79.1	-0.1	26,965	20	1,341	1,348	7
5月	16,757	76.0	74.8	-1.2	28,159	20	1,354	1,408	54
6月	17,701	83.5	81.5	-2.0	30,422	22	1,340	1,383	43
7月	18,343	82.5	82.0	-0.5	29,177	20	1,384	1,459	75
8月	17,975	80.2	80.0	-0.2	30,325	22	1,330	1,378	48
9月	17,469	77.2	80.5	3.3	28,464	20	1,363	1,423	60
10月	17,928	77.9	79.8	1.9	29,648	21	1,395	1,412	17
11月	17,575	81.7	81.2	-0.5	28,021	20	1,357	1,401	44
12月	17,702	76.0	78.4	2.4	30,029	20	1,478	1,501	23
1月	16,742	75.3	75.3	0.0	27,853	19	1,396	1,466	70
2月	17,157	81.4	84.8	3.4	27,411	19	1,332	1,443	111
3月	18,575	82.4	82.4	0.0	30,991	21	1,385	1,476	91
累計	211,062	79.4	79.9	0.5	347,465	244	1,370	1,424	54
月平均	17,589				28,955	20.3	1,370	1,424	54

※病床稼働率は、厚労省方式

平成30年度 新規卒業生臨床研修者数

(平成30年4月1日現在)

出身大学	
徳大出身	他大学出身
18人	4人

編 集 後 記

過日、スポーツ精神に相反する様なショッキングなニュースが日本中を駆け巡った。アメフトの試合中、ボールを持ってない選手にタックルをして怪我を負わせたのだ。

そもそもスポーツ(Sports)とは何か？言葉の語源を遡ってみると、若干ラテン語から古代フランス語へと変化がみられるが、desportから考えるとわかりやすい。すなわち、des（離れる）+port（港で荷物を運ぶポーター、仕事、労働）であり、日々の生活から離れること、休養する、楽しむ、遊ぶ、気晴らしをするなどを意味していた。

その本質として、遊ぶ、楽しむが根底に存在するため、身体を動かすほかに、頭脳を使って遊ぶ囲碁や将棋、オセロなどもスポーツのカテゴリーに入る。さらに、趣味の釣りや乗馬、狩猟なども。たとえば、日本のスポーツ新聞には、バラエティに富むエンターテイメントがテンコ盛りだ。あのような媒体はなかなか外国にはみられない。

そもそも楽しみであったものが、わが国では、各種スポーツが厳しい環境や勝つためのスパルタ教育の中で発展してきたのではあるまい。その中では、個人の人格や気持ちの尊重よりも、組織やチームの体面がより重要となってしまう。この特異性も諸外国にはそれほどみられないようだ。

私が卒後米国のレジデンシーで臨床研修していたとき、社会的・文化的に地域の人々と関わる貴重な機会を得た。その際、誰もが好きなスポーツを楽しむ姿、高校アメフトチームの練習で学生たちがニコニコしながら練習する様子、毎週末アメフトの試合で子供たちの家族が楽しむ雰囲気などが印象的だったのを思い出す。

日本スポーツ協会のスポーツドクターとして、アイススケートやローラースケート、陸上競技などにも常々関わってきた。同協会の全国会議では素晴らしいレクチャーを受講できる。アメフトなどの怪我のリスクが特に高い種目では、障害のケースがあると直ちに議論し、怪我予防のためルールを変えてきた歴史をご存知だろうか。

私事で恐縮だが、徳島大学では準硬式野球部員で、その後も野球やスケート、陸上競技を現役で継続中である。常に体調管理を万端にして継続する事を大切に、ダッシュ力を保持してきた。15歳のとき100mを13.0秒で走り、59歳時13.1秒とマスターズ陸上で歴代県記録を樹立。この一瞬だけでも嬉しく今後の励みとなっている。モットーは「少しづつ続け、大きな怪我を避けること」。我が師（日野原重明先生）を目標に100歳超えを目指したい。また、スポーツに携わる誰もが健全な心身を持ち得て、よい人生を走り続けてほしいと願うばかりである。

医学部27期 板 東 浩

非 売 品
青 藍 会 会 報 第 91 号

平成30年6月8日印刷
平成30年6月13日発行

編 集 徳島大学医学部医学科同窓会青藍会

〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18-15
電話 (088) 633-7109 (内線2601)
FAX (088) 633-3180 (青藍会事務室)
E-Mail seiran@tokushima-u.ac.jp
URL <http://www.seirankai-tokushima.jp/>
振替 01680-4-8671
ゆうちょ銀行 一六九店 (169)
当座 0008671 青藍会

発行者 青藍会会长 桜井えつ

印刷所 株式会社教育出版センター
徳島市川内町平石流通団地27 電話 (088) 665-6060
